

2022年度
防災に関するアンケート調査
報告書

2023年6月
南アルプス市

目 次

I 調査のあらまし

1. 調査の概要

- (1) 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 調査の項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 調査の設計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (4) 配布・回収状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 回答者の属性

- (1) 性別・年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 居住地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (3) 在住期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (4) 同居家族・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (5) 住宅の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (6) 住宅の構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (7) 住宅の着工時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (8) 職業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

3. 報告書の記載について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

II 調査結果の分析

1. 南海トラフ地震などの大規模災害について

- (1) 南海トラフ地震や豪雨などの大規模災害への関心・・・・・・・・ 11
- (2) 大規模災害発生時の不安・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (3) 自宅周辺で発生する可能性が高い災害・・・・・・・・・・ 15

2. 住まいの防災対策について

- (1) 市の無料耐震診断・耐震改修費補助・・・・・・・・・・ 17
- (2) 住まいの防災対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- (3) 倒壊危険ありと判断された場合の耐震改修・・・・・・・・ 21
- (4) 耐震改修しない理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- (5) 家具・家電などの固定・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- (6) 固定が必要な家具・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- (7) 家具・家電などを固定していない理由・・・・・・・・ 29
- (8) 感震ブレーカーの設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

3. 大規模災害に対しての備えについて

- (1) 防災対策の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
- (2) 非常食の備蓄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
- (3) 非常用飲料水の備蓄・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
- (4) 食料・飲料水の不足分の確保・・・・・・・・・・・・ 39
- (5) 家庭での災害対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
- (6) 防災対策の情報源・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
- (7) 災害用伝言ダイヤル及び災害用伝言版・・・・・・・・ 46

4.	避難場所などについて	
(1)	市で指定された避難場所	48
(2)	(自宅から)避難する予定の場所	50
(3)	避難先への移動手段	52
(4)	豪雨時などの雨や河川の情報入手先	54
(5)	水災害時の避難する状況判断	56
5.	地域の防災体制について	
(1)	普段の近所づきあい	58
(2)	地域の自主防災組織	60
(3)	地域の自主防災活動への参加経験	62
(4)	地域の防災力を高めるために必要なこと	64
6.	災害時のボランティア活動について	
(1)	被災地でのボランティア活動への参加意向	66
7.	市の防災・災害対策について	
(1)	市に特に力を入れてほしい防災・災害対策	68
(2)	市の防災マップやハザードマップの所有	71
8.	その他	
(1)	市の防災・災害対策への自由意見	73
9.	アンケート結果のまとめ	82

I 調査のあらまし

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、市民の大規模地震や風水害に関する備えについての意見をうかがい、今後の防災対策を推進するための基礎資料とするために実施するものである。

(2) 調査の項目

- ① 南海トラフ地震などの大規模災害について
- ② 住まいの防災対策について
- ③ 大規模災害に対しての備えについて
- ④ 避難所などについて
- ⑤ 地域の防災体制について
- ⑥ 災害時のボランティア活動について
- ⑦ 市の防災・災害対策について
- ⑧ その他

(3) 調査の設計

- ① 調査地域 南アルプス市全体
- ② 調査対象 市内在住の満 18 歳以上の男女
住民基本台帳を旧 6 町村に分割し、各地区の人口に応じて標本数を配分して無作為に抽出（同一世帯からの抽出は 1 人）
- ③ 標本数 1,500 人
- ④ 調査方法 調査票郵送、インターネット回答
- ⑤ 調査期間 令和 5 年 1 月上旬 ～ 令和 5 年 1 月 31 日

(4) 配布・回収状況

- ① 有効回収数は 739 票、有効回収率は 49.3%であった。

2. 回答者の属性

(1) 性別・年齢

問3 1 あなたの性別を教えてください (○は1つ)
問3 2 あなたの年齢を教えてください (○は1つ)

- 性別は「男性」が 353 人 (47.8%)、「女性」が 356 人 (48.2%) であった。
- 年齢は「70 歳以上」が 26.5%と最も多く、次いで「60 歳代」が 22.9%と多くなっている

表 1：年齢構成【性別】

		問 3 2 (年齢)								
		10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	未回答	回答者数
上段：実数										
下段：%										
全 体		5	39	52	111	147	169	196	20	739
		0.7	5.3	7.0	15.0	19.9	22.9	26.5	2.7	100.0
問 3 1 (性別)	男 性	3	15	23	49	65	85	113	0	353
		0.9	4.2	6.5	13.9	18.4	24.1	32.0	0.0	100.0
	女 性	2	23	27	59	82	83	79	1	356
		0.6	6.5	7.6	16.6	23.0	23.3	22.1	0.3	100.0
	未回答	0	1	2	3	0	1	4	19	30
		0.0	3.3	6.6	10.0	0.0	3.3	13.4	63.4	100.0

(2) 居住地

問33 あなたのお住まいの地区はどちらですか？（○は1つ）

○ 居住地は「白根地区」が28.8%、「楡形地区」が25.4%、「若草地区」が16.5%、「甲西地区」が15.6%、「八田地区」が9.5%、「芦安地区」が1.1%であった。

表2：居住地【性別・年齢別】

問33 居住地									
上段：実数 下段：%		八	白	芦	若	楡	甲	未	回
		田	根	安	草	形	西	回	答
		地	地	地	地	地	地	答	者
		区	区	区	区	区	区	数	数
全 体		70	213	8	122	188	115	23	739
		9.5	28.8	1.1	16.5	25.4	15.6	3.1	100.0
問31 (性別)	男 性	29	140	6	51	85	41	1	353
		8.2	39.7	1.7	14.4	24.1	11.6	0.3	100.0
	女 性	40	71	1	69	101	72	2	356
		11.2	19.9	0.3	19.4	28.4	20.2	0.6	100.0
	未回答	1	2	1	2	2	2	20	30
		3.3	6.7	3.3	6.7	6.7	6.7	66.6	100.0
問32 (年齢)	10 歳代	0	0	1	2	2	0	0	5
		0.0	0.0	0.2	0.4	0.4	0.0	0.0	100.0
	20 歳代	6	2	1	6	13	11	0	39
		15.4	5.1	2.6	15.4	33.3	28.2	0.0	100.0
	30 歳代	8	2	1	11	15	15	0	52
		15.4	3.9	1.9	21.2	28.8	28.8	0.0	100.0
	40 歳代	16	25	1	14	40	15	0	111
		14.4	22.5	1.0	12.6	36.0	13.5	0.0	100.0
	50 歳代	9	49	0	30	35	24	0	147
		6.1	33.3	0.0	20.4	23.8	16.4	0.0	100.0
	60 歳代	20	51	3	26	45	23	1	169
		11.8	30.2	1.8	15.4	26.6	13.6	0.6	100.0
	70 歳以上	11	84	1	33	38	27	2	196
		5.6	42.9	0.5	16.8	19.4	13.8	1.0	100.0
未回答	0	0	0	0	0	0	20	20	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	

(3) 在住期間

問34 お住まいの地区には、どのくらいの期間住んでいますか？（○は1つ）

○ 在住期間は、「20年以上」が最も多く、72.5%となっている。

表3：在住期間【性別、年齢、居住地別】

		問34						
上段：実数 下段：%		2 年 未 満	2 年 以 上	5 年 以 上	1 0 年 以 上	2 0 年 以 上	未 回 答	回 答 者 数
全 体		25	30	37	89	536	22	739
		3.4	4.1	5.0	12.0	72.5	3.0	100.0
問31 (性別)	男性	9	6	16	38	282	2	353
		2.5	1.7	4.5	10.8	79.9	0.6	100.0
	女性	16	23	21	50	245	1	356
		4.5	6.5	5.9	14.0	68.8	0.3	100.0
	未回答	0	1	0	1	9	19	30
	0.0	3.3	0.0	3.3	30	63.4	100.0	
問32 (年齢)	10歳代	0	0	1	3	1	0	5
		0.0	0.0	0.2	0.6	0.2	0.0	100.0
	20歳代	5	8	3	4	19	0	39
		12.8	20.5	7.7	10.3	48.7	0.0	100.0
	30歳代	10	8	6	4	23	1	52
		19.2	15.4	11.5	7.7	44.3	1.9	100.0
	40歳代	8	5	18	34	46	0	111
		7.2	4.5	16.2	30.6	41.5	0.0	100.0
	50歳代	0	5	6	26	110	0	147
		0.0	3.4	4.1	17.7	74.8	0.0	100.0
	60歳代	1	3	2	12	151	0	169
		0.6	1.8	1.2	7.1	89.3	0.0	100.0
	70歳以上	1	1	1	5	185	3	196
		0.5	0.5	0.5	2.6	94.4	1.5	100.0
未回答	0	0	0	1	1	18	20	
	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0	90.0	100.0	
問33 (居住地)	八田地区	3	3	4	11	49	0	70
		4.3	4.3	5.7	15.7	70.0	0.0	100.0
	白根地区	1	1	1	27	183	0	213
		0.5	0.5	0.5	12.6	85.9	0.0	100.0
	芦安地区	0	0	3	0	5	0	8
		0.0	0.0	37.5	0.0	62.5	0.0	100.0
	若草地区	4	11	6	16	85	0	122
		3.3	9.0	4.9	13.1	69.7	0.0	100.0
	橿形地区	10	9	12	21	134	2	188
		5.3	4.8	6.4	11.2	71.2	1.1	100.0
	甲西地区	7	6	11	12	78	1	115
		6.1	5.2	9.6	10.4	67.8	0.9	100.0
	未回答	0	0	0	2	2	19	23
		0.0	0.0	0.0	8.7	8.7	82.6	100

(4) 同居家族

問35 同居のご家族には、どのような方がいらっしゃいますか？（○はいくつでも）

○ 同居家族としては、「75歳以上の家族がいる」が22.5%と最も多くなっている。

表4：同居家族【性別、年齢、居住地別】

問35（同居家族）												
上段：実数 下段：%	乳 幼 児	小 中 学 生	7 5 歳 以 上 の 方	介 護 の 必 要 な 方	し て い る 方	車 い す を 使 用 し て い る 方	時 要 配 慮 者	1 ～ 5 以 外 の 災 害	時 要 配 慮 者 は い な い	同 居 家 族 は い な い ・ 災 害	未 回 答	回 答 者 数
全 体	51 6.3	94 11.6	183 22.5	39 4.8	10 1.2	104 12.8	178 21.9	154 18.9	813 100.0			
問31（性別）	男 性	23 5.9	38 9.7	86 21.9	24 6.1	5 1.3	61 15.6	93 23.7	62 15.8	392 100.0		
		女 性	27 6.9	55 14.1	94 24.2	14 3.6	4 1.0	41 10.6	84 21.6	70 18.0	389 100.0	
	未回答	1 3.1	1 3.1	3 9.4	1 3.1	1 3.1	2 6.3	1 3.1	22 68.8	32 100.0		
問32 （年齢）	10歳代	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	1 0.0	5 100.0		
		20歳代	9 21.9	4 9.8	7 17.1	1 2.4	0 0.0	2 4.9	14 34.1	4 9.8	41 100.0	
	30歳代	14 21.9	12 18.8	7 10.9	5 7.8	2 3.1	9 14.1	9 14.1	6 9.3	64 100.0		
		40歳代	14 11.0	48 37.8	16 12.6	2 1.6	1 0.8	13 10.2	22 17.3	11 8.7	127 100.0	
	50歳代	1 0.6	4 2.5	40 25.5	13 8.3	1 0.6	15 9.6	51 32.5	32 20.4	157 100.0		
		60歳代	9 4.9	9 4.9	31 16.8	9 4.9	3 1.6	30 16.3	45 24.5	48 26.1	184 100.0	
	70歳以上	4 1.9	17 7.9	80 37.0	9 4.2	3 1.4	34 15.7	35 16.2	34 15.7	216 100.0		
		未回答	0 0.0	0 0.0	1 5.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	18 94.7	19 100.0	
	問33 （居住地）	八田地区	7 9.1	9 11.7	18 23.4	4 5.2	0 0.0	8 10.4	22 28.5	9 11.7	77 100.0	
			白根地区	6 2.5	22 9.3	65 27.6	13 5.5	1 0.4	33 14.0	47 19.9	49 20.8	236 100.0
芦安地区		0 0.0	1 8.3	3 25.0	2 16.7	2 16.7	0 0.0	3 25.0	1 8.3	12 100.0		
		若草地区	10 7.6	17 12.8	29 22.0	6 4.5	3 2.3	14 10.6	24 18.2	29 22.0	132 100.0	
楡形地区		18 8.8	29 14.2	46 22.5	5 2.5	2 1.0	21 10.3	54 26.5	29 14.2	204 100.0		
		甲西地区	10 7.7	16 12.3	21 16.2	9 6.9	2 1.6	28 21.5	28 21.5	16 12.3	130 100.0	
未回答		0 0.0	0 0.0	1 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	21 95.5	22 100.0		

(5) 住宅の種類

問36 あなたのお住まいは、どのような住宅ですか？（○は1つ）

○ 住宅の種類は「持ち家（戸建て）」が最も多く、88.8%を占めている。

表5：住宅の種類【性別、年齢、居住地別】

問36（住宅の種類）							
上段：実数 下段：%		持ち家 （戸建て）	持ち家 （マンション）	賃貸住宅	その他	未回答	回答者数
全 体		656	5	54	3	21	739
		88.8	0.7	7.3	0.4	2.8	100.0
問31（性別）	男 性	328	3	20	2	0	353
		92.9	0.8	5.7	0.6	0.0	100.0
	女 性	316	2	34	1	3	356
		88.8	0.6	9.5	0.3	0.8	100.0
未回答	12	0	0	0	18	30	
		40.0	0	0	0	60.0	100.0
問32 （年齢）	10歳代	4	0	1	0	0	5
		80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	100.0
	20歳代	30	0	9	0	0	39
		76.9	0.0	23.1	0.0	0.0	100.0
	30歳代	40	0	11	1	0	52
		76.9	0.0	21.2	1.9	0.0	100.0
	40歳代	95	2	11	2	1	111
		85.6	1.8	9.9	1.8	0.9	100.0
	50歳代	134	1	11	0	1	147
		91.1	0.7	7.5	0	0.7	100.0
	60歳代	164	0	5	0	0	169
		97.0	0.0	3.0	0.0	0.0	100.0
70歳以上	186	2	6	0	2	196	
	95.0	1.0	3.0	0.0	1.0	100.0	
未回答	3	0	0	0	17	20	
		15.0	0.0	0.0	0.0	85.0	100.0
問33 （居住地）	八田地区	63	0	5	1	1	70
		90.0	0.0	7.2	1.4	1.4	100.0
	白根地区	203	2	8	0	0	213
		95.3	0.9	3.8	0.0	0.0	100.0
	芦安地区	7	0	1	0	0	8
		87.5	0.0	12.5	0.0	0.0	100.0
	若草地区	112	1	9	0	0	122
		91.8	0.8	7.4	0.0	0.0	100.0
	楡形地区	170	1	15	1	1	188
		90.5	0.5	8.0	0.5	0.5	100.0
甲西地区	97	1	16	1	0	115	
	84.3	0.9	13.9	0.9	0.0	100.0	
未回答	4	0	0	0	19	23	
		17.4	0	0	0	82.6	100.0

(6) 住宅の構造

問37 住宅の構造は次のどれにあたりますか？ (○は1つ)

○ 住宅の構造は、「木造」が最も多く、79.3%を占めている。

表6：住宅の構造【性別、年齢、居住地別】

		問37 (住宅の構造)								
		木造	リート造	R C (鉄筋コンク)	コンクリート造	S R C (鉄骨鉄筋)	その他の非木造	わからない	未回答	回答者数
		上段：実数								
		下段：%								
全 体		586	39	33	16	41	24	739		
		79.3	5.3	4.5	2.2	5.5	3.2	100.0		
問31 (性別)	男 性	292	17	17	10	15	2	353		
		82.8	4.8	4.8	2.8	4.2	0.6	100.0		
	女 性	285	22	15	5	26	3	356		
	80.1	6.2	4.2	1.4	7.3	0.8	100.0			
	未回答	9	0	1	1	0	19	30		
		30.0	0.0	3.3	3.3	0.0	63.4	100.0		
問32 (年齢)	10歳代	3	0	1	0	1	0	5		
		60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	100.0		
	20歳代	22	4	3	0	10	0	39		
		56.4	10.3	7.7	0.0	25.6	0.0	100.0		
	30歳代	35	7	4	1	4	1	52		
		67.3	13.5	7.7	1.9	7.7	1.9	100.0		
	40歳代	85	8	5	1	11	1	111		
		76.6	7.2	4.5	0.9	9.9	0.9	100.0		
	50歳代	118	7	8	5	7	2	147		
		80.2	4.8	5.4	3.4	4.8	1.4	100.0		
60歳代	147	6	5	7	3	1	169			
	86.9	3.6	3.0	4.1	1.8	0.6	100.0			
70歳以上	174	7	7	2	5	1	196			
	88.7	3.6	3.6	1.0	2.6	0.5	100.0			
	未回答	2	0	0	0	0	18	20		
		10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	100.0		
問33 (居住地)	八田地区	55	4	4	2	5	0	70		
		78.6	5.7	5.7	2.9	7.1	0.0	100.0		
	白根地区	176	14	11	5	6	1	213		
		82.6	6.6	5.2	2.3	2.8	0.5	100.0		
	芦安地区	5	0	1	0	2	0	8		
		62.5	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	100.0		
	若草地区	104	6	3	2	6	1	122		
		85.3	4.9	2.5	1.6	4.9	0.8	100.0		
	楡形地区	146	11	9	7	12	3	188		
		77.6	5.9	4.8	3.7	6.4	1.6	100.0		
甲西地区	96	4	5	0	10	0	115			
	83.5	3.5	4.3	0.0	8.7	0.0	100.0			
	未回答	4	0	0	0	0	19	23		
		17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	82.6	100.0		

(7) 住宅の着工時期

問38 住宅の着工の日付はいつですか？ (○は1つ)

○ 住宅の着工時期は、建築基準法改正で耐震設計基準が見直された「昭和56年6月以降」が65.0%、「昭和56年5月以前」が23.1%となっている。

表7：住宅の着工時期【性別、年齢、住宅の種類別】

		問38 (住宅の着工時期)				
		5月以前 (1981年)	6月以降 (1981年)	わからない	未回答	回答者数
上段：実数						
下段：%						
全 体		171	480	52	36	739
		23.1	65.0	7.0	4.9	100.0
問31 (性別)	男 性	103	229	16	5	353
		29.2	64.9	4.5	1.4	100.0
	女 性	64	246	35	11	356
		18.0	69.1	9.8	3.1	100.0
	未回答	4	5	1	20	30
		13.3	16.7	3.3	66.7	100.0
問32 (年齢)	10歳代	0	4	1	0	5
		0.0	80.0	20.0	0.0	100.0
	20歳代	2	24	12	1	39
		5.1	61.5	30.8	2.6	100.0
	30歳代	7	39	6	0	52
		13.5	75.0	11.5	0.0	100.0
	40歳代	11	94	5	1	111
		9.9	84.7	4.5	0.9	100.0
50歳代	28	107	10	2	147	
	19.0	72.8	6.8	1.4	100.0	
60歳代	41	122	5	1	169	
	24.2	72.2	3.0	0.6	100.0	
70歳以上	80	90	13	13	196	
	40.9	45.9	6.6	6.6	100.0	
未回答	2	0	0	18	20	
	10.0	0.0	0.0	90.0	100.0	
問33 (住宅の種類)	持ち家(戸建て)	164	447	29	16	656
		25.0	68.2	4.4	2.4	100.0
	持ち家(マンション)	2	3	0	0	5
		40.0	60.0	0.0	0.0	100.0
	賃貸住宅	3	27	23	1	54
		5.5	50.0	42.6	1.9	100.0
その他	2	1	0	0	3	
	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	
未回答	0	2	0	19	21	
	0.0	9.5	0.0	90.5	100.0	

(8) 職業

問39 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

○ 職業は「会社員・公務員・団体職員」が33.8%と最も多く、次いで「無職」が17.6%となっている。

表8：職業【性別、年齢、居住地別】

		問39 (職業)									
上段：実数 下段：%		自 営 業	団 体 職 員	会 社 員 ・ 公 務 員	ア ル バ イ ト	家 事 専 業	学 生	無 職	そ の 他	未 回 答	回 答 者 数
全 体		101	250	112	73	12	130	28	33	739	
		13.6	33.8	15.1	9.9	1.6	17.6	3.9	4.5	100.0	
問31 (性別)	男 性	73	150	17	5	4	80	10	14	353	
		20.7	42.5	4.8	1.4	1.1	22.7	2.8	4.0	100.0	
	女 性	25	94	93	60	8	46	17	13	356	
		7.0	26.4	26.1	16.8	2.3	12.9	4.8	3.7	100.0	
未回答		3	6	2	8	0	4	1	6	30	
		10.0	20.0	6.6	26.7	0.0	13.4	3.3	20.0	100.0	
問32 (年齢)	10歳代	0	2	0	0	3	0	0	0	5	
		0.0	40.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	20歳代	0.0	24	2	3	9	0	0	1	39	
		0.0	61.5	5.1	7.7	23.1	0.0	0.0	2.6	100.0	
	30歳代	4	31	8	3	0	2	2	2	52	
		7.7	59.7	15.4	5.8	0.0	3.8	3.8	3.8	100.0	
	40歳代	8	72	18	6	0	3	2	2	111	
		7.2	64.9	16.2	5.4	0.0	2.7	1.8	1.8	100.0	
	50歳代	18	71	37	7	0	4	6	4	147	
		12.2	48.3	25.2	4.8	0.0	2.7	4.1	2.7	100.0	
	60歳代	26	41	32	17	0	40	6	7	169	
		15.4	24.2	18.9	10.1	0.0	23.7	3.6	4.1	100.0	
70歳以上	42	7	14	31	0	79	12	11	196		
	21.4	3.6	7.2	15.8	0.0	40.3	6.1	5.6	100.0		
未回答		3	2	1	6	0	2	0	6	20	
		15.0	10.0	5.0	30.0	0.0	10.0	0.0	30.0	100.0	
問33 (居住地)	八田地区	3	22	17	9	2	11	4	2	70	
		4.3	31.4	24.2	12.9	2.9	15.7	5.7	2.9	100.0	
	白根地区	46	62	24	13	1	44	13	10	213	
		21.6	29.1	11.2	6.1	0.5	20.7	6.1	4.7	100.0	
	芦安地区	2	4	0	1	1	0	0	0	8	
		25.0	50.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	100.0	
	若草地区	14	44	20	11	4	23	5	1	122	
		11.5	36.0	16.4	9.0	3.3	18.9	4.1	0.8	100.0	
	楡形地区	20	75	30	18	3	31	3	8	188	
		10.6	39.9	15.9	9.6	1.6	16.5	1.6	4.3	100.0	
甲西地区	13	40	20	15	1	19	3	4	115		
	11.3	34.8	17.4	13.0	0.9	16.5	2.6	3.5	100.0		
未回答		3	3	1	6	0	2	0	8	23	
		13.1	13.1	4.3	26.0	0.0	8.7	0.0	34.8	100.0	

3. 報告書の記載について

- 図や表中の比率は、小数点以下第2位を四捨五入したうえで、割合の合計が100.0%になるように調整している。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100%を超える場合がある。

Ⅱ 調査結果の分析

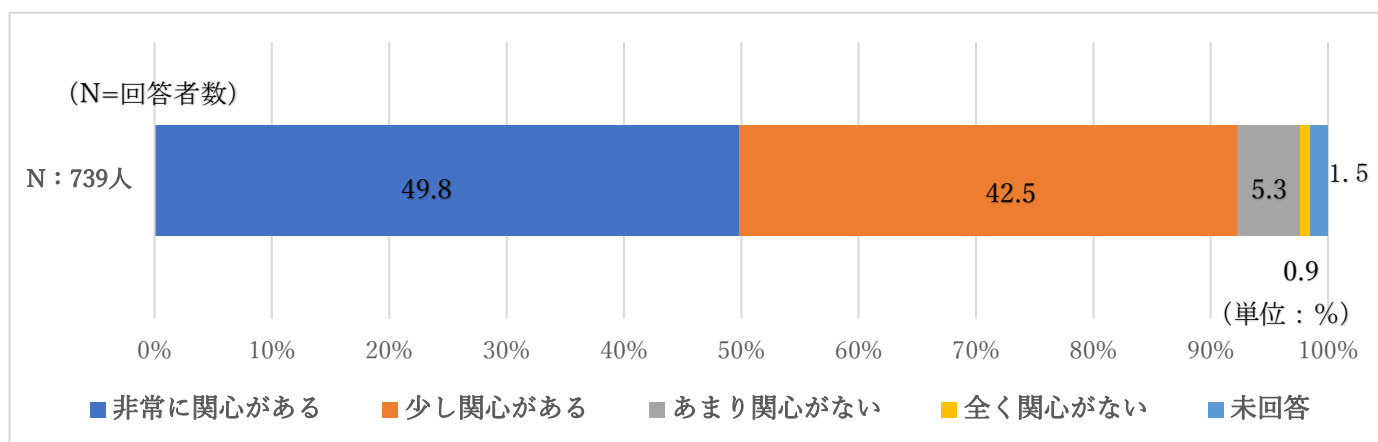
1. 南海トラフ地震などの大規模災害について

(1) 南海トラフ地震などの大規模災害への関心

問1 あなたは、南海トラフ地震や豪雨などの大規模災害の発生に関心がありますか？
(○は1つ)

- 南海トラフ地震等の大規模災害に「非常に関心がある」(49.8%)と「少し関心がある」(42.5%)を合わせ、92.3%の人が『関心がある』と答えており、圧倒的多数となっている。

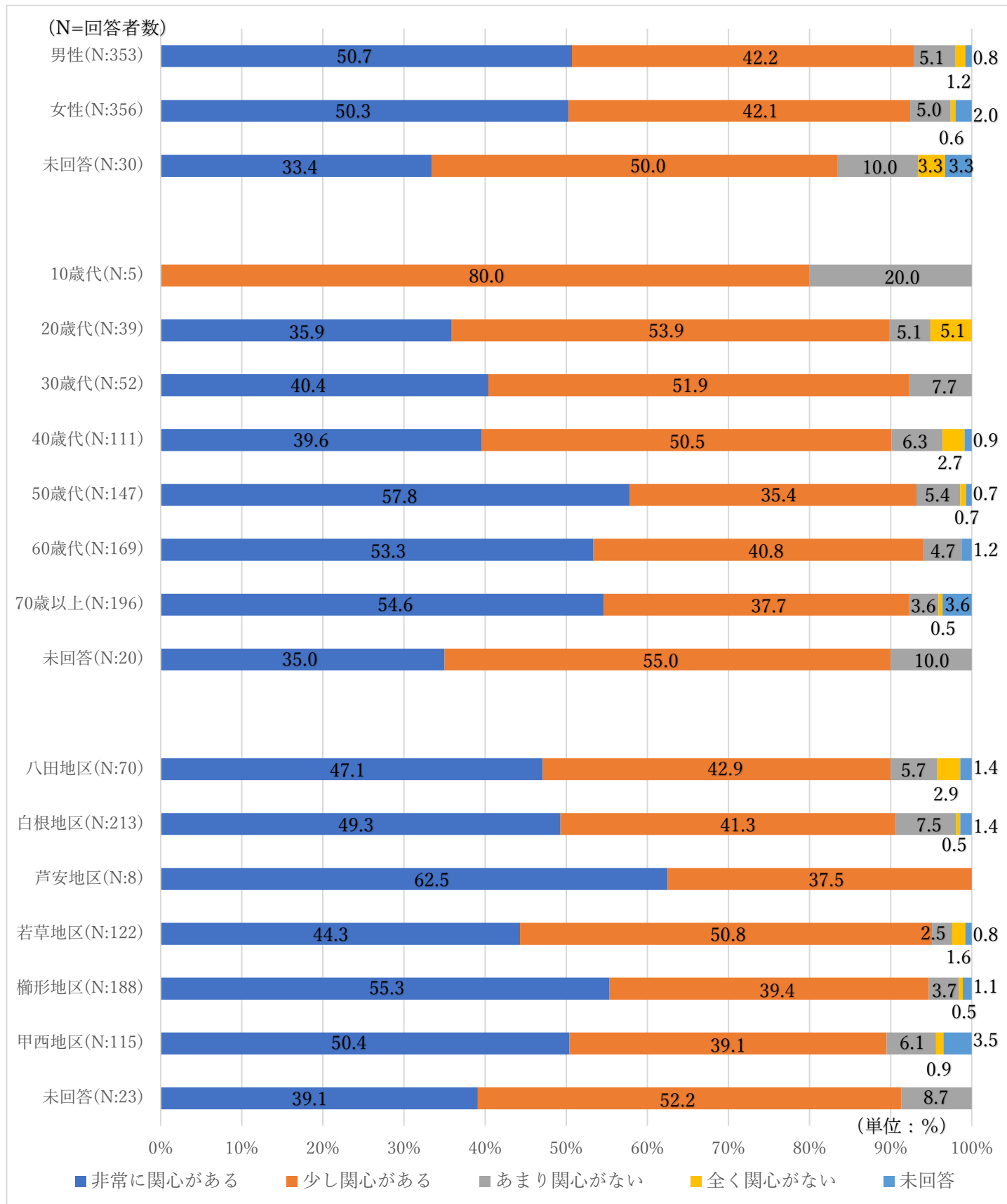
図1：南海トラフ地震等の大規模災害への関心



★ 南海トラフ地震等の大規模災害への関心【性別、年齢、居住地別】

- 年齢別にみると50歳代において「非常に関心がある」と答えた人の割合が57.8%と最も高くなっている。
- 居住地別にみると、芦安地区において「非常に関心がある」と答えた人の割合が62.5%と最も高くなっている。

図2：南海トラフ地震等の大規模災害への関心【性別、年齢別、居住地別】

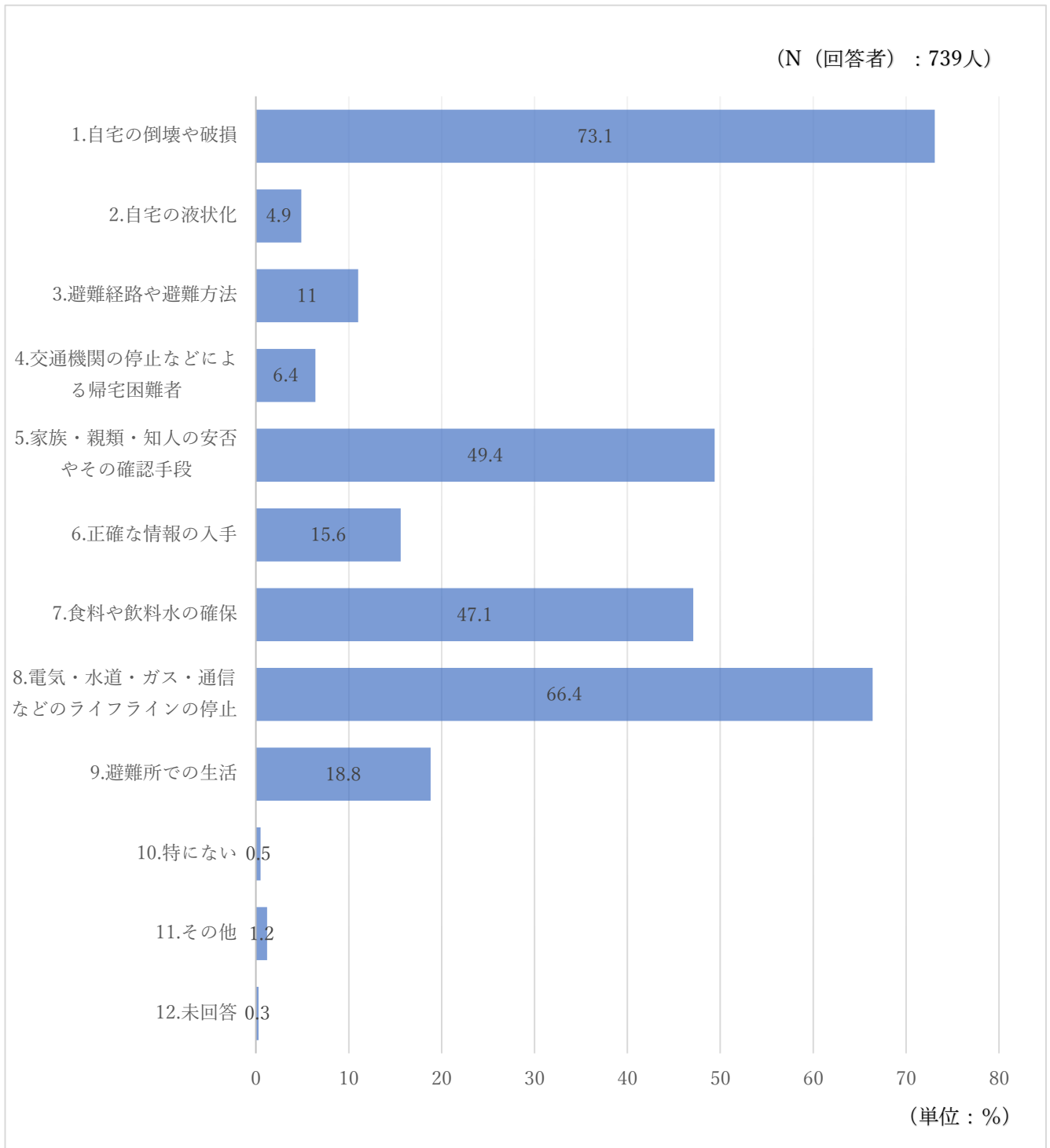


(2) 大規模災害発生時の不安

問2 南海トラフ地震等の大規模災害が発生した場合、不安や危険に思うことはなんですか？ (〇は3つまで)

- 大規模災害発生時の不安は、「自宅の倒壊や損壊」が最も多く、73.1%の人が不安に思っている。次いで「電気・水道・ガス・通信などのライフラインの停止」が66.4%と多くなっている。

図3：大規模災害発生時の不安



★ 大規模災害発生時の不安【性別、年齢、居住地別】

○ 性別・年齢・居住地ともに「自宅の倒壊や損壊」を不安に思う人が多く、次いで「電気・水道・ガス・通信などのライフラインの停止」となっている。

表 9：大規模災害発生時の不安【性別、年齢別、居住地別】（回答は3つまで）

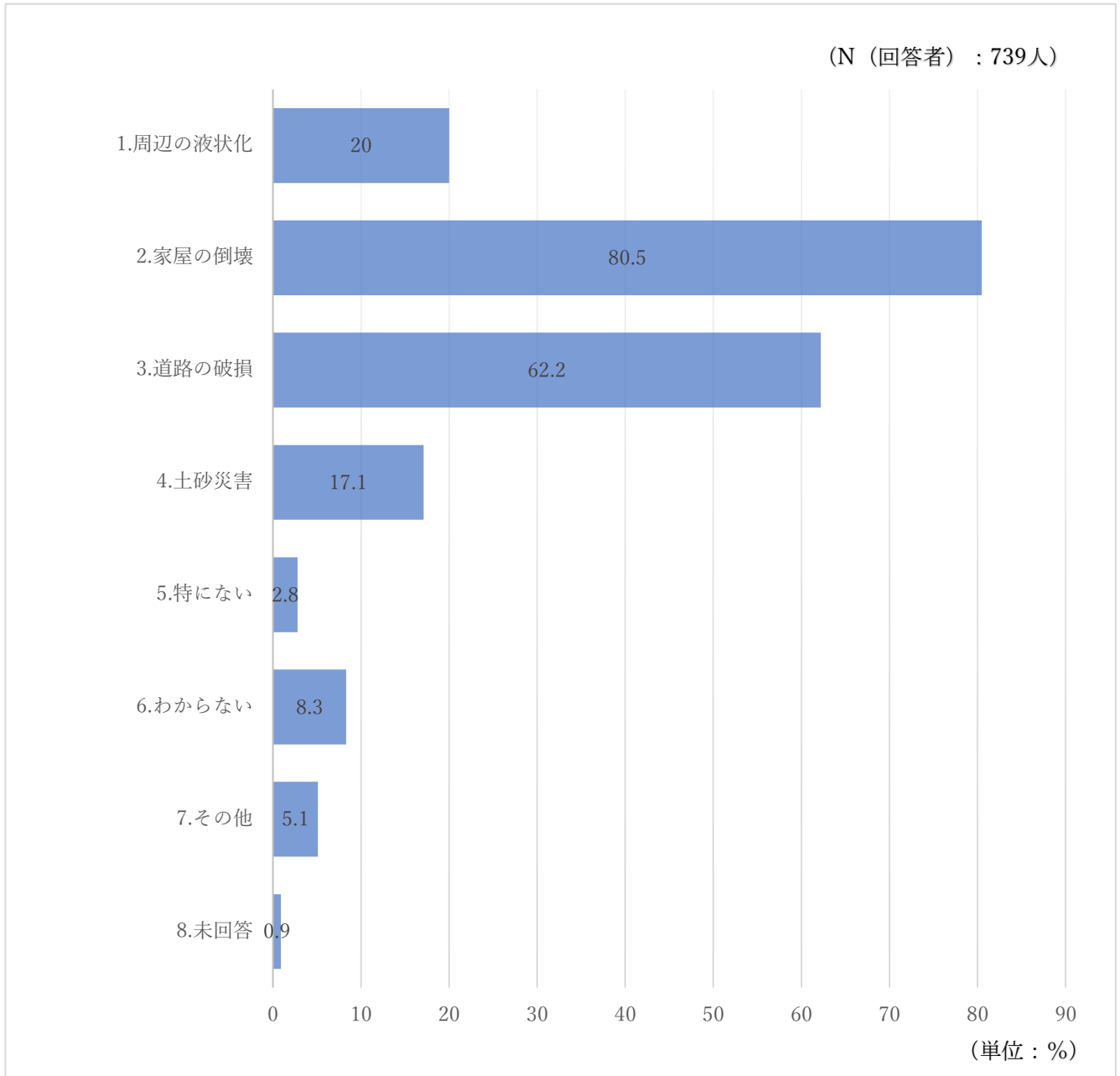
		回答者数	自宅の倒壊や損壊	自宅の液状化	避難経路や避難方法	交通機関の停止などによる帰宅困難者	家族・親族・知人の安否やその確認手段	正確な情報の入手	食料や飲料水の確保	電気・水道・ガス・通信などのライフラインの停止	避難所での生活	特になし	その他	未回答
単位：％ 回答者数：回答数（人）														
問 3 1 (性別)	男 性	353	68.6	5.1	8.2	5.9	44.1	15.0	50.1	64.9	17.6	0.6	0.8	0.3
	女 性	356	71.1	5.1	13.2	6.5	55.9	15.7	43.3	67.7	20.2	0.6	1.7	0.3
	未回答	30	50.0	0.0	16.7	10.0	33.3	20.0	56.7	70.0	16.7	0.0	0.0	0.0
問 3 2 (年齢)	10 歳代	5	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	60.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	20 歳代	39	64.1	2.6	15.4	5.1	56.4	15.4	46.2	53.8	30.8	2.6	0.0	0.0
	30 歳代	52	69.2	5.8	15.4	9.6	51.9	15.4	55.8	57.7	19.2	0.0	1.9	0.0
	40 歳代	111	64.9	6.3	13.5	8.1	55.0	9.9	56.8	59.5	15.3	0.0	2.7	0.0
	50 歳代	147	70.7	4.8	4.8	9.5	50.3	10.9	53.1	72.1	17.7	0.0	1.4	0.0
	60 歳代	169	79.3	4.1	7.7	4.1	50.3	23.1	43.2	71.6	13.6	0.0	0.6	0.6
	70 歳以上	196	79.6	5.6	13.3	4.6	43.4	15.3	36.7	66.8	23.5	1.5	1.0	0.5
	未回答	20	50.0	0.0	25.0	5.0	50.0	20.0	60.0	65.0	15.0	0.0	0.0	0.0
問 3 3 (居住地)	八田地区	70	82.9	1.4	12.9	10.0	51.4	12.9	41.4	60.0	15.7	1.4	0.0	0.0
	白根地区	213	73.7	3.3	10.3	6.1	47.9	14.6	46.9	69.0	15.5	0.5	1.4	0.0
	芦安地区	8	62.5	12.5	12.5	37.5	25.0	12.5	25.0	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	若草地区	122	77.0	9.8	9.0	7.4	46.7	14.8	45.1	66.4	20.5	0.0	0.8	0.0
	楡形地区	188	67.0	2.1	10.6	5.3	52.1	19.1	50.0	67.0	20.7	1.1	1.6	1.1
	甲西地区	115	76.5	8.7	11.3	3.5	50.4	13.9	48.7	60.0	23.5	0.0	1.7	0.0
	未回答	23	52.2	4.3	21.7	4.3	52.2	17.4	52.2	69.6	13.0	0.0	0.0	0.0

(3) 自宅周辺で発生する可能性が高い災害

問3 ご自宅やご自宅周辺地域で発生する可能性が高いと思う災害は何ですか。
(○は3つまで)

- 自宅周辺で発生する可能性が高いと思う災害としては、「家屋の倒壊」が80.5%と最も多く、次いで「道路の破損」が62.2%、「周辺の液状化」が20.0%となっている。

図4：自宅周辺で発生する可能性が高い災害



★ 自宅周辺で発生する可能性が高い災害【性別、年齢、居住地別】

○居住地別にみると、八田・若草・甲西地区で「周辺の液状化」が発生する可能性が高いと答えた人の割合が多く、芦安地区では「土砂災害」と答えた人の割合が多くなっている。

表 10：自宅周辺で発生する可能性が高い災害

単位：％ 回答者数：回答数（人）		回答者数	周辺の液状化	家屋の倒壊	道路の破損	土砂災害	特にない	わからない	その他	未回答
問 3 1 (性別)	男 性	353	21.5	83.0	64.6	16.4	4.0	5.7	5.4	0.6
	女 性	356	18.8	77.5	59.6	17.4	2.0	11.0	5.1	1.4
	未回答	30	16.7	86.7	66.7	20.0	0.0	6.7	3.3	0.0
問 3 2 (年齢)	10 歳代	5	20.0	60.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	20 歳代	39	23.1	61.5	38.5	23.1	0.0	20.5	7.7	0.0
	30 歳代	52	26.9	69.2	57.7	19.2	1.9	9.6	9.6	0.0
	40 歳代	111	18.9	79.3	60.4	22.5	0.9	7.2	3.6	0.0
	50 歳代	147	17.7	80.3	64.6	11.6	2.7	9.5	4.1	0.7
	60 歳代	169	18.3	84.0	67.5	18.9	4.1	5.3	5.9	1.8
	70 歳以上	196	21.9	85.2	62.8	13.3	4.1	7.1	5.1	1.5
	未回答	20	15.0	85.0	75.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0
問 3 3 (居住地)	八田地区	70	31.4	82.9	70.0	7.1	1.4	8.6	2.9	0.0
	白根地区	213	12.7	84.0	65.3	13.1	2.8	7.0	2.8	1.4
	芦安地区	8	0.0	87.5	75.0	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	若草地区	122	31.1	71.3	54.9	6.6	1.6	11.5	6.6	2.5
	櫛形地区	188	10.1	80.3	58.0	31.9	59.0	8.0	6.9	0.5
	甲西地区	115	33.0	81.7	64.3	12.2	0.9	7.8	7.8	0.0
	未回答	23	17.4	82.6	69.6	17.4	0.0	8.7	0.0	0.0

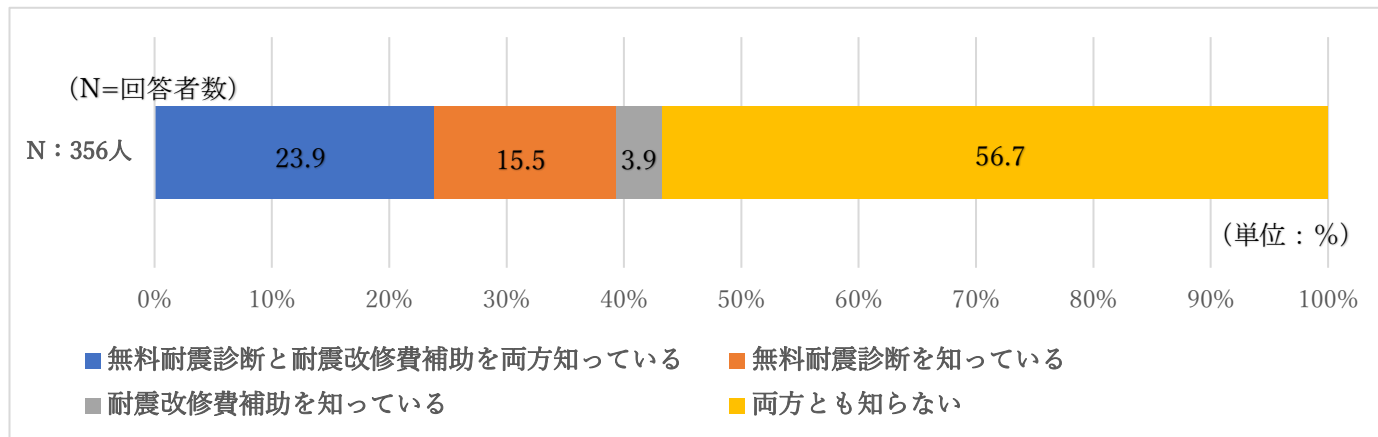
2. 住まいの防災対策について

(1) 市の無料耐震診断・耐震改修費補助

(昭和56年(1981)年5月以前着工の木造・戸建て持ち家にお住まいの方に伺います)
問4 市では、昭和56(1981)年5月以前に建てられた木造住宅(旧耐震基準で建築した住宅)の無料耐震診断や耐震改修費補助を行っています。あなたはこのことを知っていますか? (○は1つ)

○ 「両方知っている」が23.9%に対して、「両方とも知らない」は56.7%となっている。

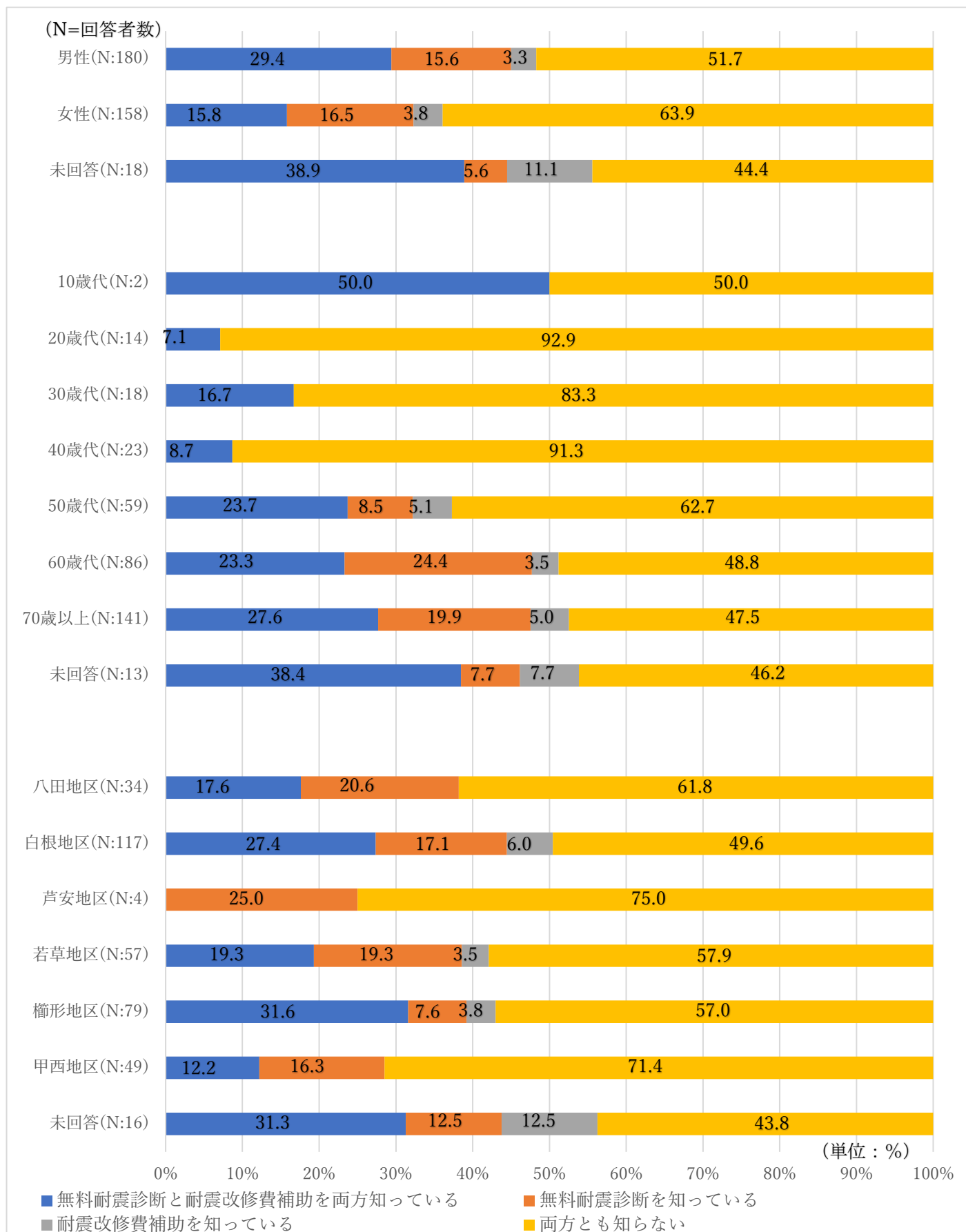
図5：市の無料耐震診断・耐震改修費補助



★ 市の無料耐震診断・耐震改修費補助【性別、年齢、居住地別】

○ 年齢別にみると、年齢が低いほど「両方とも知らない」の割合が高い傾向にあり、「両方とも知っている」が70歳以上の27.6%が最も高い割合となっている。

図6：市の無料耐震診断・耐震改修費補助【性別、年齢別、居住地別】



(2) 住まいの防災対策

(すべての方にかがいます)

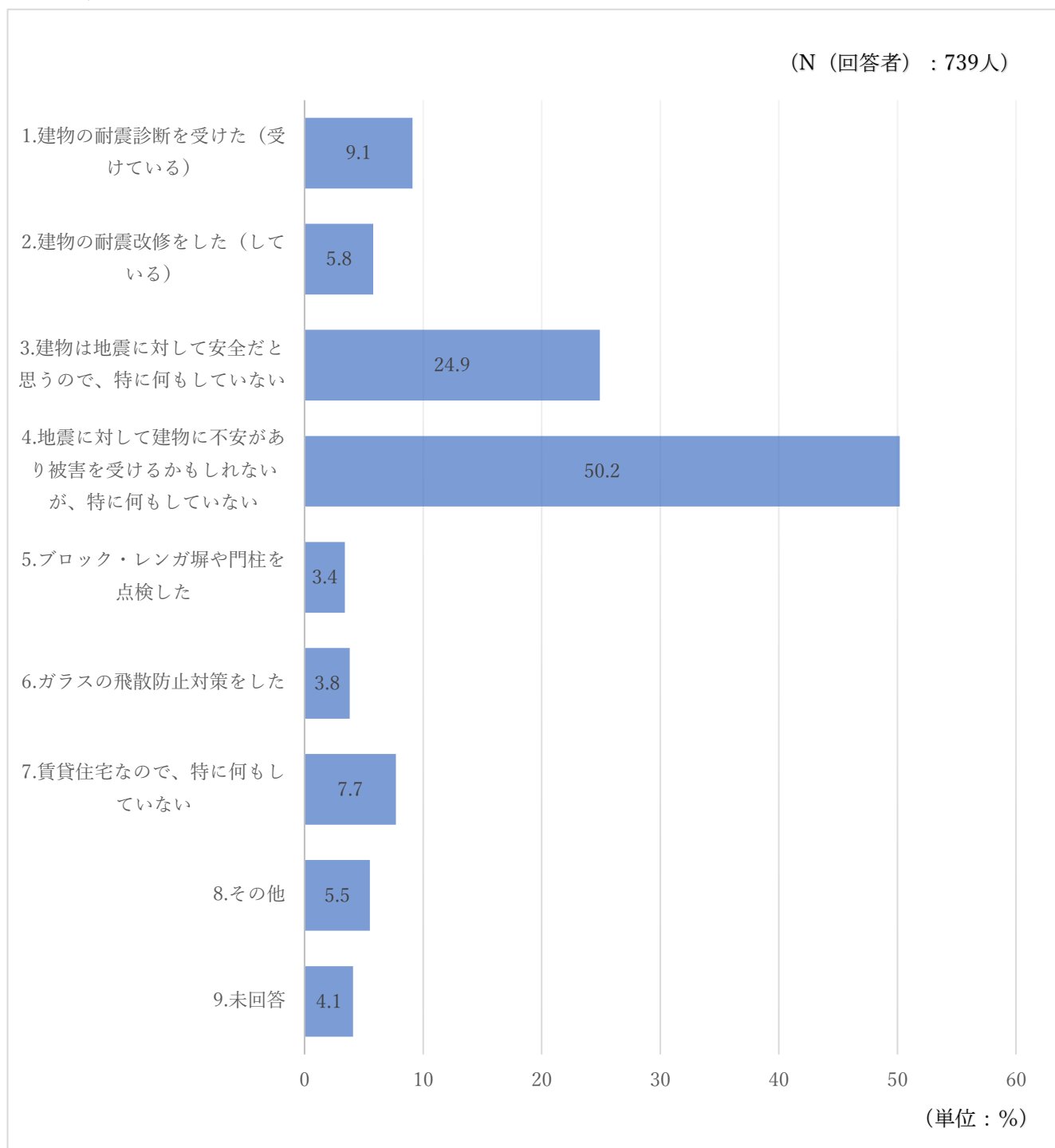
問5 住まいの防災対策について、あなたのお宅ではどのような対策をしていますか。

(〇はいくつでも)

〇50.2%の人が、「地震に対して建物に不安があり被害を受けるかもしれないが、特に何もしていない」と答えている。

〇また、何らかの対策を施しているのは、10%未満となっている。

図7：住まいの防災対策



★ 住まいの防災対策【年齢、居住地、住宅の種類別】

- 年齢別にみると、「地震に対して建物に不安があり、被害を受けるかもしれないが、特に何もしていない」が、70歳以上が66.3%と高い割合となっている。
- 住宅の種類別にみると、賃貸住宅に居住しているかたは、「賃貸住宅なので、特に何もしていない」が96.3%となっている。

表 1 1 : 【年齢、居住地、住宅の種類別】

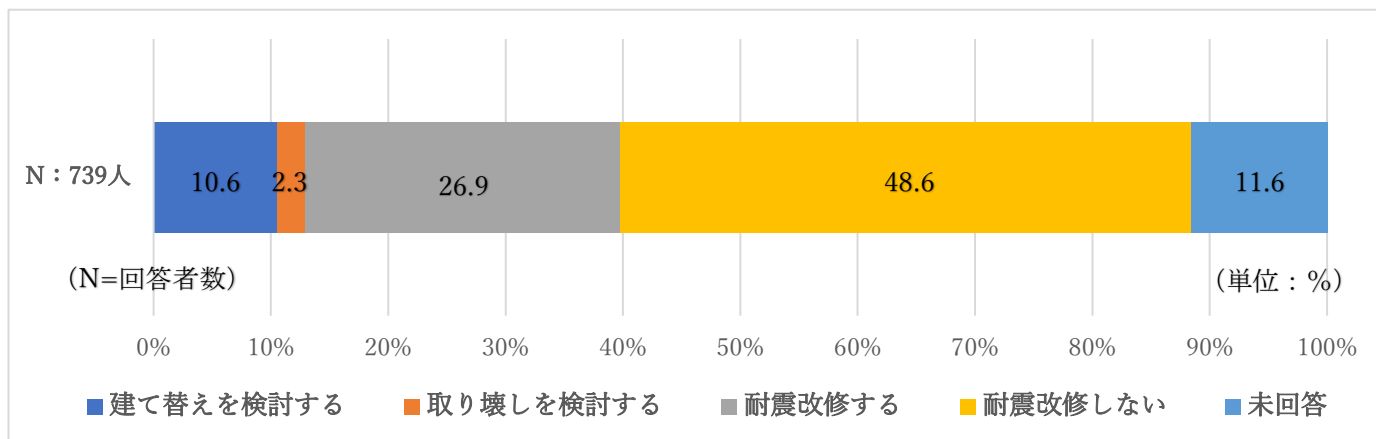
単位 : % 回答者数 : 回答数 (人)		回答者数	建物 の耐震 診断を 受けた (受け ている)	建物 の耐震 改修を した(し てい る)	建物 は地震 に対し て安全 だと思 うので 特に何 もして いない	地震に 対して 建物に 不安が あり、 被害を 受ける かもし れない が、特 に何も してい ない	ブロッ ク・レ ンガ 塀や 門柱を 点検し た(取 り壊し た・安 全なも のに建 て替え た)	ガラ スの飛 散防止 をした	賃貸 住宅な ので、 特に何 もして いない	その 他	未回 答
問 3 2 (年齢)	10 歳代	5	40.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	20 歳代	39	2.6	0.0	23.1	46.2	5.1	2.6	23.1	5.1	0.0
	30 歳代	52	13.5	1.9	19.2	34.6	3.8	5.8	21.2	9.6	1.9
	40 歳代	111	10.8	9.0	34.2	32.4	1.8	1.8	10.8	4.5	3.6
	50 歳代	147	8.2	2.0	32.0	47.6	3.4	3.4	6.1	4.1	3.4
	60 歳代	169	5.9	8.3	22.5	50.3	4.7	4.7	3.6	7.1	4.7
	70 歳以上	196	10.7	6.6	19.9	66.3	3.1	3.1	3.1	4.1	6.1
	未回答	20	10.0	5.0	10.0	60.0	0.0	10.0	15.0	15.0	0.0
問 3 3 (居住地)	八田地区	70	8.6	5.7	24.3	47.1	1.4	2.9	8.6	5.7	5.7
	白根地区	213	8.5	6.1	30.5	54.5	2.8	4.2	4.2	4.7	4.2
	芦安地区	8	0.0	0.0	25.0	50.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0
	若草地区	122	11.5	4.9	25.4	46.7	4.1	4.1	6.6	6.6	5.7
	櫛形地区	188	11.7	8.5	19.7	48.9	4.3	4.3	7.4	4.8	3.2
	甲西地区	115	4.3	1.7	25.2	48.7	3.5	0.9	13.9	5.2	3.5
	未回答	23	8.7	8.7	13.0	56.5	0.0	8.7	13.0	13.0	0.0
問 3 6 (住宅の 種類)	持ち家 (戸建て)	656	9.9	6.4	27.0	53.7	3.8	4.1	2.0	5.5	4.6
	持ち家 (マンション)	5	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	賃貸住宅	54	1.9	0.0	3.7	5.6	0.0	0.0	96.3	0.0	0.0
	その他	3	0.0	0.0	0.0	67.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
	未回答	21	4.8	4.8	19.0	52.4	0.0	4.8	14.3	14.3	0.0

(3) 倒壊危険ありと判断された場合の耐震改修

問6 あなたは、自宅の耐震診断を受けて、その結果「判定値 1.0 未満（倒壊する可能性がある）」と判定された場合、耐震改修を行いますか？（○は1つ）

○ 倒壊の危険ありと判断された場合、「耐震改修しない」が最も多く、48.6%である。

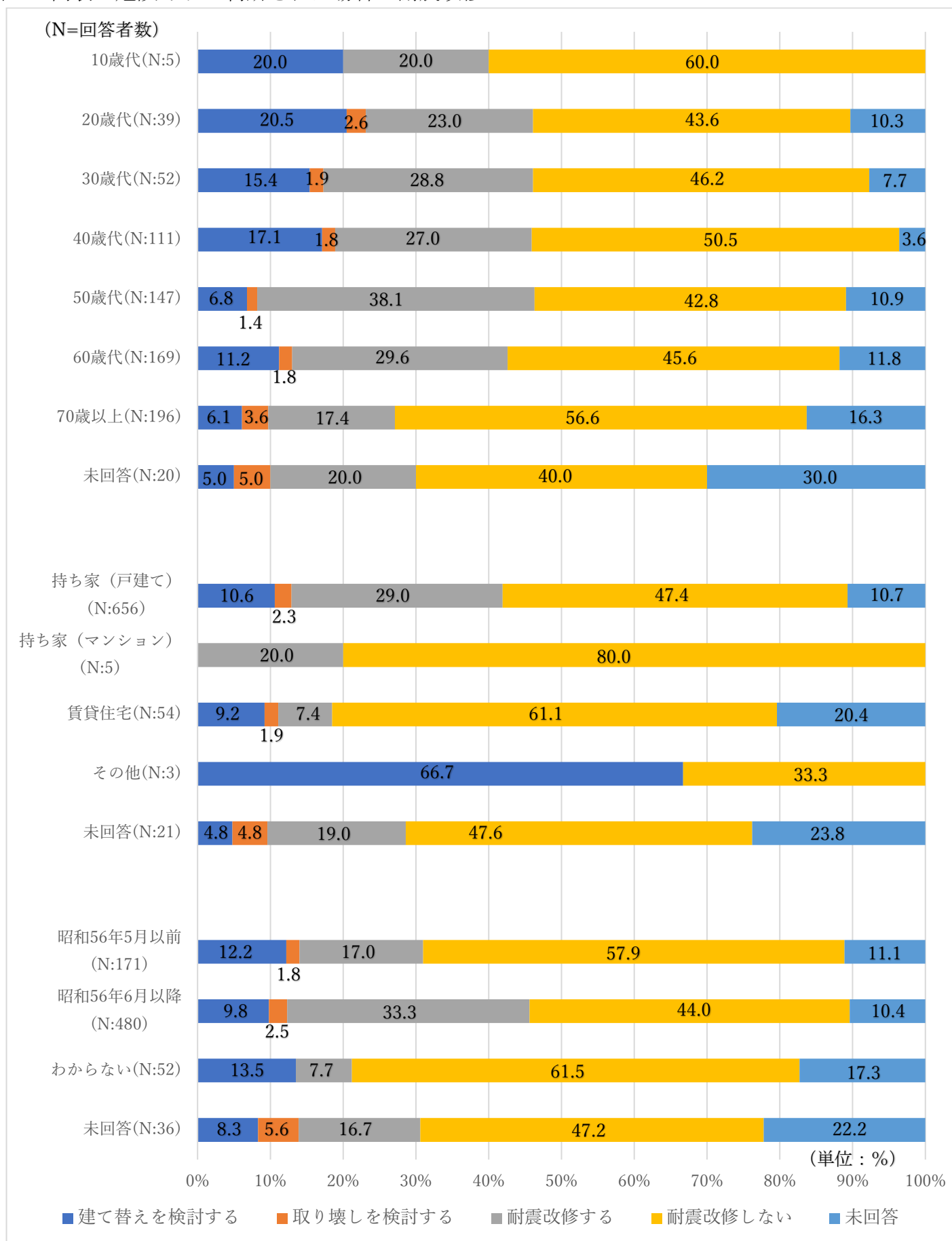
図8：倒壊の危険ありと判断された場合の耐震改修



★ 倒壊の危険ありと判断された場合の耐震改修【年齢、住宅の種類、住宅の着工時期別】

○ 住宅の着工時期別にみると、「耐震改修しない」と回答した人は、昭和56年6月以降が44.0%であるのに対して、「昭和56年5月以前」の方が、57.9%と割合が高くなっている。

図9：倒壊の危険ありと判断された場合の耐震改修



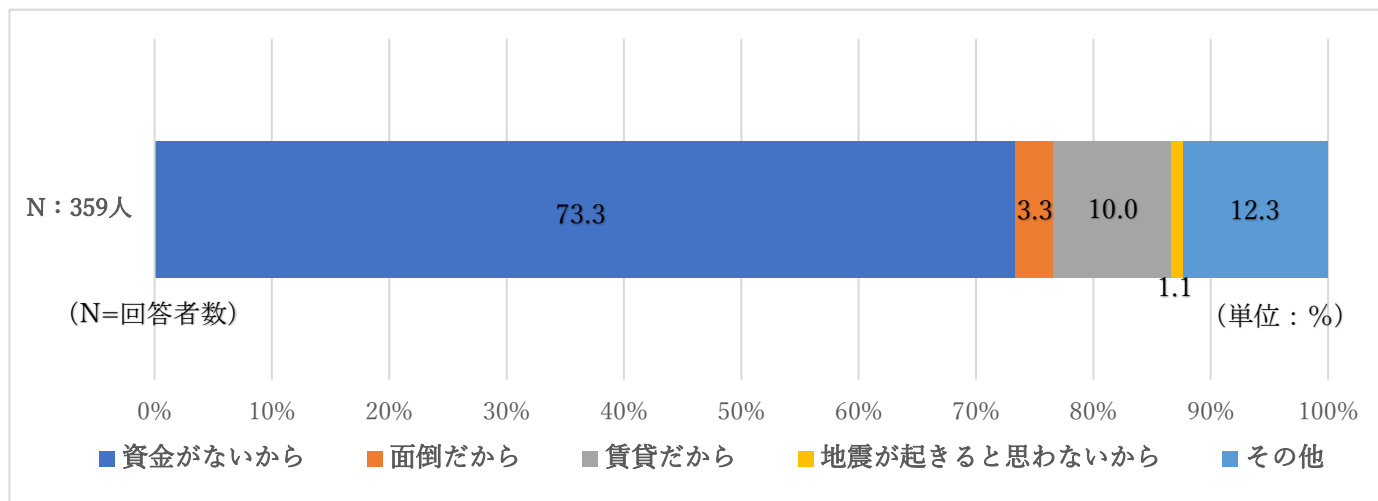
(4) 耐震改修をしない理由

(問6で4「耐震改修をしない」を選択した方)

耐震改修しない理由 (〇は1つ)

- 倒壊の危険ありと判定された場合でも耐震改修しない理由は、「資金がないから」が73.3%と最も多くなっている。

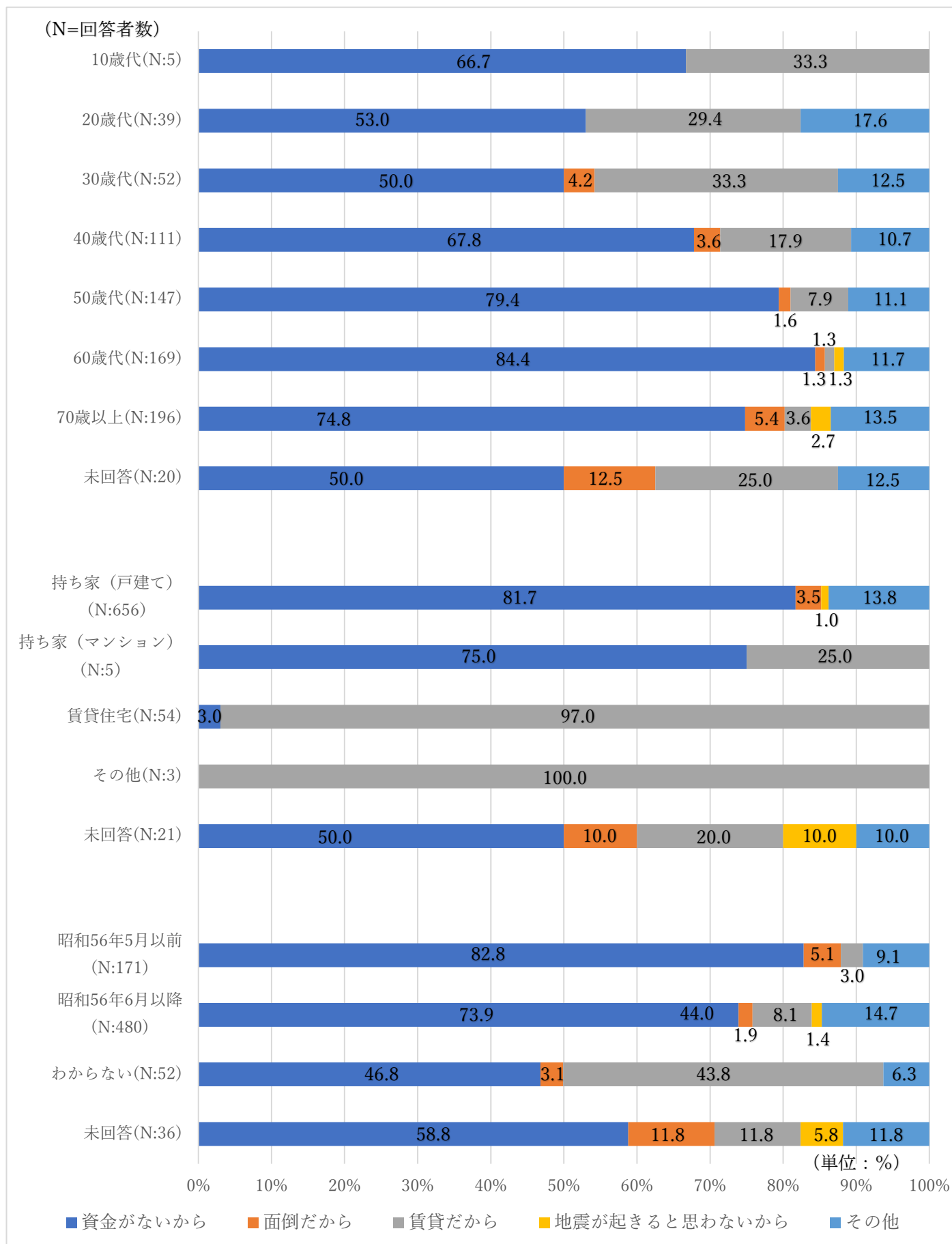
図10：耐震改修をしない理由



★ 耐震改修をしない理由【年齢、住宅の種類、住宅の着工時期別】

○ 賃貸住宅及びその他以外では、「資金がないから」が多くの割合を占めている。

図 1 1 : 耐震改修をしない理由

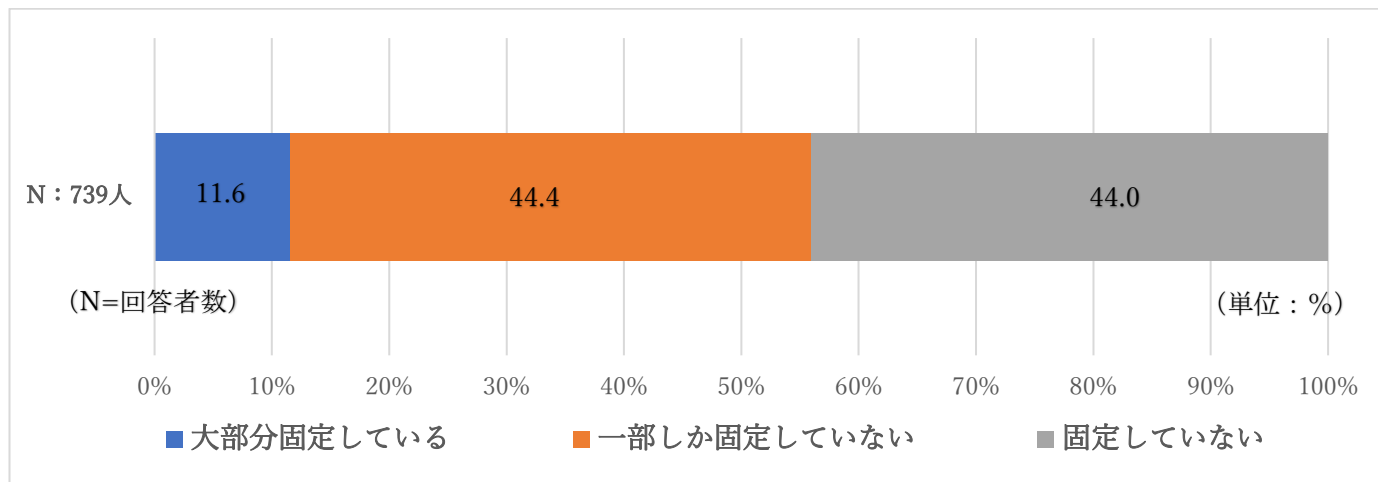


(5) 家具・家電などの固定

問7 あなたのお宅では、家具や家電（冷蔵庫、テレビなど）の固定をどの程度していますか？（○は1つ）

○ 自宅の家具などは、「一部しか固定していない」が44.4%と最も多く、次いで「固定していない」は44.0%、「大部分固定している」は11.6%となっている。

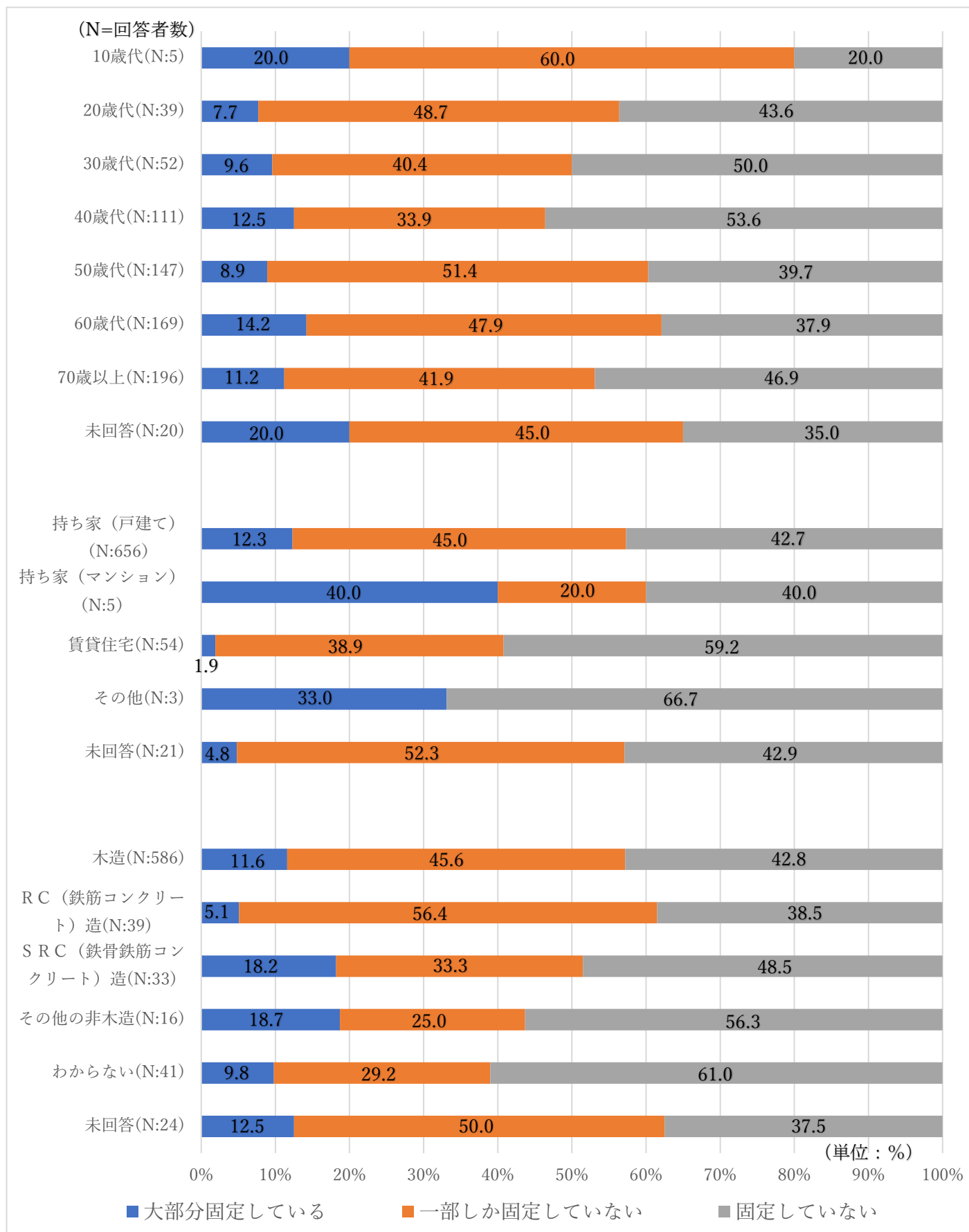
図12：家具などの固定



★ 家具などの固定【年齢、住宅の種類、住宅の構造】

- 年齢別にみると、20歳代～40歳代が「固定していない」割合が高くなっている。
- 住宅の種類別は、賃貸住宅、その他が「固定していない」割合が高くなっている。

図13：【年齢、住宅の種類、住宅の構造別】



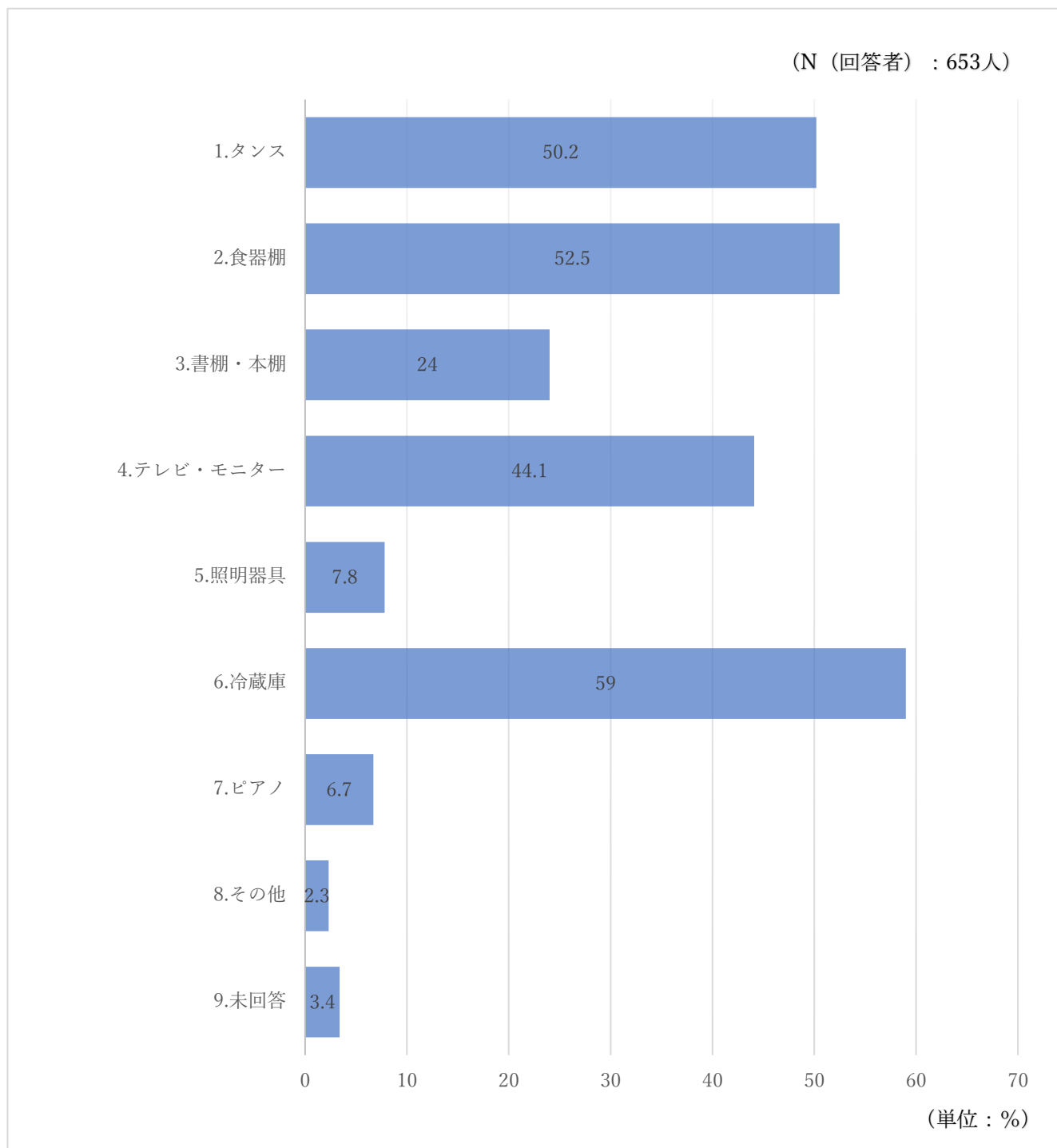
(6) 固定が必要な家具

(問7で2または3を選択した方にうかがいます)

問8 あなたのお宅で固定していない家具・家電のうち、固定が必要と考えられるものにはどんなものがありますか？ (○は3つまで)

○ 固定が必要と考える家具では、「冷蔵庫」が59.0%と最も多く、次いで「食器棚」が52.5%、「タンス」が50.2%、「テレビ・モニター」が44.1%となっている。

図14：固定が必要な家具



★ 固定が必要な家具【性別、年齢別】

○ どの年代でも、「ダンス」「食器棚」「テレビ・モニター」「冷蔵庫」の割合が高くなっている。

表 1 2 : 固定が必要な家具

		回答者数	ダンス	食器棚	書棚・本棚	テレビ・モニター	照明器具	冷蔵庫	ピアノ	その他	未回答
単位：%											
回答者数：回答数（人）											
問 3 1 (性別)	男 性	308	54.5	52.6	27.6	43.5	5.2	53.9	6.2	1.6	3.2
	女 性	320	46.3	51.9	20.3	45.0	9.7	63.4	7.5	3.1	3.1
	未回答	25	48.0	60.0	28.0	40.0	16.0	64.0	4.0	0	4.0
問 3 2 (年齢)	10 歳代	4	25.0	0	0	75.0	0	75.0	0	0	0
	20 歳代	36	38.9	52.8	8.3	52.8	5.6	52.8	2.8	2.8	2.8
	30 歳代	47	27.7	38.3	23.4	57.4	4.3	61.7	2.1	6.4	6.4
	40 歳代	98	36.7	49.2	23.5	54.1	6.1	70.4	4.1	2.0	1.0
	50 歳代	133	45.9	42.9	24.1	43.6	7.5	62.4	7.5	0	3.8
	60 歳代	145	56.6	56.6	26.9	37.9	9.7	51.0	9.0	3.4	4.1
	70 歳以上	174	64.4	66.1	25.3	38.5	8.0	56.3	8.0	2.3	2.9
	未回答	16	56.3	62.5	31.3	37.5	18.8	62.5	6.3	0	6.3

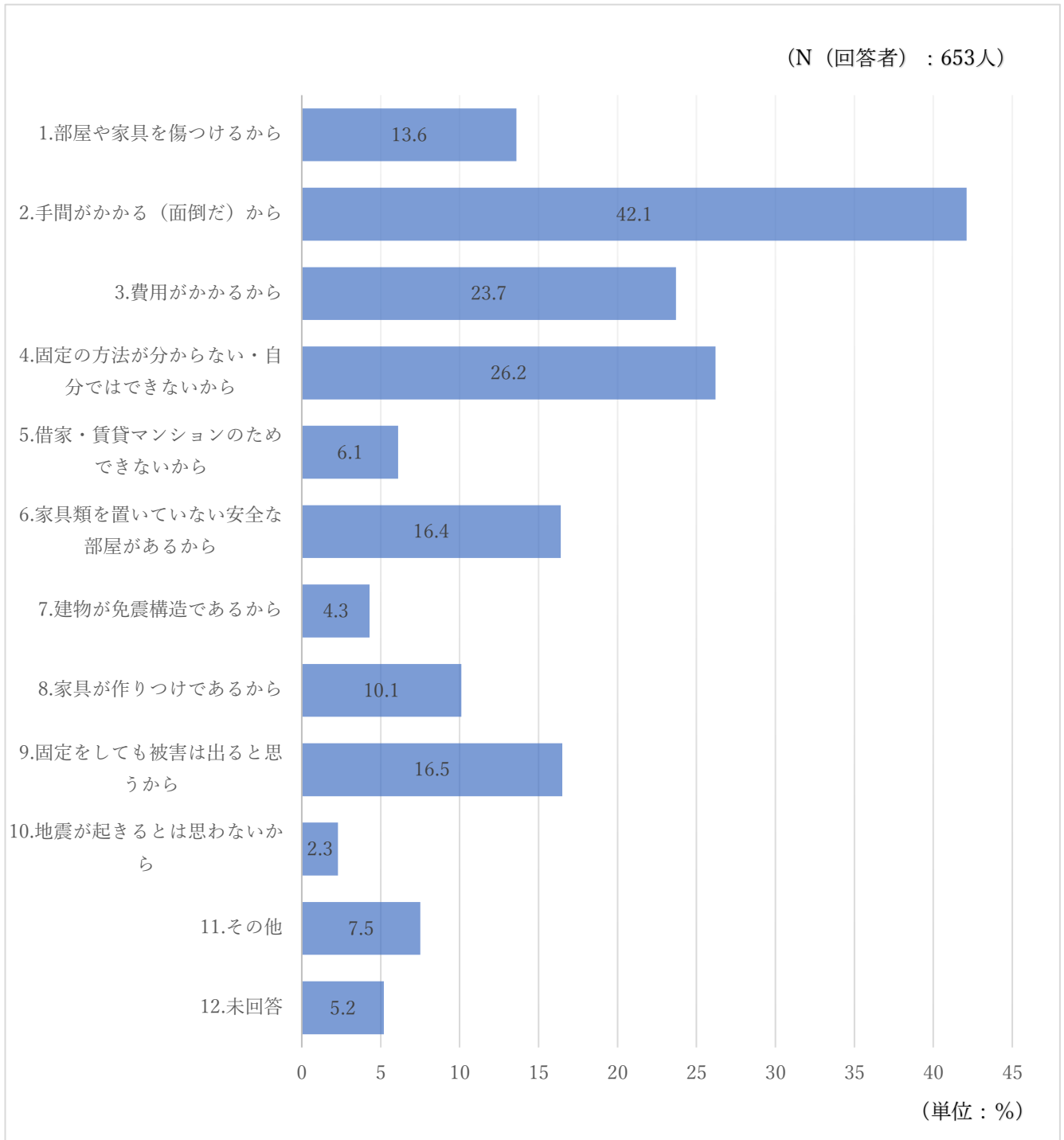
(7) 家具・家電などを固定していない理由

(問7で2または3を選択した方にうかがいます)

問9 家具・家電を固定しない理由は何ですか？ (〇は3つまで)

〇家具などを固定しない理由で多いものは「手間がかかる(面倒だ)から」が42.1%で、次いで「固定の方法がわからない・自分ではできないから」が26.2%、「費用がかかるから」が23.7%となっている。

図15：家具・家電などを固定していない理由



★ 家具・家電などを固定しない理由【性別、年齢別】

○どの年代においても「手間がかかる（面倒だ）から」の、割合が多くなっている。

表 1 3 : 家具・家電などを固定しない理由

		回答者数	部屋や家具を傷つけるから	手間がかかる（面倒だ）から	費用がかかるから	固定の方法がわからない・自分ではできないから	借家・賃貸マンションのためできないから	家具類を置いていない安全な部屋があるから	建物が免震構造であるから	家具が作りつけであるから	固定しても被害は出ると思うから	地震が起きるとは思わないから	その他	未回答
単位：%														
回答者数：回答数（人）														
問 3 1 (性別)	男 性	308	18.5	48.4	25.6	17.5	4.5	17.2	4.2	9.7	18.2	2.6	4.5	5.8
	女 性	320	9.4	37.8	22.2	34.1	7.8	15.3	4.1	10.0	13.4	1.6	10.6	4.7
	未回答	25	8.0	20.0	20.0	32.0	4.0	20.0	8.0	16.0	36.0	8.0	4.0	4.0
問 3 2 (年齢)	10 歳代	4	25.0	25.0	25.0	0	0	25.0	25.0	25.0	0	0	25.0	0
	20 歳代	36	2.8	44.4	22.2	44.4	16.7	5.6	0	0	11.1	2.8	5.6	2.8
	30 歳代	47	17.0	42.6	31.9	19.1	17.0	0	6.4	12.8	4.3	2.1	12.8	4.3
	40 歳代	98	17.3	43.9	24.5	20.4	9.2	12.2	7.1	15.3	13.3	0	18.4	1.0
	50 歳代	133	11.3	41.4	24.8	18.8	5.3	17.3	1.5	9.0	9.8	2.3	8.3	5.3
	60 歳代	145	19.3	44.1	21.4	26.9	3.4	20.0	1.4	8.3	23.4	1.4	4.1	8.3
	70 歳以上	174	10.9	41.4	23.0	32.2	2.3	20.7	6.3	9.8	21.3	4.0	2.9	5.7
	未回答	16	0	25.0	18.8	37.5	6.3	25.0	12.5	18.8	31.3	6.3	0	6.3

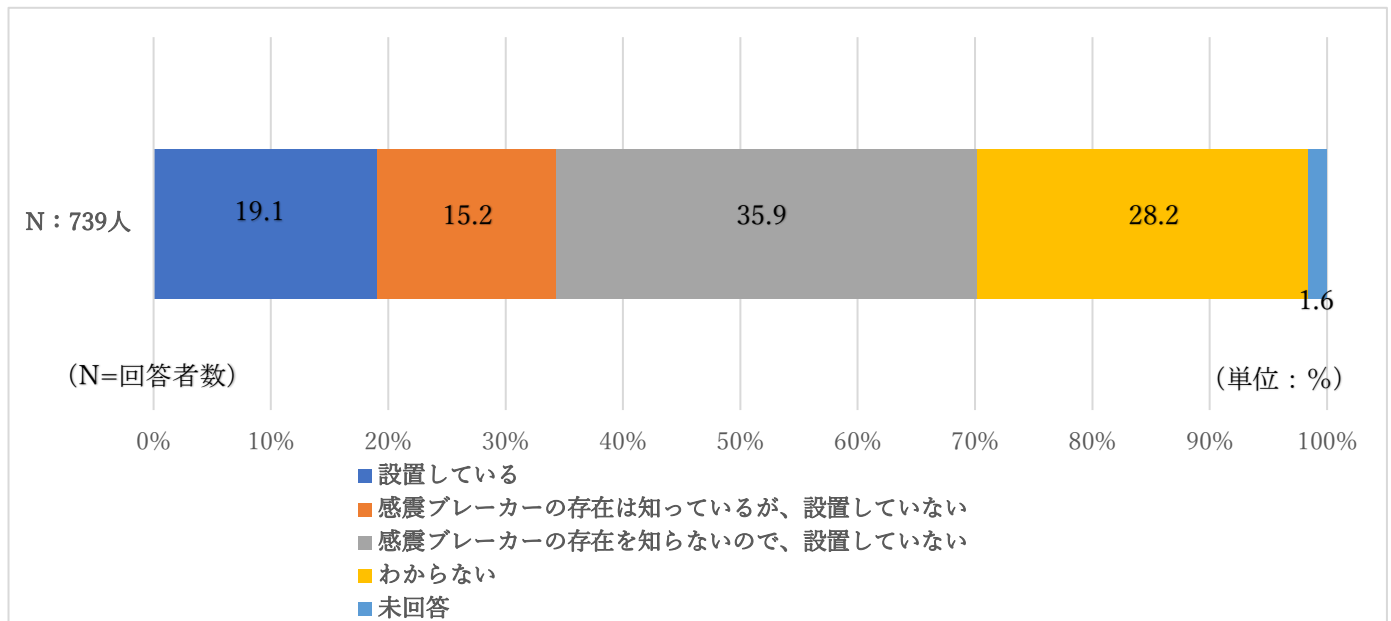
(8) 感震ブレーカーの設置状況

(すべての方にかがいます)

大規模地震が発生した際に、電気ストーブなどの電気機器が転倒し出火したり、停電復旧時に通電した電気機器に可燃物が接触し出火したりすることがあります。このような電気に起因する火災を抑制するためには、設定値以上の揺れを感知した時に、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める「感震ブレーカー」の設置が有効です。あなたのお宅では感震ブレーカーを設置していますか？ (○は1つ)

- 「感震ブレーカーの存在を知らないので、設置していない」(35.9%) 及び「感震ブレーカーの存在は知っているが、設置していない」(15.2%) と併せて『感震ブレーカーを設置していない』は51.1%。また、「設置している」は19.1%となっている。

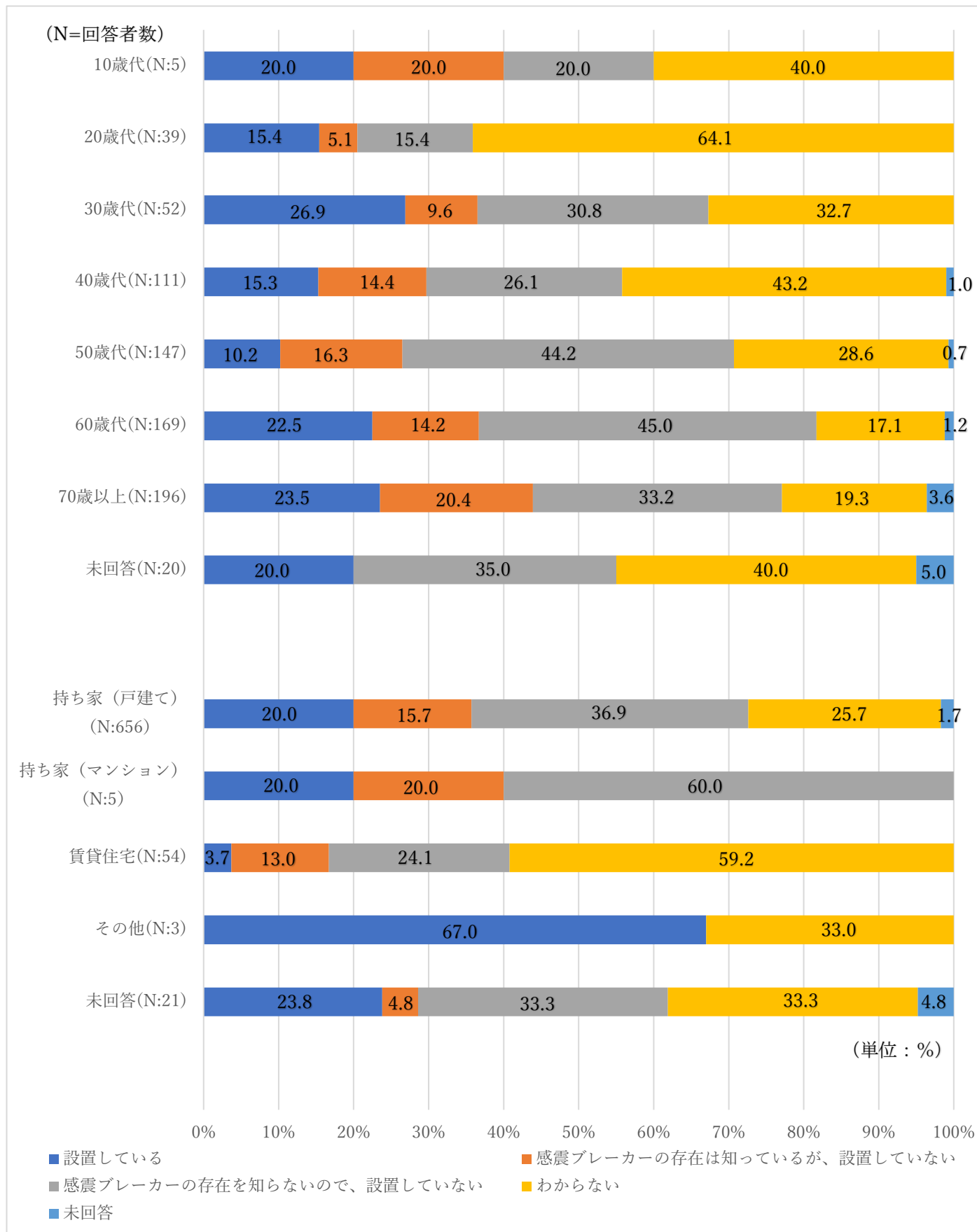
図16：感震ブレーカーの設置状況



★ 感震ブレーカーの設置状況【年齢、住宅の種類別】

○ 年齢別にみると、「設置している」割合が、10%~20%前後となっており、30歳代が26.9%と、一番高い割合となっている。

図17：感震ブレーカーの設置状況



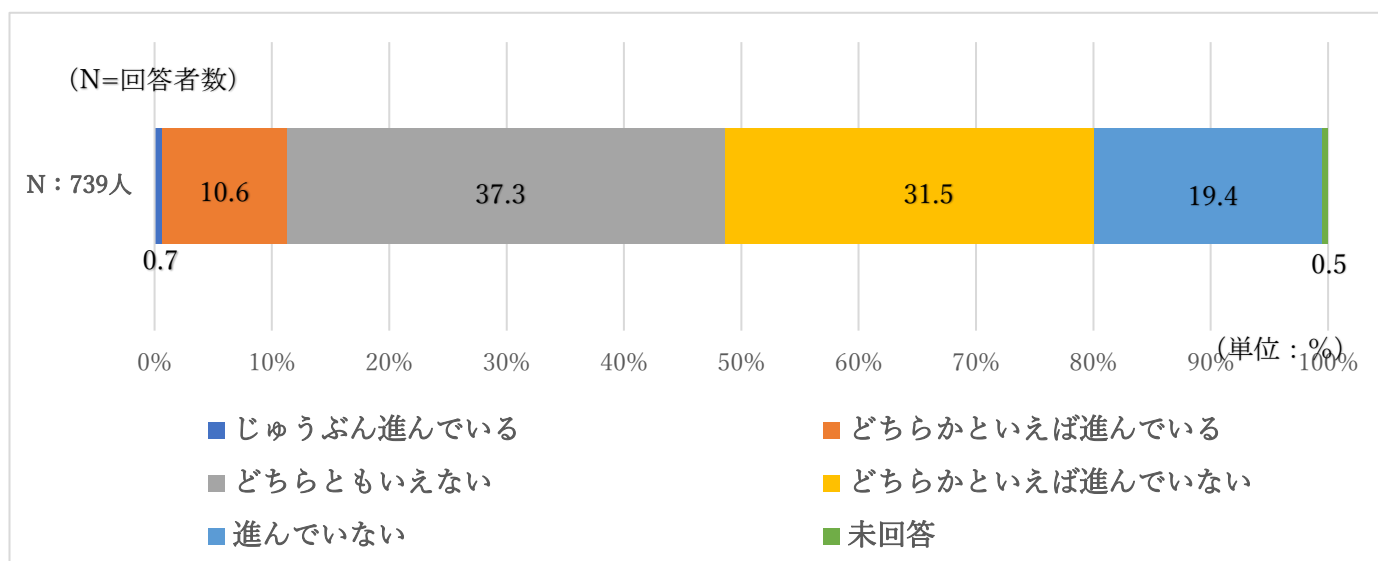
3. 大規模災害に対するの備えについて

(1) 防災対策の状況

問11 あなたの防災対策は進んでいると思いますか？ (○は1つ)

- 「どちらかといえば進んでいない」(31.5%)及び「進んでいない」(19.4%)と合わせて『進んでいない』は50.9%となっている。
- 一方、「どちらかといえば進んでいる」(10.6%)及び「進んでいる」(0.7%)と合わせて『進んでいる』は11.3%である。

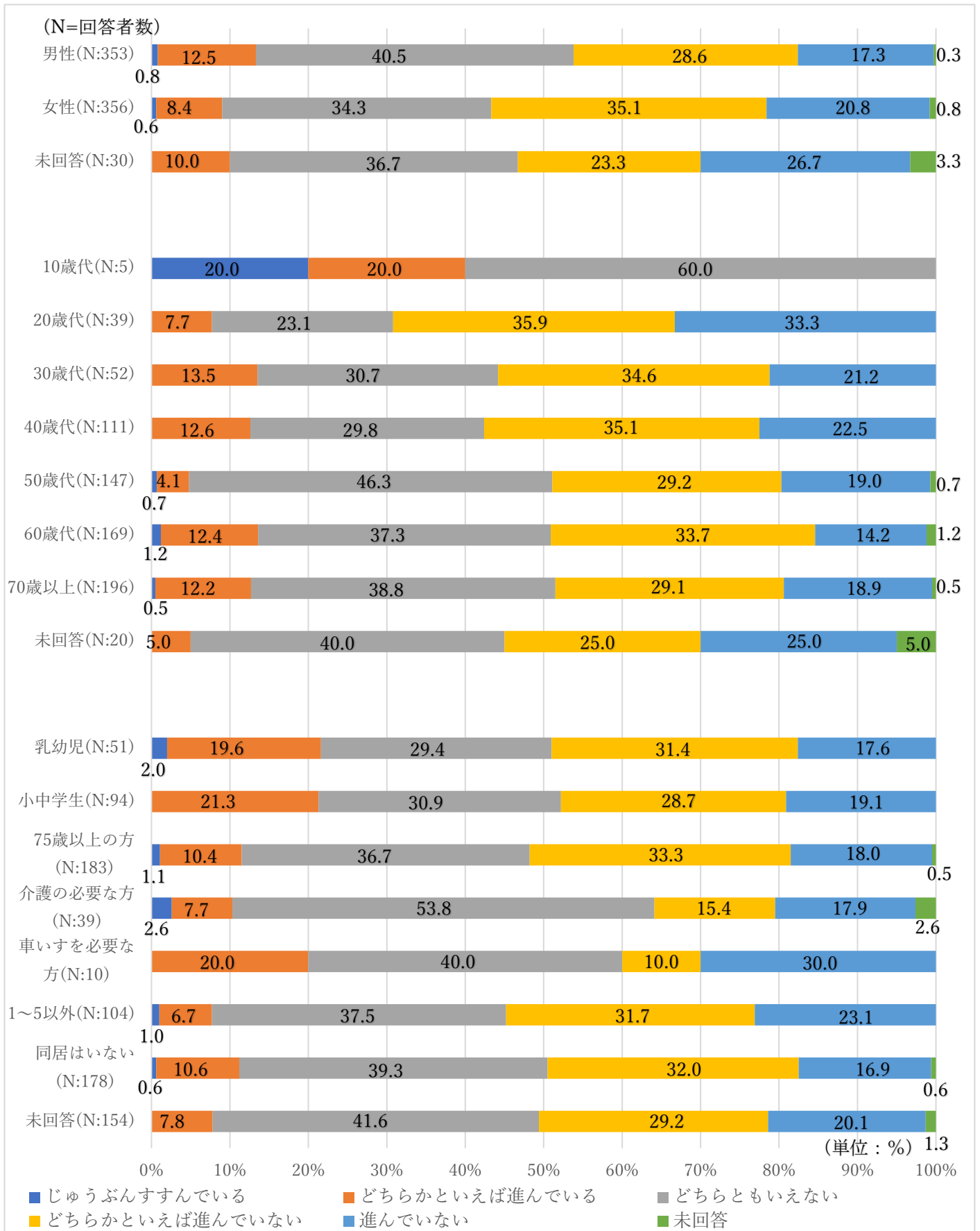
図18：防災対策の状況



★ 防災対策の状況【性別、年齢、同居家族別】

○ 年齢別にみると、「20歳代、30歳代、40歳代」で「どちらかといえば進んでいない」及び「進んでいない」を合わせた『進んでいない』と答えた人の割合が高い。

図19：防災対策の状況

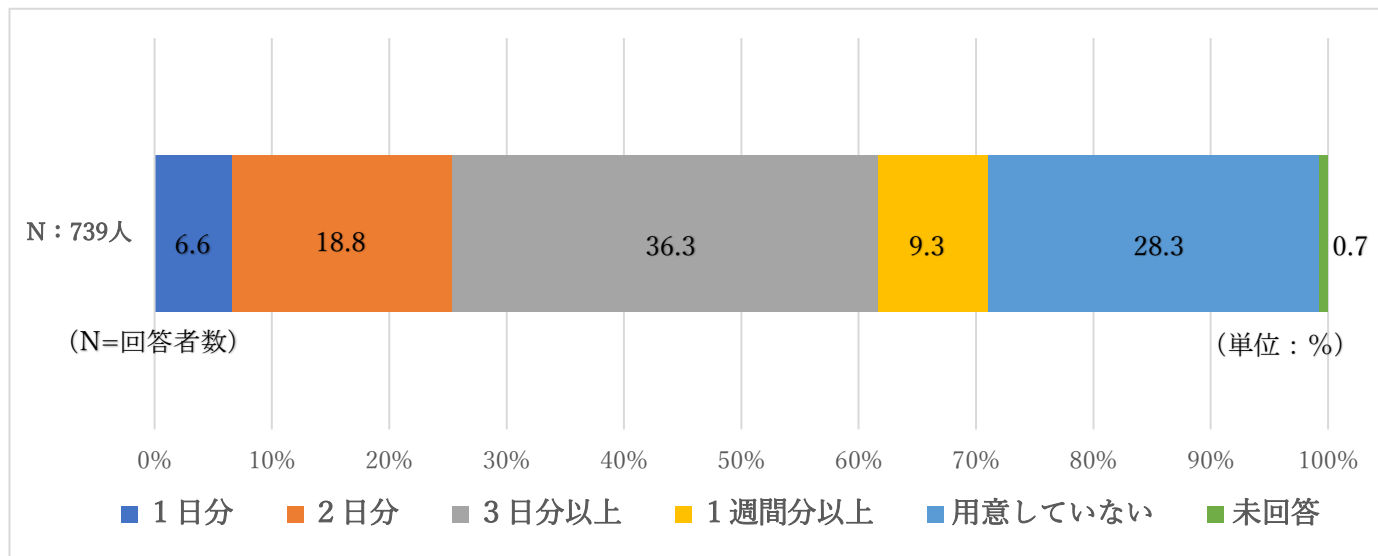


(2) 非常食の備蓄

問12 大規模災害の発生に備えて、非常用の食料は、可能な限り1週間程度、最低でも3日分程度が必要といわれています。あなたのお宅では、大規模災害の発生に備えて食料を何日分備蓄していますか？ (○は1つ)

- 食料を「3日分以上」用意している人は36.3%、一方「用意していない」人の割合は28.3%となっている。
- 「1週間分以上」と、最低必要だと言われている「3日分以上」を合わせた『3日分以上用意している』人は45.6%である。

図20：非常食の備蓄

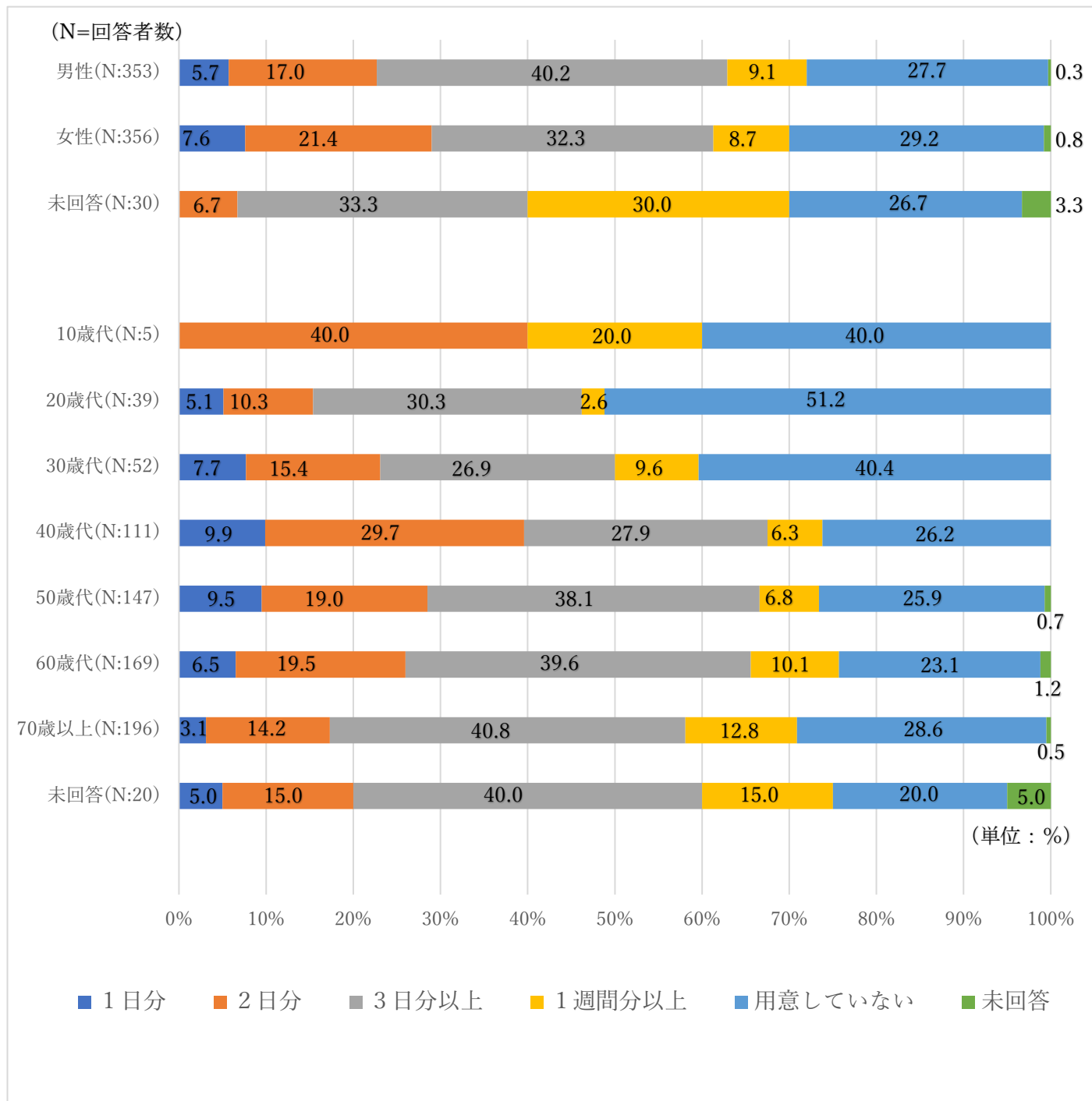


★ 非常食の備蓄【性別、年齢別】

○ 年齢別にみると、「10 歳代、20 歳代、30 歳代」で「用意していない」割合が高くなっている。

○ 年齢が高くなるほど、「3 日以上」用意している割合が高い。

図 2 1 : 非常食の備蓄

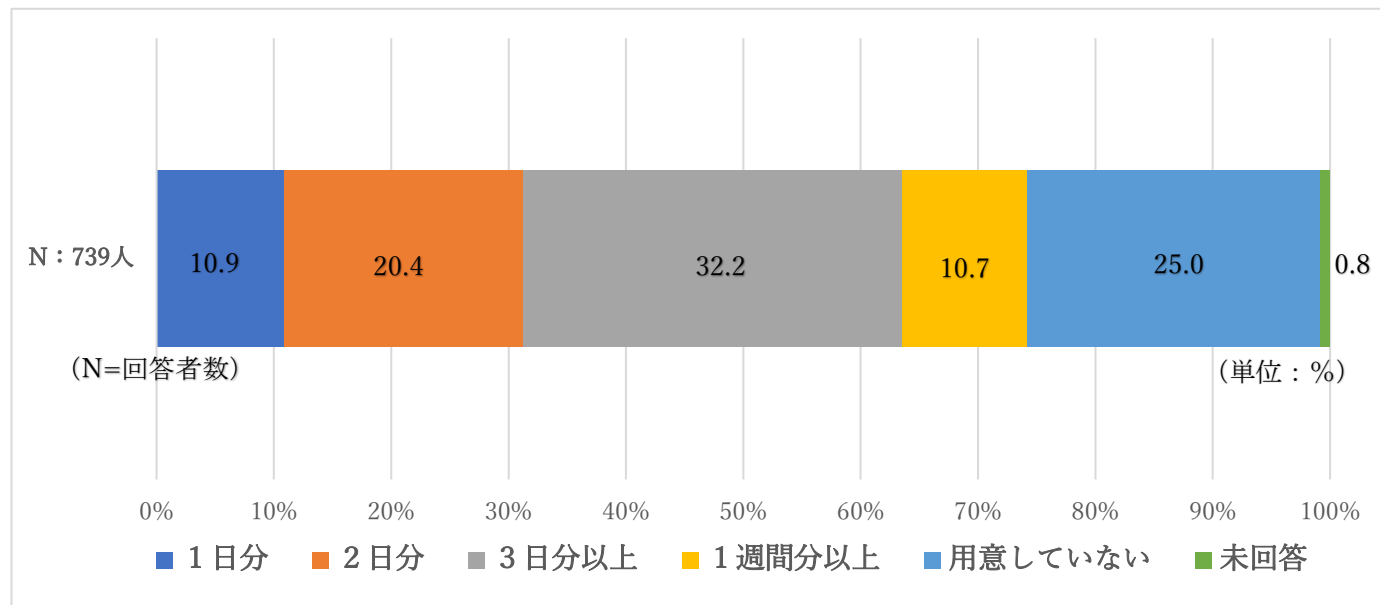


(3) 非常用飲料水の備蓄

問13 食料同様に、非常用の飲料水も、可能な限り1週間程度、最低でも3日分程度が必要といわれています。あなたのお宅では、飲料水を何日分備蓄していますか？
(○は1つ)

- 飲料水を「3日分以上」用意している人は32.2%、一方「用意していない」人の割合は25.0%となっている。
- 「1週間分以上」と、最低必要だと言われている「3日分以上」を合わせた『3日分以上用意している』人は42.9%である。

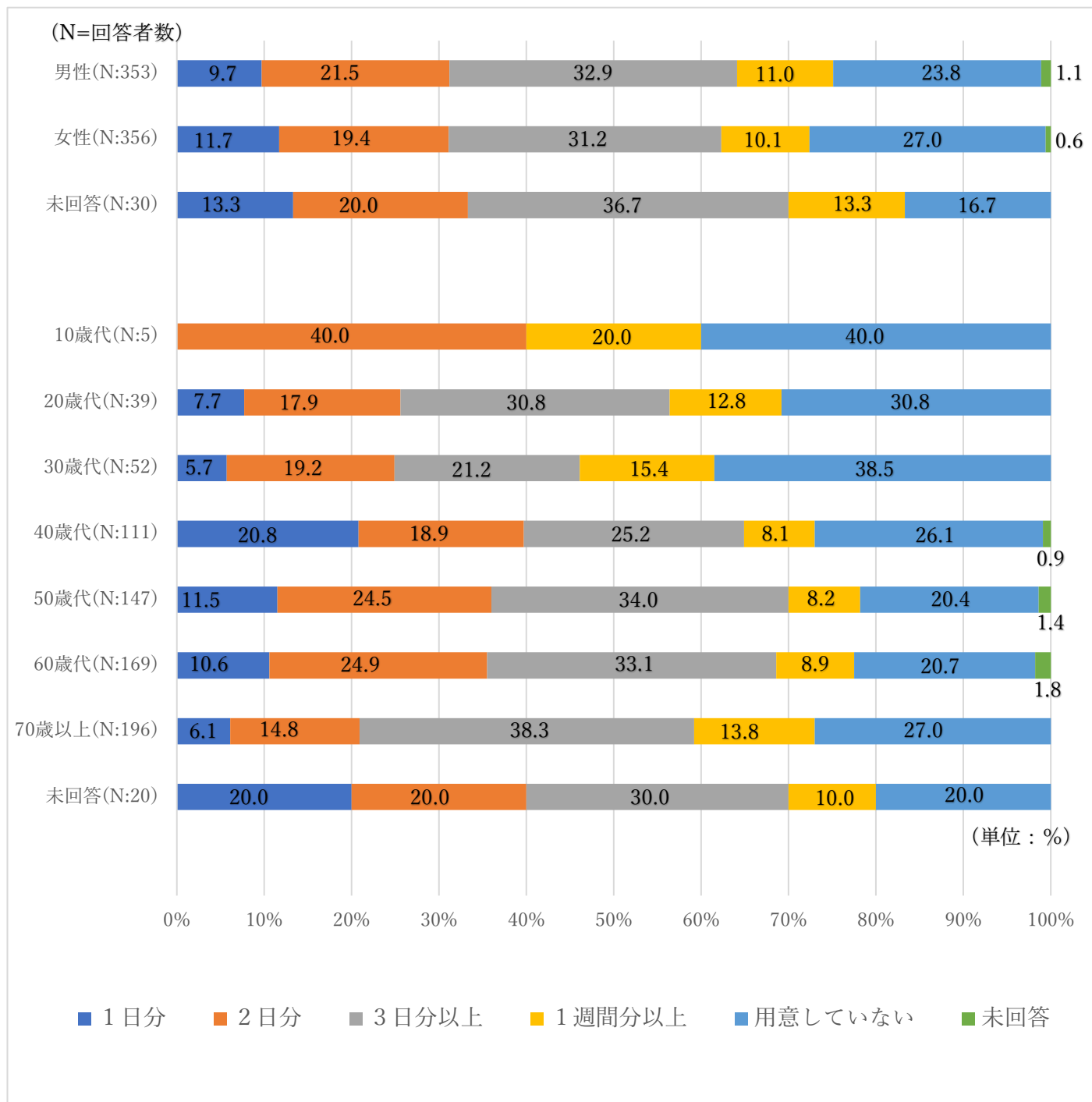
図22：非常用飲料水の備蓄



★ 非常用飲料水の備蓄【性別、年齢別】

- 年齢別にみると、食料同様に「10歳代、20歳代、30歳代」で「用意していない」割合が高くなっている。
- 「3日分以上」及び「1週間分以上」を合わせた『3日分以上用意している』割合は70歳以上が52.1%と一番高くなっている。

図 2 3 : 非常用飲料水の備蓄



(4) 食料・飲料水の不足分の確保

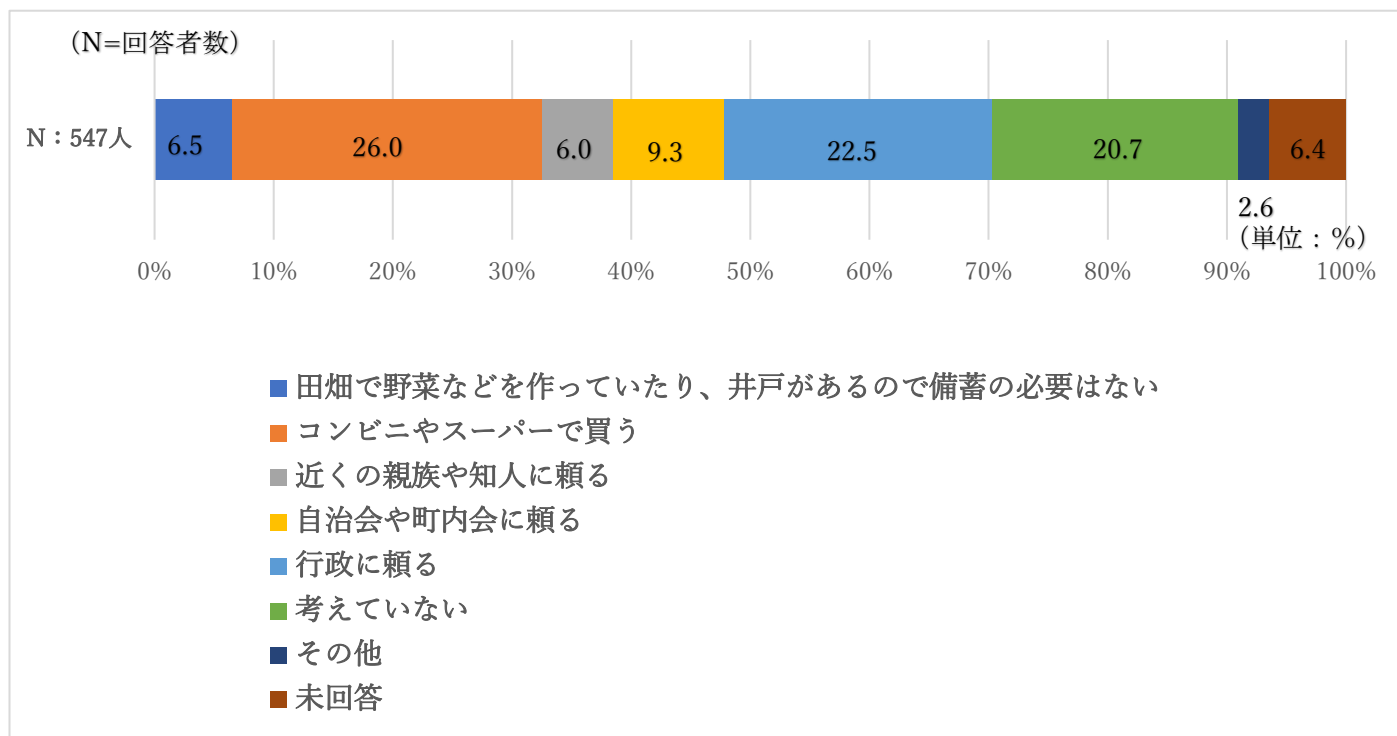
(問12、問13で1、2、5を選択した方にかがいます)

問14 災害が発生した場合、あなたは不足分をどのように確保しようとお考えですか？

(○は1つ)

- 26.0%の人が「コンビニやスーパーで買う」と答えており、20.7%の人が「考えていない」と答えている。

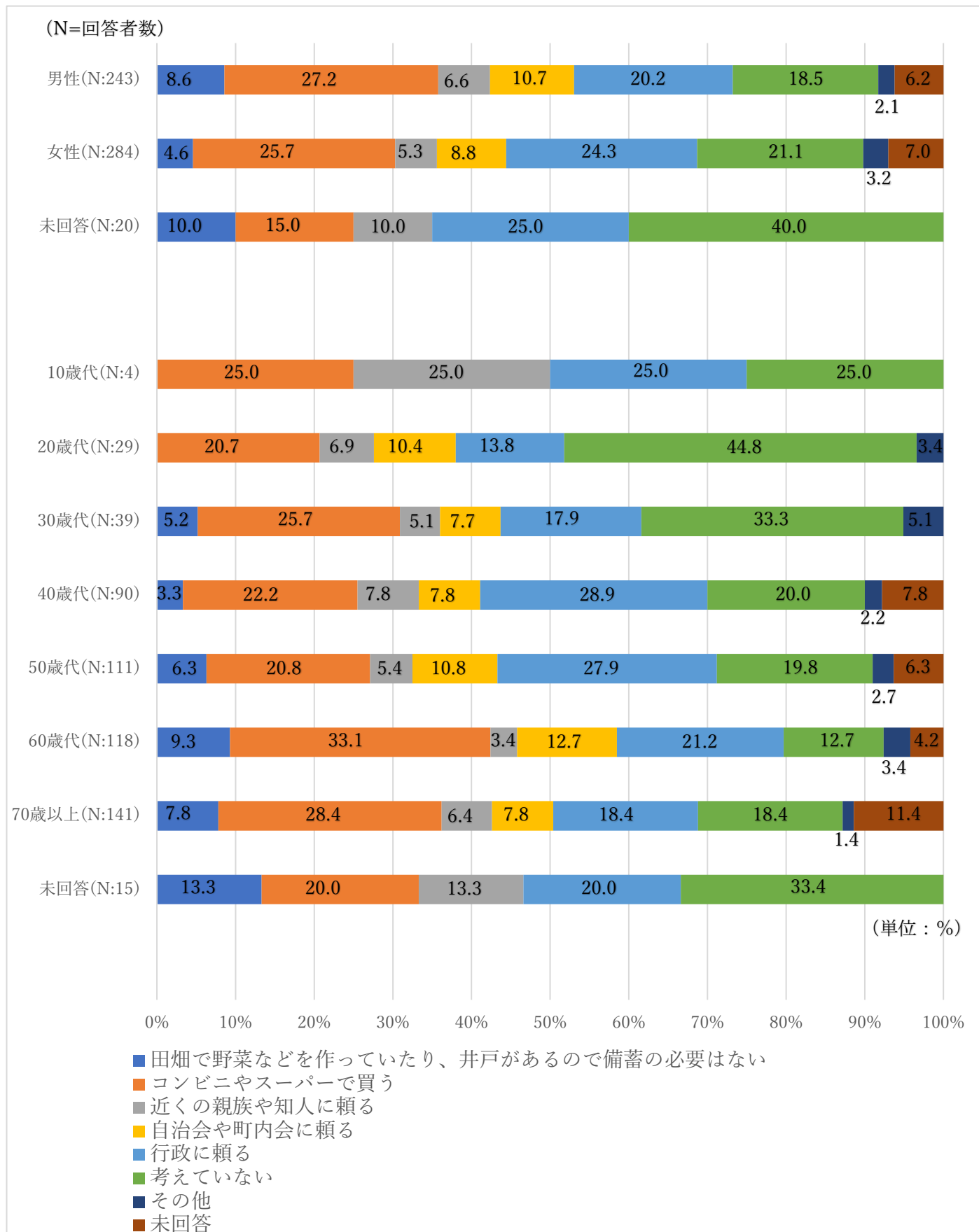
図24：食料・飲料水の不足分の確保



★ 食料、飲料水の不足分の確保【性別、年齢別】

○ 年齢別にみると、どの年齢においても「コンビニやスーパーで買う」「行政に頼る」の割合が高くなっている。

図 2 5 : 食料、飲料水の不足分の確保



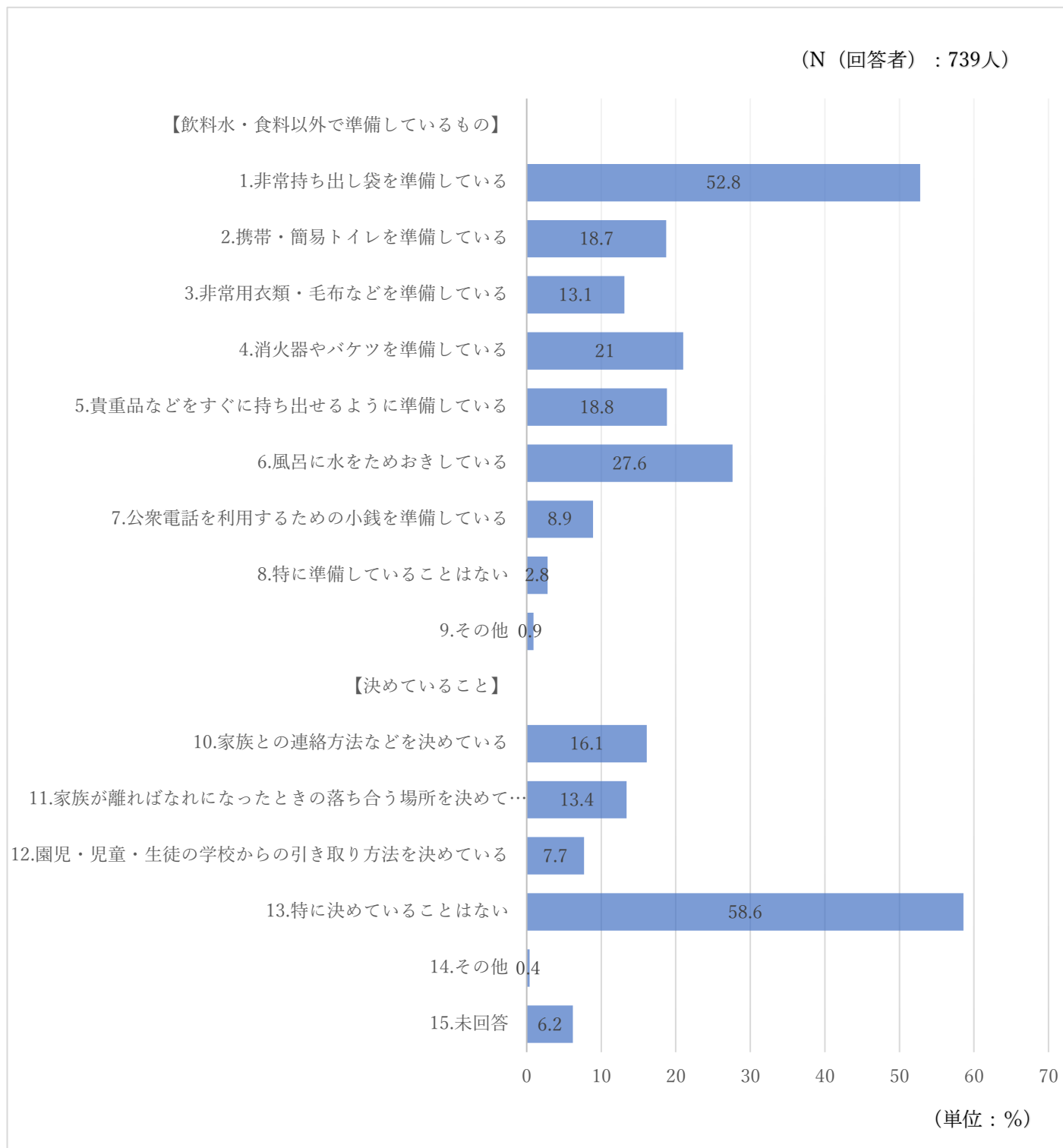
(5) 家庭での災害対策

(すべての方にかがいます)

問15 あなたの自宅では、南海トラフ地震や豪雨などによる大規模災害が発生した場合に備えて、次の対策のうち日頃から行っていることはありますか？
(〇はいくつでも)

- 「非常持ち出し袋」については、半数以上の方が準備している。
- 【決めていること】については、半数以上の方が「特に決めていることはない」と回答している。

図26：家庭での災害対策



★ 家庭での災害対策（飲料水・食料以外で準備しているもの）【性別、年齢別】

- 年齢別にみると、「特に準備していることはない」において、30歳代が38.5%となっており、次いで40歳代の34.2%となっている。
- 「非常持ち出し袋」については、どの年齢でも約半数の人が準備している。

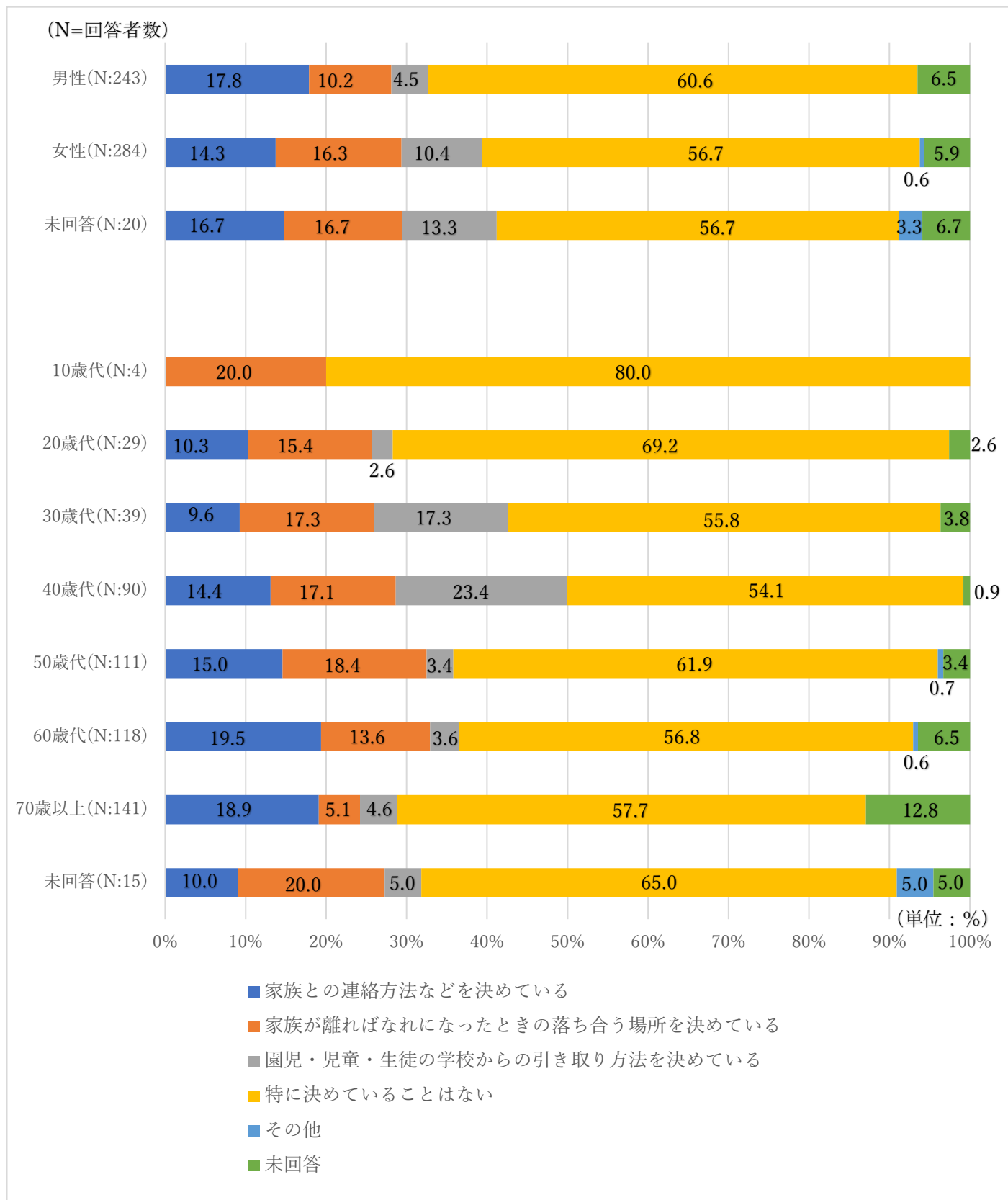
表14：家庭での災害対策（飲料水・食料以外で準備しているもの）

		回答者数	非常持ち出し袋を準備している	携帯・簡易トイレを用意している	非常用衣類・毛布などを準備している	消火器やバケツを準備している	貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している	風呂に水をためおきしている	公衆電話を利用するための小銭を用意している	特に準備していることはない	その他
単位：%											
回答者数：回答数（人）											
問31 (性別)	男性	353	52.1	13.3	13.3	23.2	16.7	26.3	9.1	31.3	0.6
	女性	356	52.5	23.3	12.1	17.7	21.1	29.5	9.0	25.6	1.4
	未回答	30	63.3	26.7	23.3	33.3	16.7	20.0	6.7	13.3	0
問32 (年齢)	10歳代	5	40.0	80.0	20.0	20.0	20.0	40.0	0	20.0	0
	20歳代	39	46.2	12.8	10.3	7.7	20.5	15.4	5.1	33.3	0
	30歳代	52	50.0	15.4	21.2	11.5	15.4	17.3	1.9	38.5	1.9
	40歳代	111	46.8	25.2	9.9	9.0	12.6	18.9	7.2	34.2	0.9
	50歳代	147	52.4	23.1	12.9	15.6	11.6	27.9	11.6	27.9	1.4
	60歳代	169	55.0	17.2	14.8	24.3	20.7	29.6	11.8	24.9	1.2
	70歳以上	196	55.1	12.2	10.7	30.6	26.0	36.7	9.2	25.5	0.5
	未回答	20	70.0	30.0	25.0	55.0	25.0	15.0	0	10.0	0

★ 家庭での災害対策（決めていること）【性別、年齢別】

- どの年代でも、半数以上の人々が「特に決めていることはない」と回答している。
- 「園児・児童・生徒の学校からの引き取り方法を決めている」は30歳代で17.3%、40歳代で23.4%と他の年代より高い割合となっている。

図 27：家庭での災害対策（決めていること）

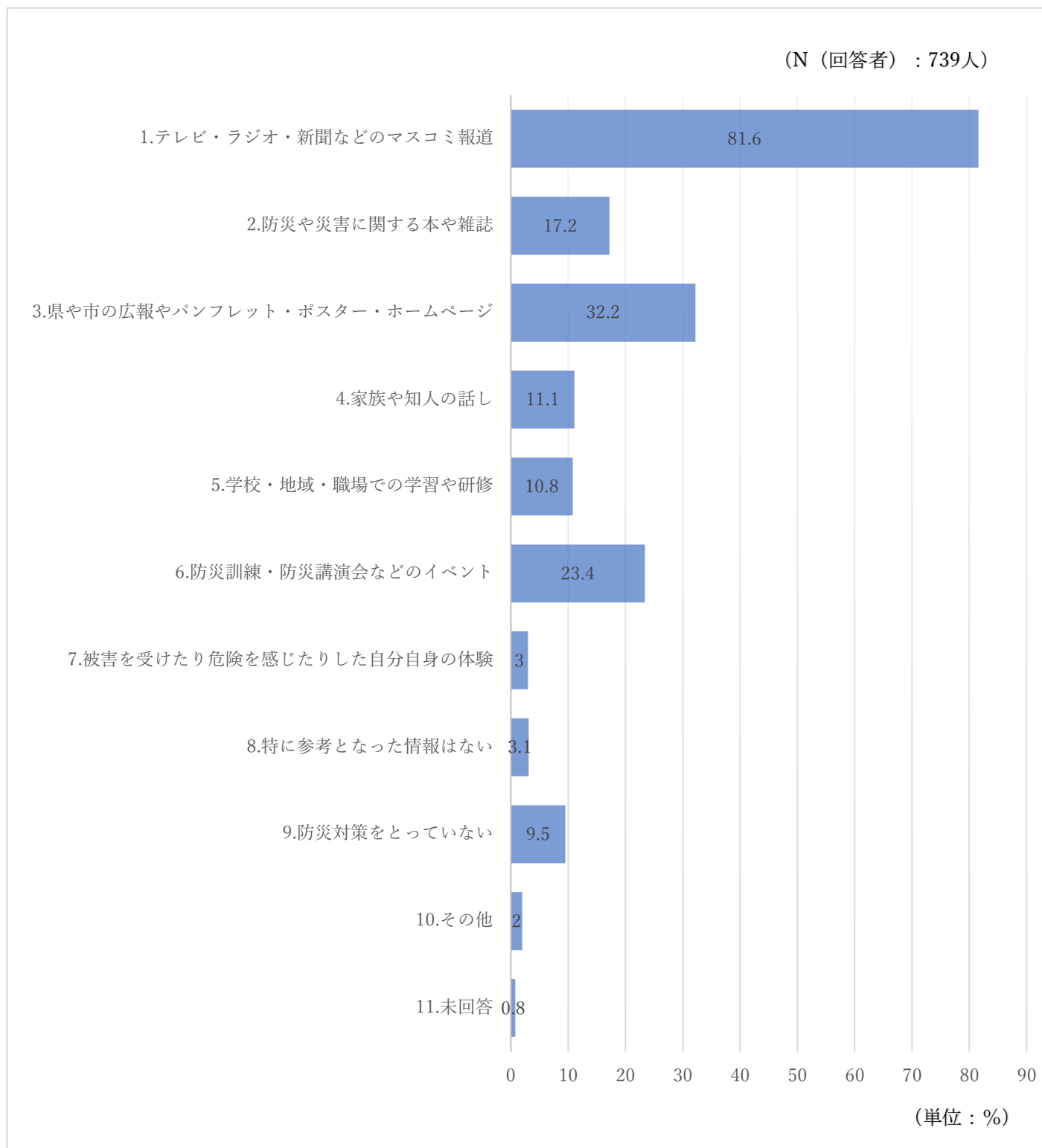


(6) 防災対策の情報源

問16 あなたが防災対策をとるために参考となった情報は、次のどれですか？
(〇はいくつでも)

- 防災対策の情報源は「テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道」が81.6%と圧倒的に多く、次いで「県や市の広報やパンフレット・ポスター・ホームページ」が32.2%、「防災訓練・防災講演会などのイベント」が23.4%となっている。

図28：防災対策の情報源



★ 防災対策の情報源【性別、年齢別】

- 「テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道」は全年齢で高い数字となっているが、その中でも20歳代が61.5%と一番低い数字となっている。
- 「学校・地域・職場での学習や研修」は40歳代までが20%弱となり、「防災訓練・防災講演会などのイベント」は50歳代以上が比較的高い数字となっている。

表15：防災対策の情報源

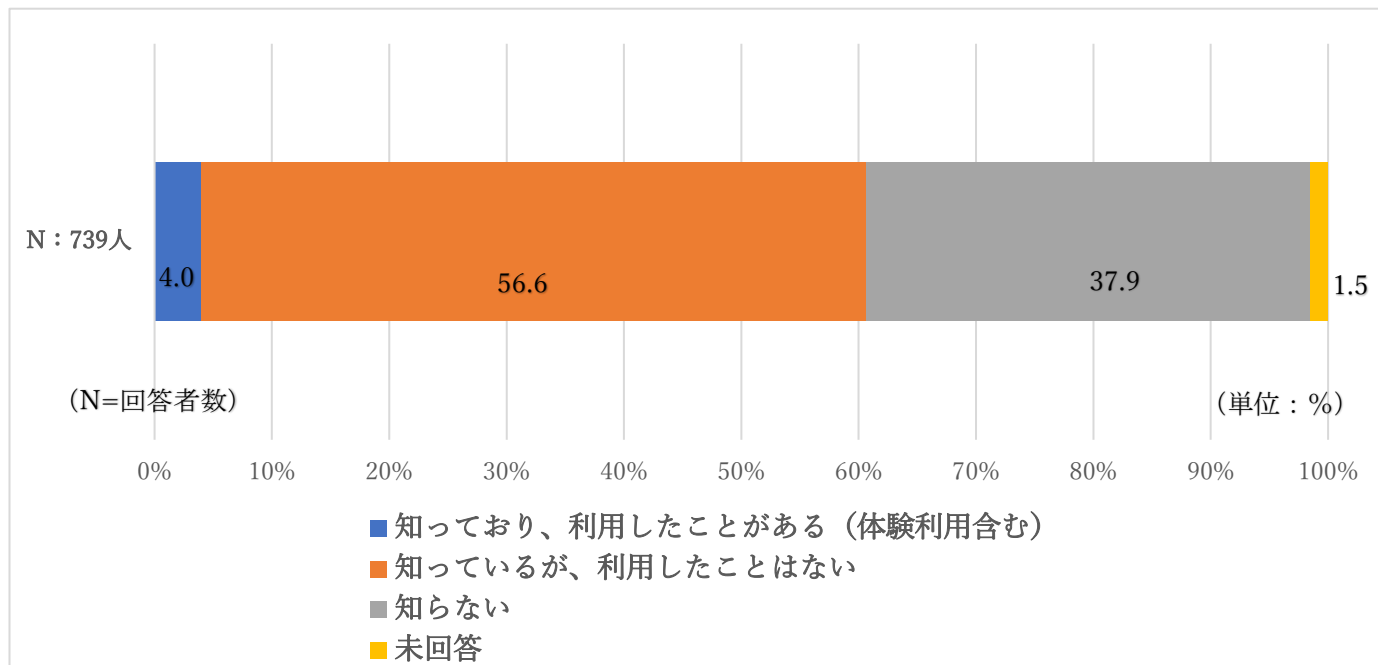
		回答者数	テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道	防災や災害に関する本や雑誌	県や市の広報やパンフレット・ポスター・ホームページ	家族や知人の話し	学校・地域・職場での学習や研修	防災訓練・防災講演会などのイベント	被害を受けたり危険を感じたりした自分自身の体験	特に参考となった情報はない	防災対策をとっていない	その他	未回答
単位：％ 回答者数：回答数（人）													
問31 (性別)	男性	353	82.4	19.5	35.7	9.1	9.3	25.8	3.7	4.0	8.2	1.1	0.6
	女性	356	80.9	15.2	29.5	14.0	12.4	21.3	2.5	2.2	10.7	2.5	0.6
	未回答	30	80.0	13.3	23.3	0	10.0	20.0	0	33.0	10.0	6.7	6.7
問32 (年齢)	10歳代	5	80.0	60.0	40.0	0	20.0	40.0	0	0	0	0	0
	20歳代	39	61.5	10.3	10.3	12.8	20.5	12.8	2.6	17.9	12.8	2.6	0
	30歳代	52	71.2	13.5	25.0	9.6	17.3	19.2	3.8	1.9	13.5	5.8	0
	40歳代	111	74.8	13.5	18.0	9.9	15.3	17.1	2.7	3.6	10.8	0	0.9
	50歳代	147	83.0	19.7	32.0	8.2	10.2	21.1	2.7	2.0	7.5	3.4	0.7
	60歳代	169	87.0	21.3	36.7	11.2	8.9	25.4	4.7	0.6	5.9	1.2	0.6
	70歳以上	196	86.7	15.3	43.4	15.3	6.6	30.6	2.0	3.1	11.7	1.5	0.5
	未回答	20	80.0	15.0	25.0	0	10.0	15.0	0	5.0	10.0	5.0	10.0

(7) 災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板

問17 被災地の方に電話番号をキーにして、安否等の情報を音声で登録・確認できる災害用伝言ダイヤル171および災害用伝言板を知っていますか？ (○は1つ)

- 60.6%の人が災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板を『知っている』と答えている。これに対して、「知らない」人は37.9%である。

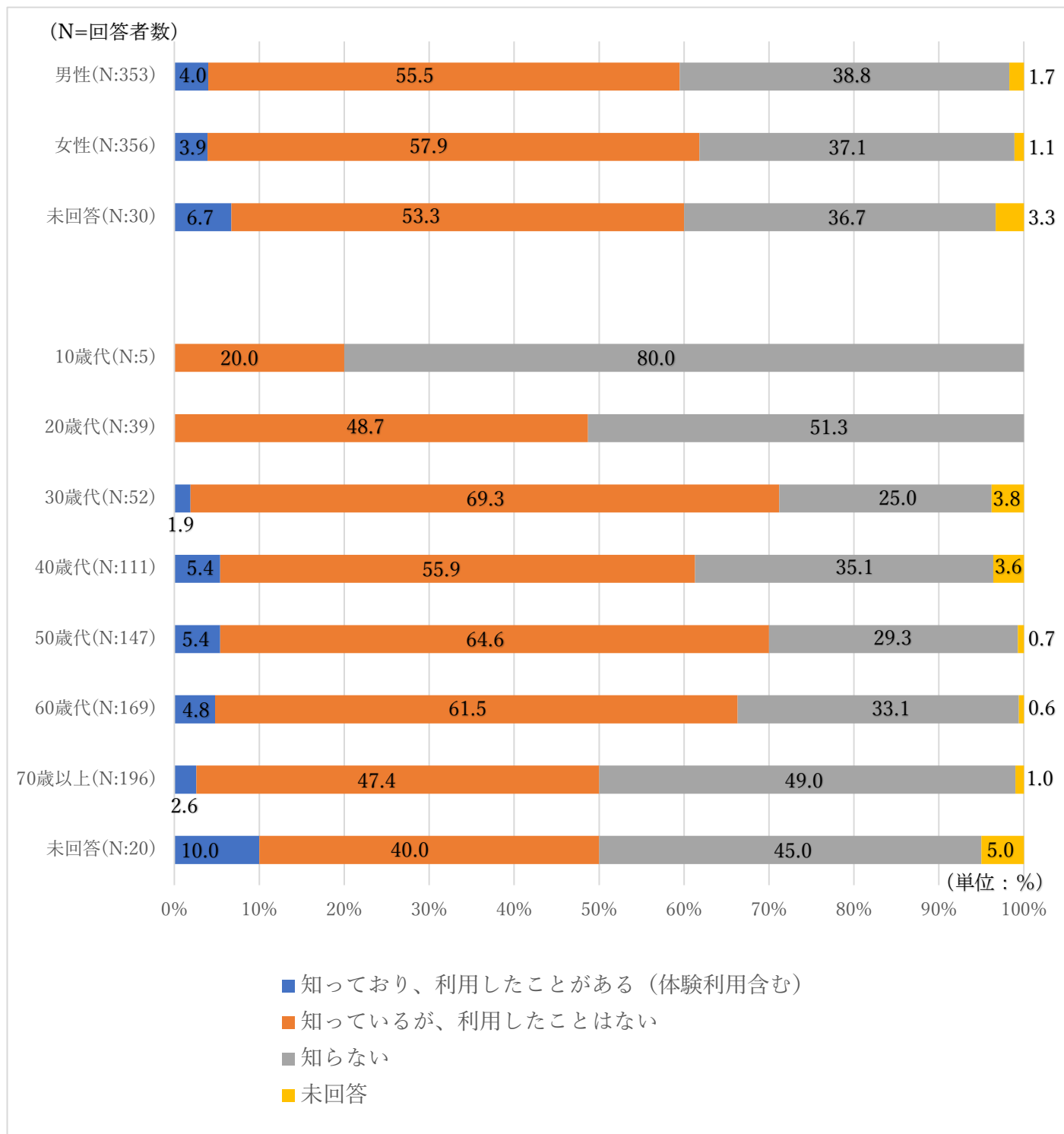
図29：災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板



★ 災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板【性別、年齢別】

- 年齢別にみると、30歳代が『知っている』人の割合が高くなっている。
- 10歳代、20歳代および70歳代で『知らない』人の割合が高くなっている。

図30：災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板



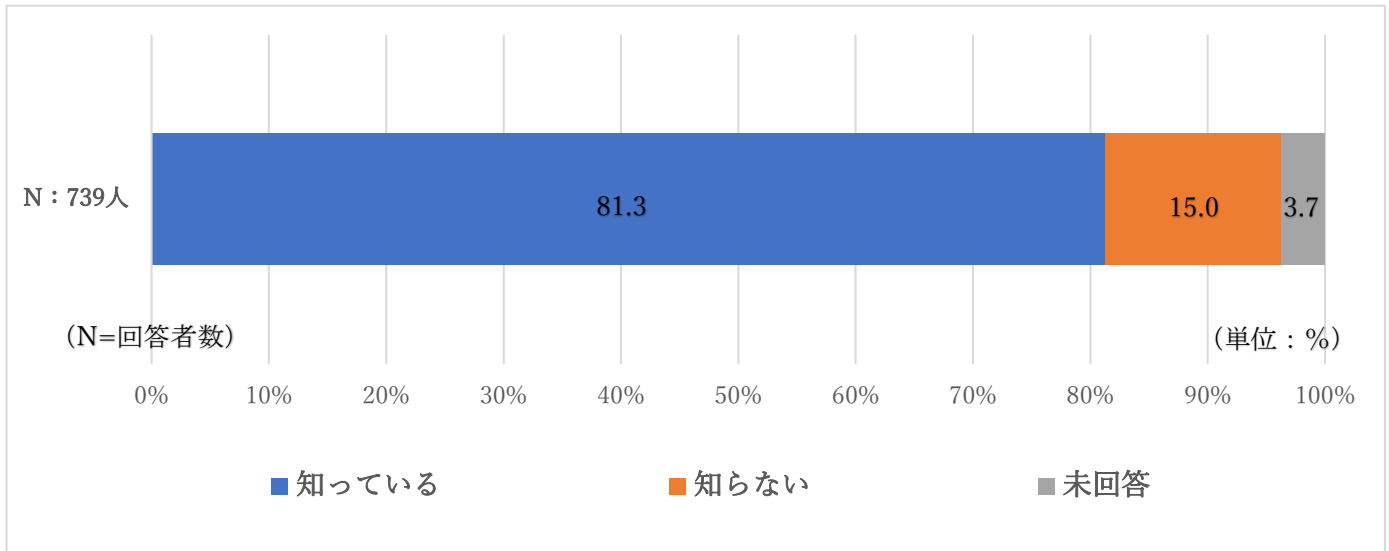
4. 避難場所などについて

(1) 市で指定された避難場所

問18 大規模災害などに備えて、市ではあらかじめ避難場所を指定しています。あなたは、指定された避難場所を知っていますか？ (○は1つ)

- 市で指定された避難場所を「知っている」人は、81.3%となっている。また、「知らない」と答えた人は15.0%である。

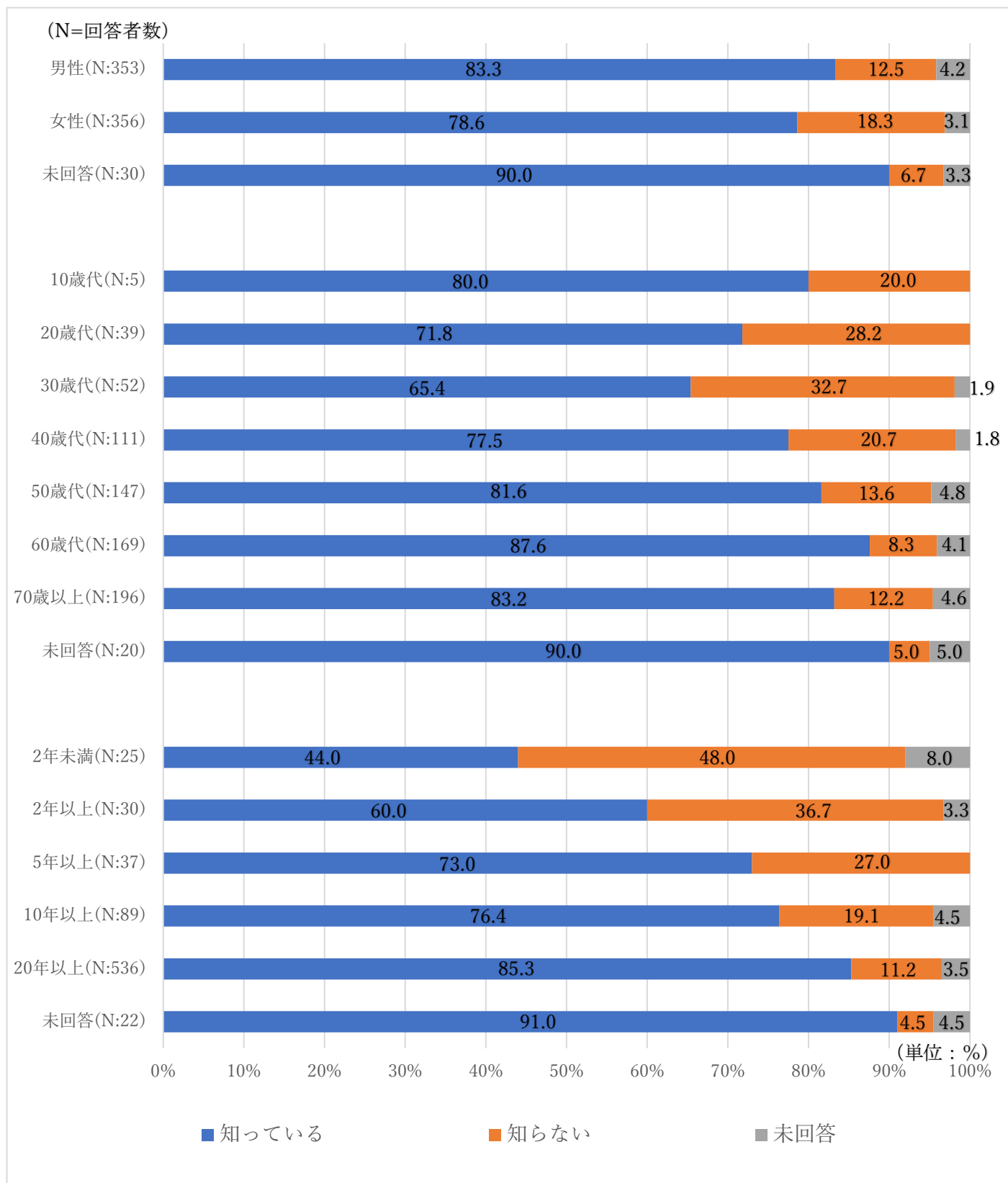
図31：市で指定された避難場所



★ 市で指定された避難場所【性別、年齢、在住期間別】

- 年齢別で見ると、「知っている」が60歳代で87.6%と高く、「知らない」が30歳代で32.7%となっている。
- 在住期間別で見ると、在住期間が長いほど「知っている」割合が高くなっている。

図32：市で指定された避難場所

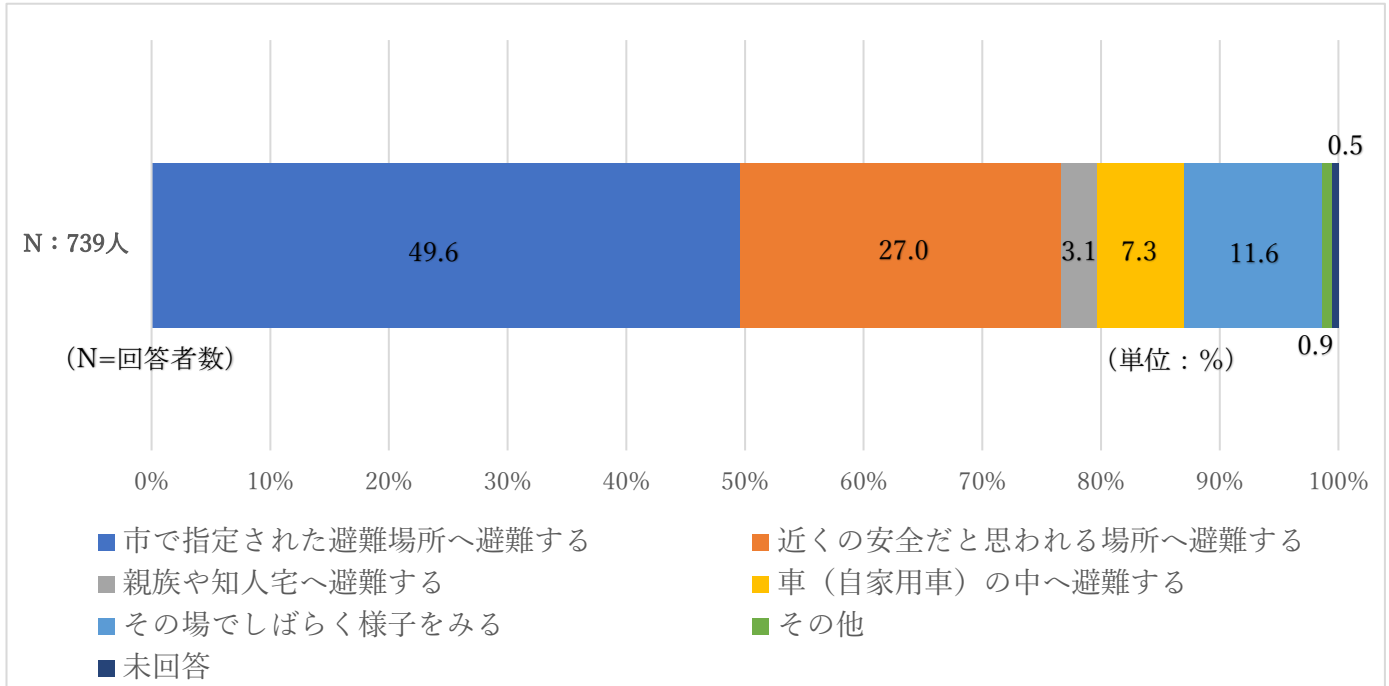


(2) (自宅から) 避難する予定の場所

問19 あなたはあなたのご家族が自宅にいるとき、もしも大規模地震などの災害が発生して自宅が危険な状態になったら、どのような場所に避難する予定ですか？
(○は1つ)

○ 自宅から避難する予定の場所は、「市で指定された避難場所へ避難する」が49.6%と最も多く、次いで「近くの安全だと思われる場所へ避難する」が27.0%となっている。

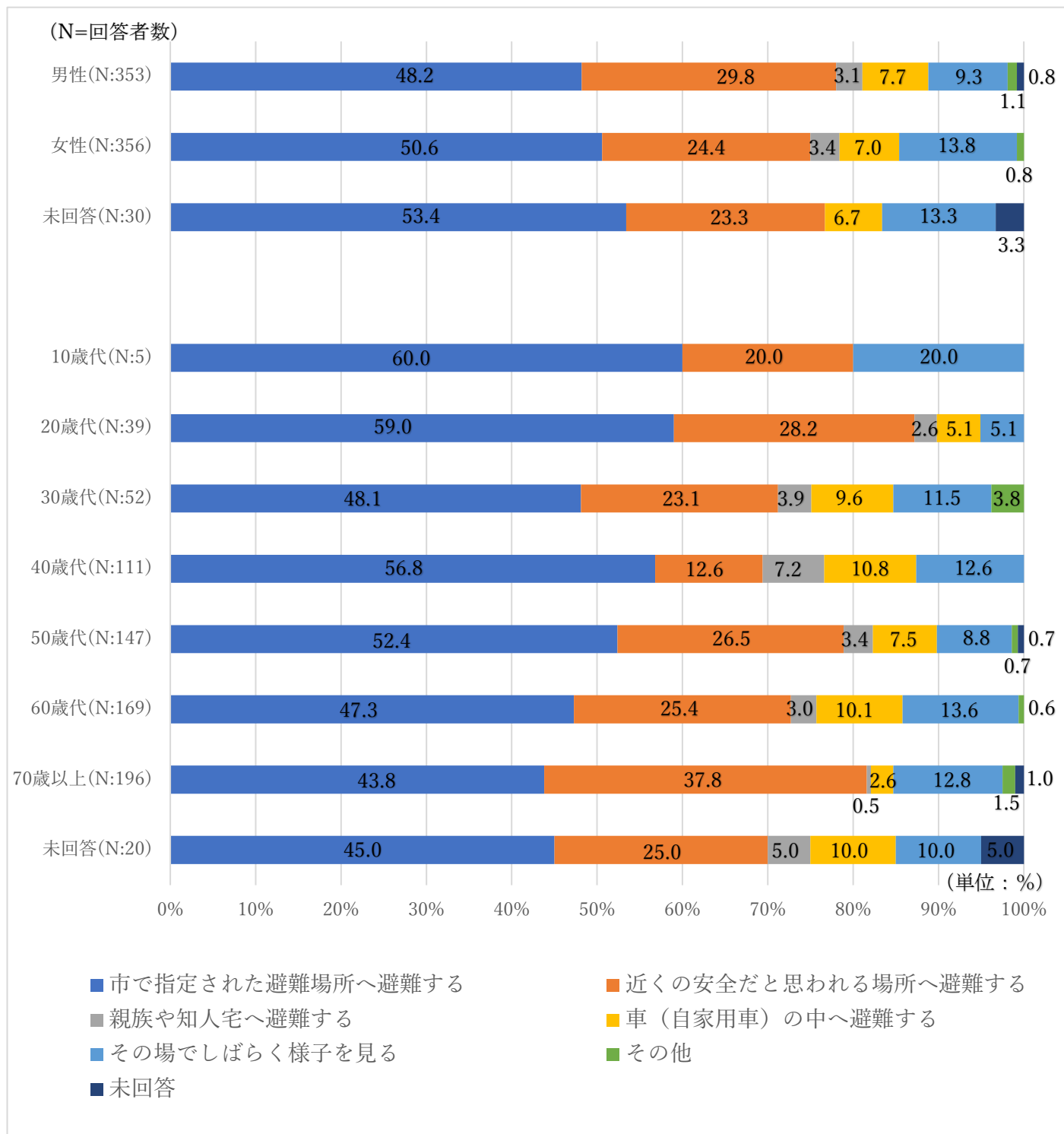
図33：(自宅から) 避難する予定の場所



★ (自宅から) 避難する予定の場所【性別、年齢別】

- 「市で指定された避難場所へ避難する」は全年齢で約半数を占めている。
- 「近くの安全だと思われる場所へ避難する」は70歳代で37.8%となっている。

図34：(自宅から) 避難する予定の場所



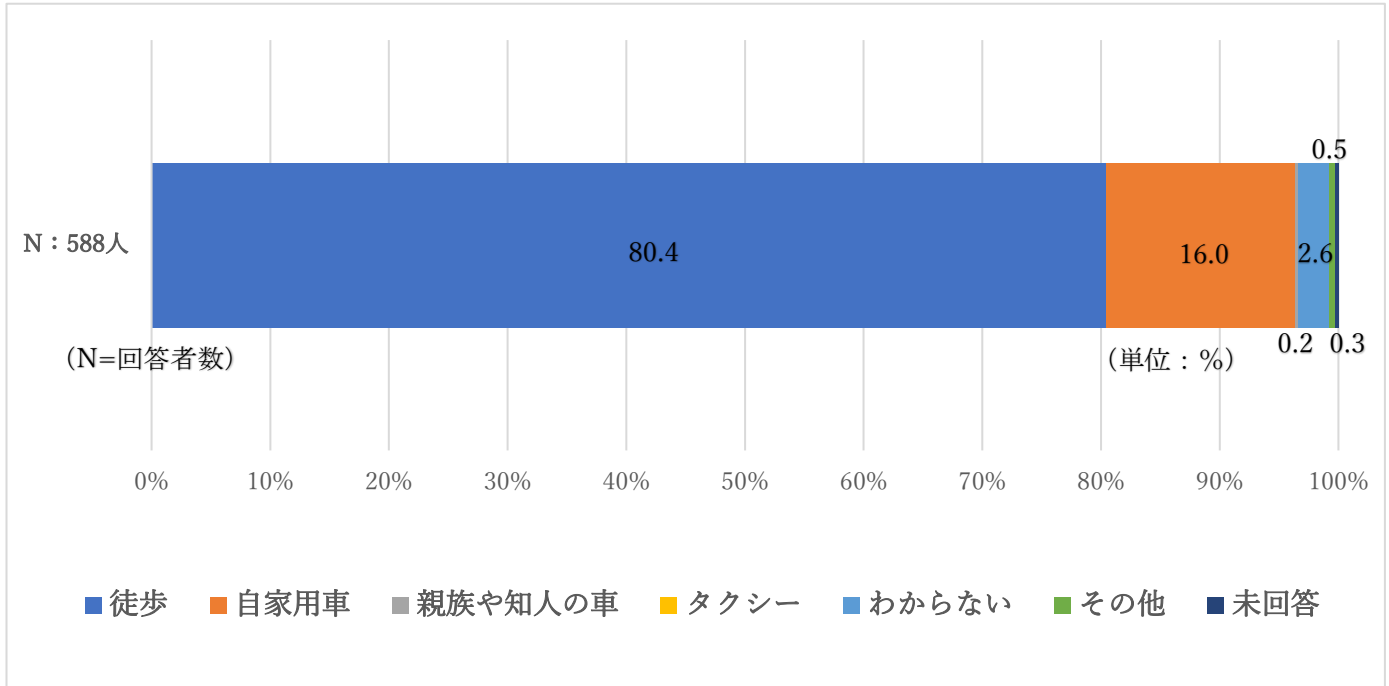
(3) 避難先への移動手段

(問19で1、2、3を選択した方にかがいます)

問20 避難先までは何で移動しますか? (○は1つ)

- 移動手段は「徒歩」が大半を占めており80.4%、次いで「自家用車」が16.0%となっている。
- 「親族や知人の車」が0.2%、「わからない」が2.6%、「その他」が0.5%、「未回答」が0.3%で、「タクシー」は0%となっている。

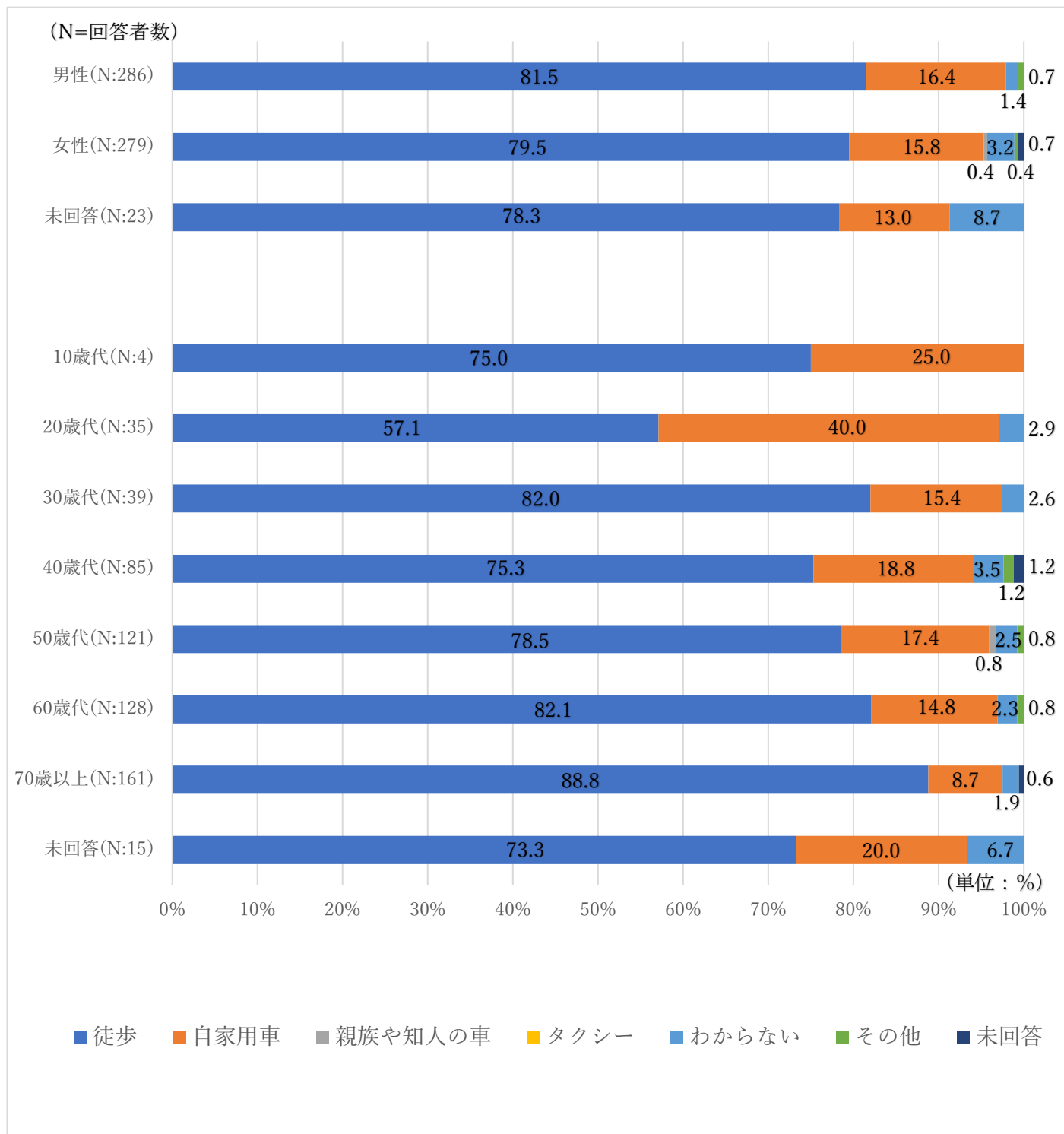
図35：避難先への移動手段



★ 避難先への移動手段【性別、年齢別】

○ 年齢別で見ると、「徒歩」と回答した人は、20歳代以外は80%前後となっており、20歳代は40.0%が「自家用車」となっている。

図36：避難先への移動手段

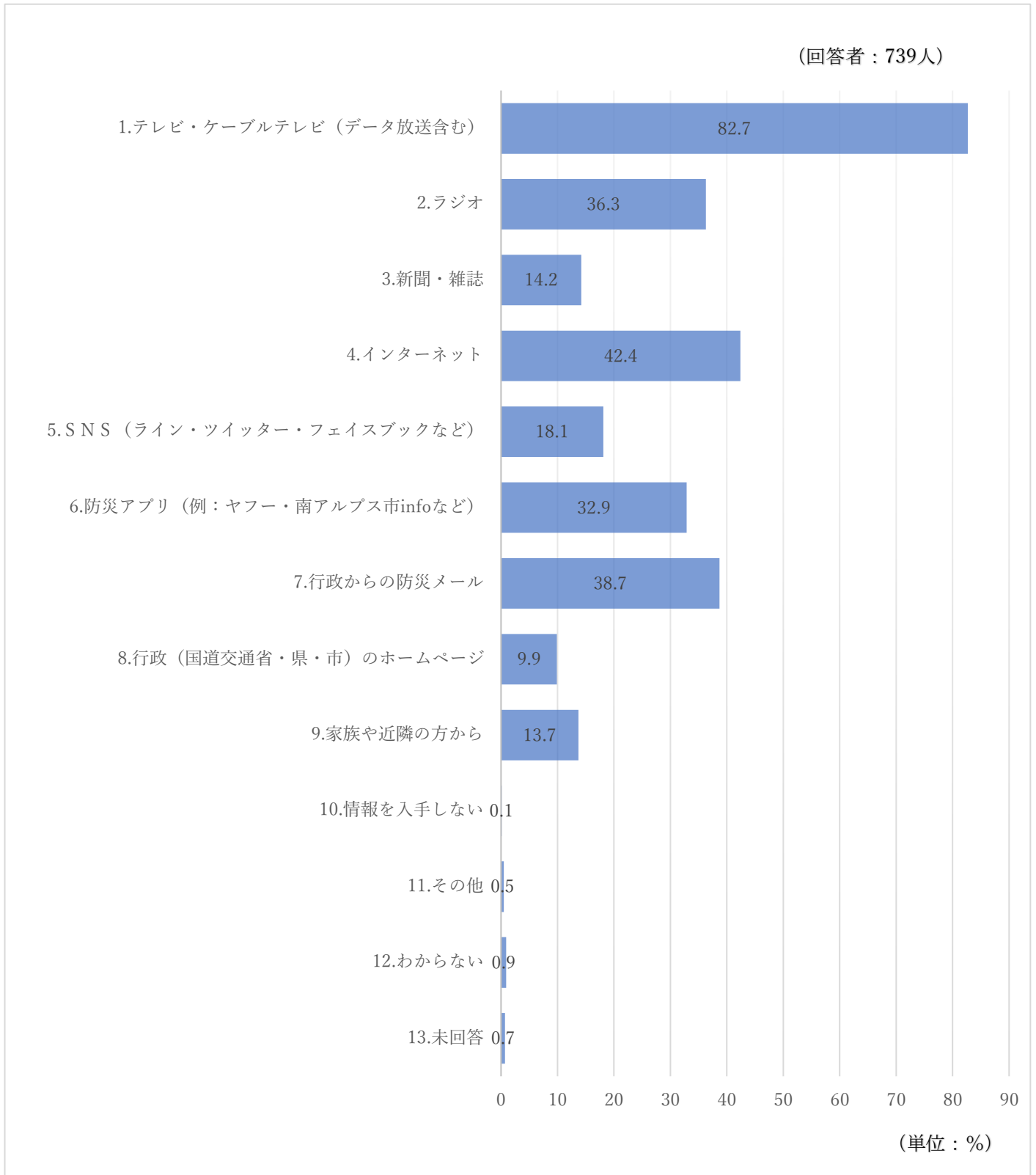


(4) 豪雨時などの雨や河川の情報入手先

問2 1 あなたは豪雨などの時に雨や河川の情報をどこで入手しますか？
(〇はいくつでも)

- 情報入手先としては「テレビ・ケーブルテレビ」は82.7%と圧倒的に多く、次いで「インターネット」が42.4%、「行政からの防災メール」が38.7%となっている。

図3 7：豪雨時などの雨や河川の情報入手先



★ 豪雨時などの雨や河川の情報入手先【性別、年齢別】

- 年齢別で見ると、10歳代と20歳代では「SNS」の割合が高くなる。
- 70歳代以上では他の年代と比べて、「ラジオ」の割合が高く、「インターネット」の割合は低くなっている。

表16：豪雨時などの雨や河川の情報入手先

		回答者数	テレビ・ケーブルテレビ (データ放送含む)	ラジオ	新聞・雑誌	インターネット	SNS (ライン・ツイッター・フェイスブックなど)	防災アプリ (例：ヤフー、南アルプスインフォなど)	行政からの防災メール	行政(国土交通省・県・市)のホームページ	家族や近隣の方から	情報を入手しない	その他	わからない	未回答
単位：％ 回答者数：回答数(人)															
問31 (性別)	男性	353	82.7	37.4	15.6	45.3	15.3	31.4	40.5	11.3	11.9	0.3	0.8	1.1	0.8
	女性	356	82.3	34.8	12.6	41.0	20.8	33.4	37.1	8.7	15.2	0	0.3	0.8	0.3
	未回答	30	86.7	40.0	16.7	23.3	20.0	43.3	36.7	6.7	16.7	0	0	0	3.3
問32 (年齢)	10歳代	5	80.0	40.0	20.0	80.0	60.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0	0	0	0
	20歳代	39	64.1	17.9	5.1	48.7	53.8	41.0	17.9	5.1	23.1	0	0	0	0
	30歳代	52	75.0	25.0	7.7	44.2	28.8	30.8	34.6	15.4	7.7	1.9	0	0	0
	40歳代	111	75.7	28.8	8.1	64.0	28.8	31.5	29.7	11.7	7.2	0	0.9	2.7	0.9
	50歳代	147	82.3	32.7	12.9	61.2	19.0	32.0	32.0	8.8	10.2	0	0	0	0.7
	60歳代	169	89.9	33.7	15.4	40.8	11.9	39.6	46.7	9.5	11.8	0	0.6	0.6	0
	70歳以上	196	86.2	51.5	19.9	16.8	6.1	26.5	48.0	9.7	21.9	0	1.0	1.5	1.0
未回答	20	85.0	40.0	25.0	20.0	15.0	40.0	35.0	5.0	5.0	0	0	0	5.0	

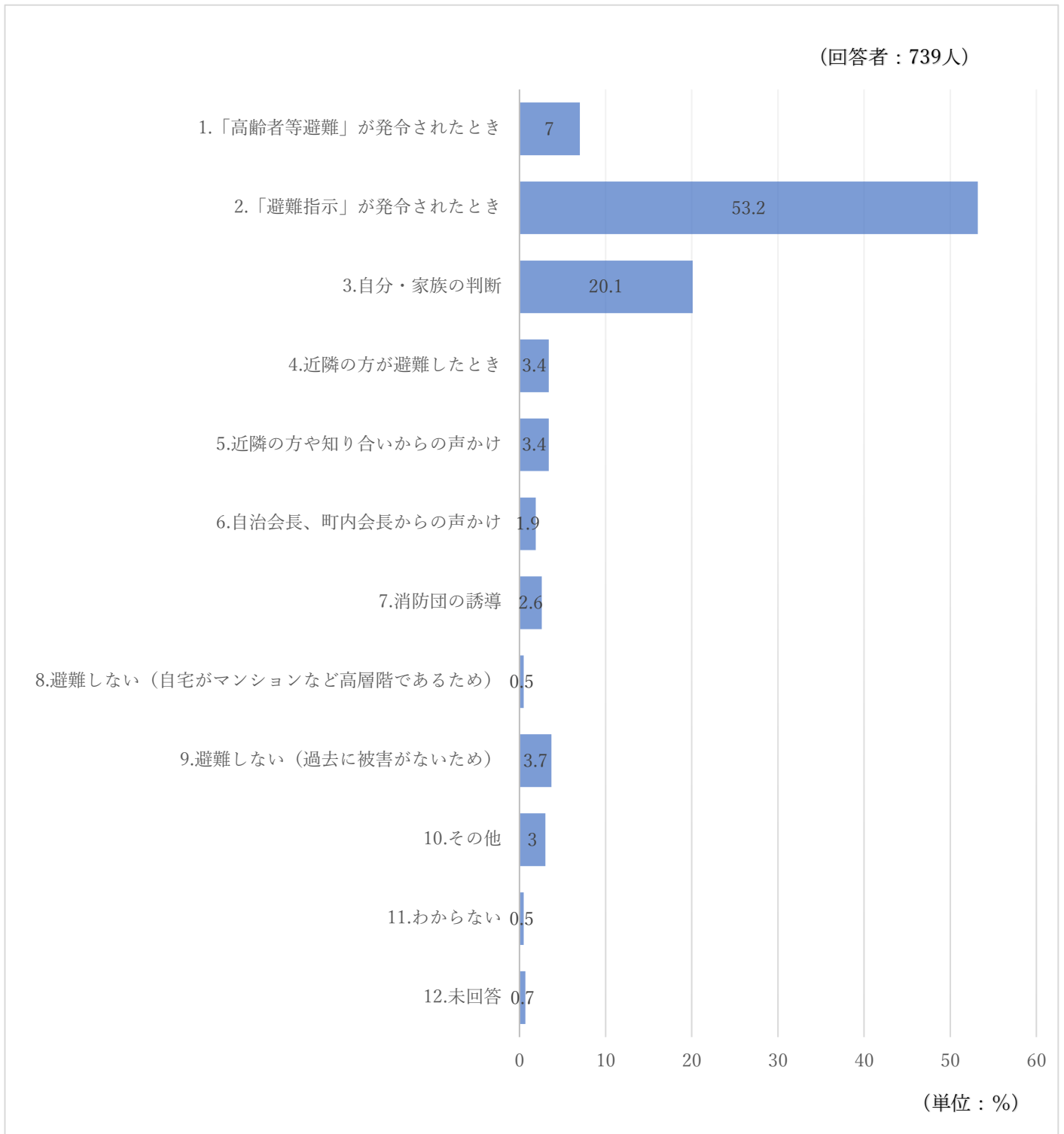
(5) 水災害時の避難する状況判断

問22 あなたは水災害時にどのような状況になったら避難しますか？

(○は1つ)

- 水災害時の避難する状況判断としては、「避難指示が発令されたとき」が53.2%と最も多く、次いで「自分・家族の判断」が20.1%、「高齢者等避難が発令されたとき」が7%となっている。

図38：水災害時の避難する状況判断



★ 水災害時の避難する状況判断【性別、年齢別】

- すべての年代で「避難指示が発令されたとき」の割合が高くなっている。
- 「高齢者等避難が発令されたとき」は、70歳以上でも14.7%と低い割合となっている。

表 17：水災害時の避難する状況判断

		回答者数	「高齢者等避難」が発令されたとき	「避難指示」が発令されたとき	自分・家族の判断	近隣の方が避難したとき	近隣の方や知り合いからの声かけ	自治会長、町内会長からの声かけ	消防団の誘導	避難しない（自宅がマンションなど高層階であるため）	避難しない（過去に被害がないため）	その他	わからない	未回答
単位：％ 回答者数：回答数（人）														
問 3 1 (性別)	男性	353	6.6	51.3	24.7	2.5	2.5	0.8	1.4	0.6	4.8	3.4	0.6	0.8
	女性	356	7.6	55.9	14.9	3.9	4.2	2.8	3.9	0.6	2.8	2.5	0.6	0.3
	未回答	30	6.7	43.4	30.0	6.7	3.3	3.3	0	0	0	3.3	0	3.3
問 3 2 (年齢)	10 歳代	5	0	60.0	20.0	20.0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20 歳代	39	0	43.5	35.9	5.1	5.1	0	2.6	2.6	2.6	2.6	0	0
	30 歳代	52	0	53.8	25.0	3.8	0	3.8	2.0	2.0	3.8	3.8	2.0	0
	40 歳代	111	0	58.6	17.1	6.3	3.6	0	3.6	0	2.7	7.2	0	0.9
	50 歳代	147	6.8	61.2	15.0	2.7	4.8	2.0	2.7	0	1.4	2.0	0.7	0.7
	60 歳代	169	7.1	54.4	20.7	3.6	3.6	0	2.3	1.2	4.7	1.2	0.6	0.6
	70 歳以上	196	14.7	45.4	19.9	1.0	2.6	4.1	2.6	0	5.6	3.1	0.5	0.5
	未回答	20	5.0	45.0	30.0	5.0	5.0	5.0	0	0	0	0	0	5.0

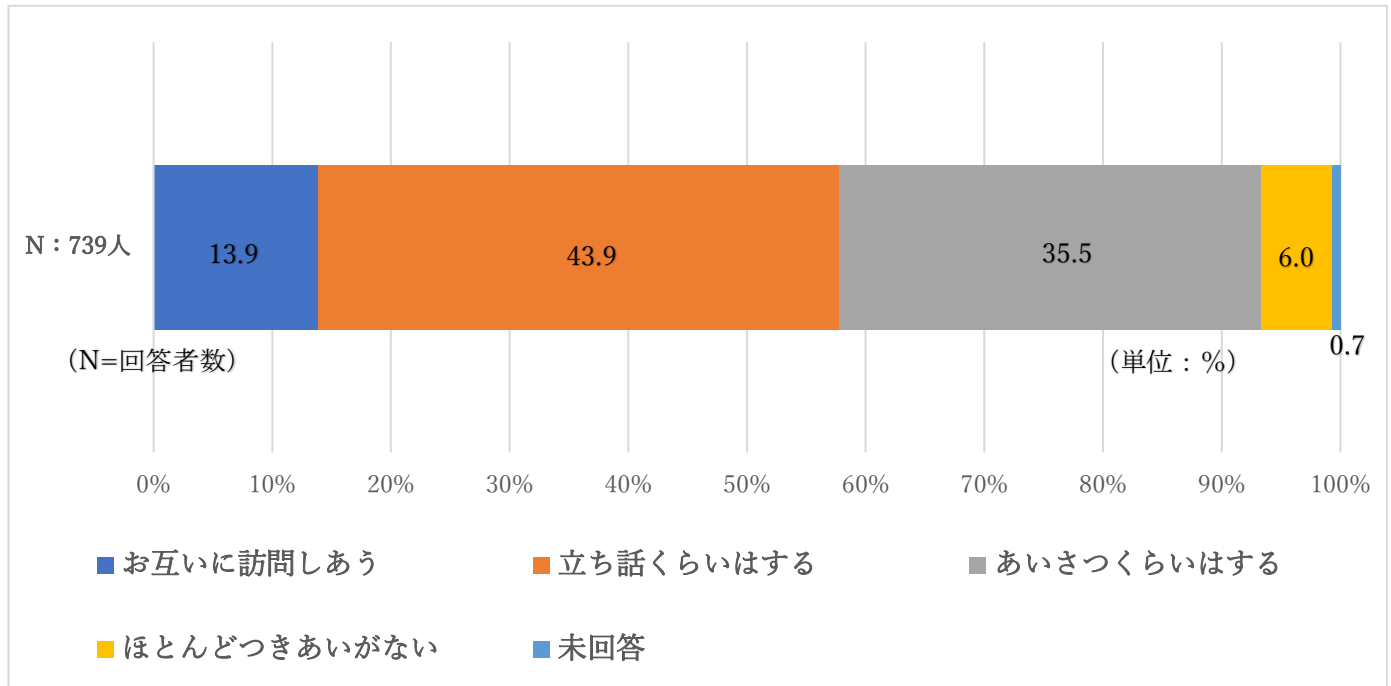
5. 地域の防災体制について

(1) 普段の近所づきあい

問 2 3 大規模災害の際の対応には、地域住民どうしの助け合いが重要であるといわれています。あなたは普段、近所とのおつきあいをどの程度していますか？
(○は1つ)

- 普段の近所づきあいは「立ち話くらいはする」が43.9%と最も多く、次いで「あいさつくらいはする」が35.5%となっている。

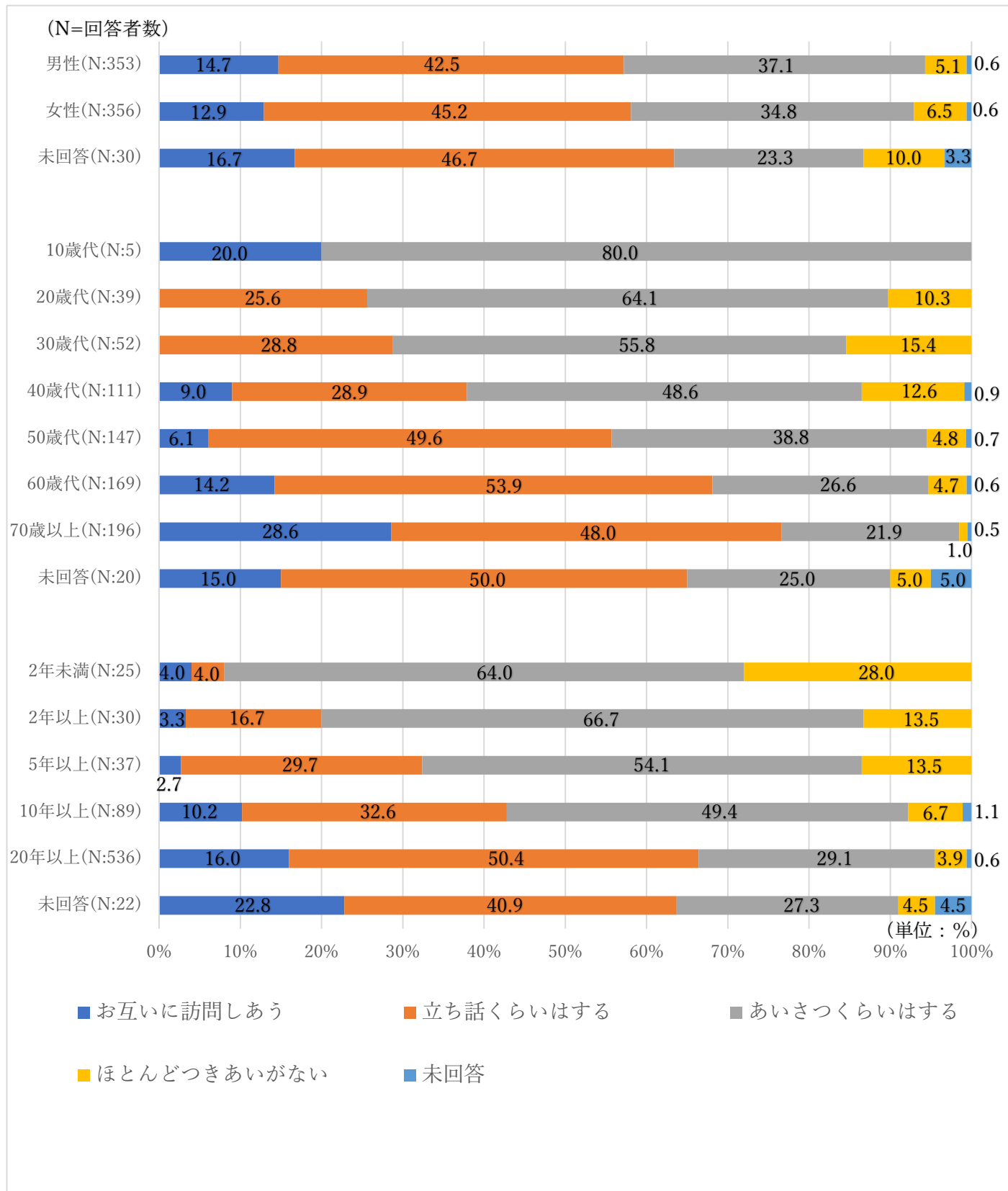
図 3 9 : 普段の近所づきあい



★ 普段の近所づきあい【性別、年齢、在住期間別】

- 年齢別にみると、年齢が高いほど「お互いに訪問しあう」「立ち話くらいはする」の割合が高い傾向となっている。
- 在住期間別にみると、在住期間が短いほど「ほとんどつきあいが無い」の割合が高くなっている。

図40：普段の近所づきあい

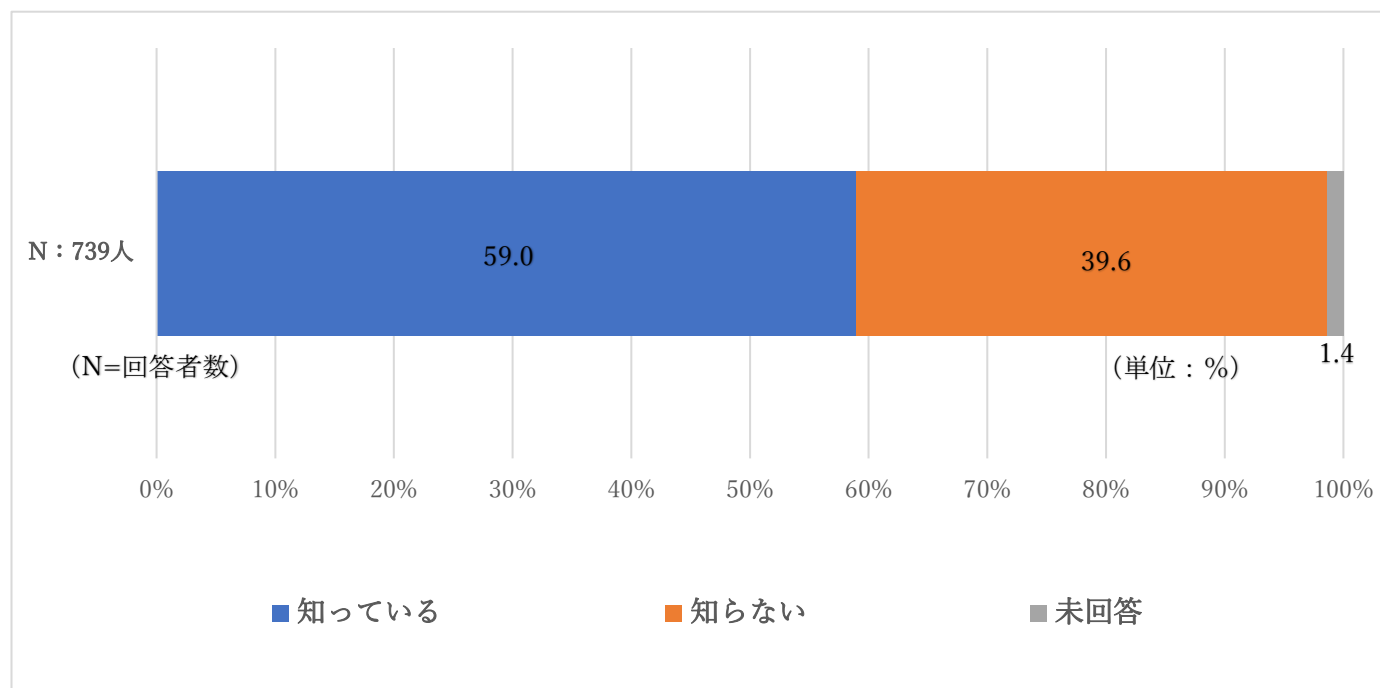


(2) 地域の自主防災組織

問 2 4 あなたがお住まいの地域には自主防災組織があるか、知っていますか？
(○は1つ)

○ 自主防災組織があるかどうかを「知らない」人は 39.6%となっている。

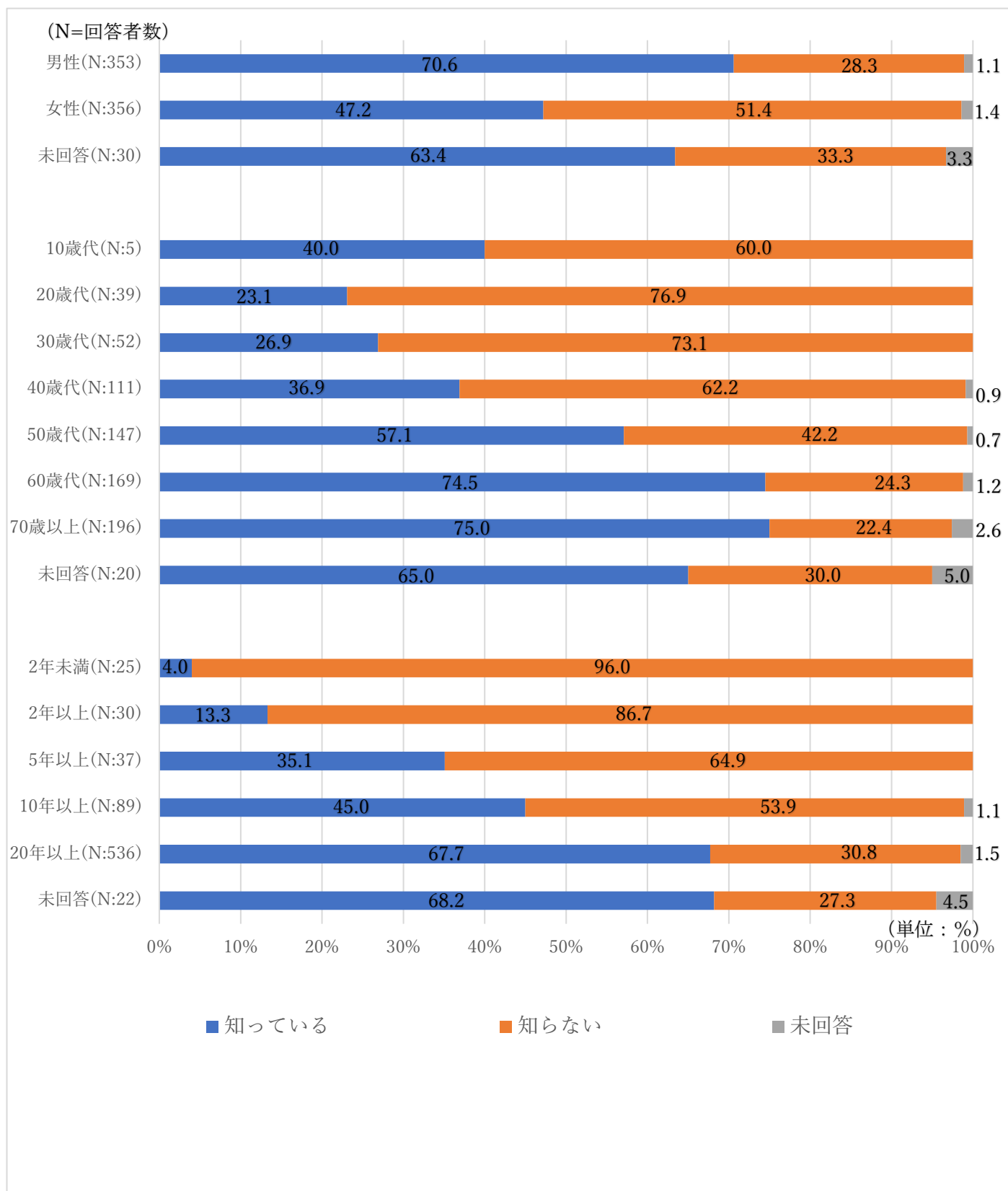
図 4 1 : 地域の自主防災組織



★ 地域の自主防災組織【性別、年齢、在住期間別】

○ 年齢が高いほど、また在住期間が長いほど「知っている」人の割合が高くなっている。

図 4 2 : 地域の自主防災組織

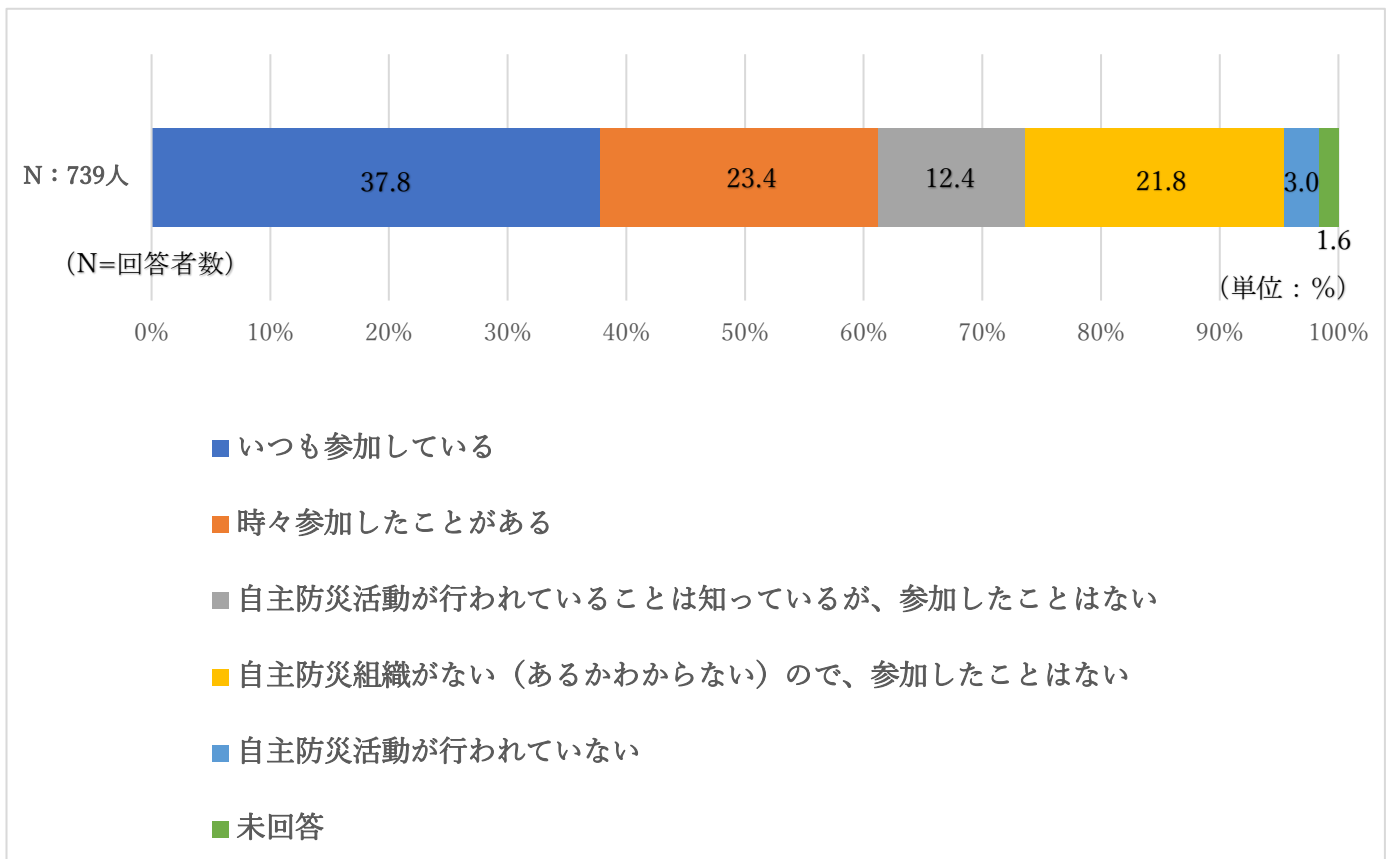


(3) 地域の自主防災活動への参加経験

問 2 5 自主防災組織（消防団除く）などにおいても防災訓練や防災活動（防災機材の点検、防災知識の普及など）が行われています。あなたは、こうした自主防災活動に参加したことがありますか？（○は1つ）

- 地域の自主防災活動に「いつも参加している」37.8%と、「時々参加したことがある」23.4%を合わせた『参加したことがある』人は、61.2%となっている。
- 「自主防災活動が行われていることは知っているが、参加したことはない」12.4%と、「自主防災組織がない（あるかわからない）ので、参加したことはない」21.8%を合わせた『参加したことがない』人は34.2%である。

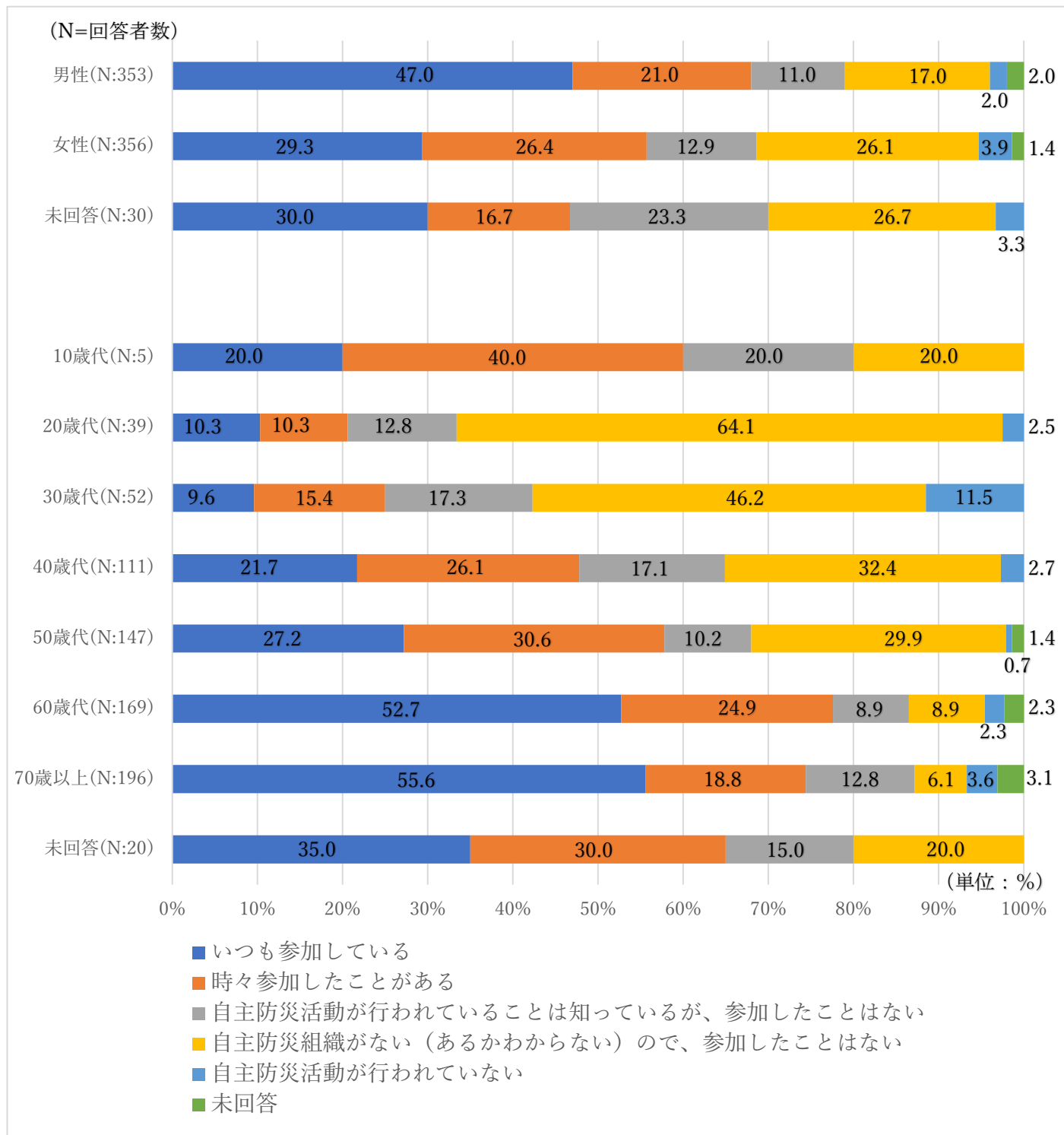
図 4 3 : 地域の自主防災活動への参加経験



★ 地域の自主防災活動への参加経験【性別、年齢別】

- 年齢別にみると、60歳代と70歳以上が「いつも参加している」割合が、他の年齢と比べて高くなっている。
- 20歳代の64.1%、30歳代の46.2%が、「自主防災組織がない（あるかわからない）ので、参加したことはない」と回答している。

図4-4：地域の自主防災活動への参加経験

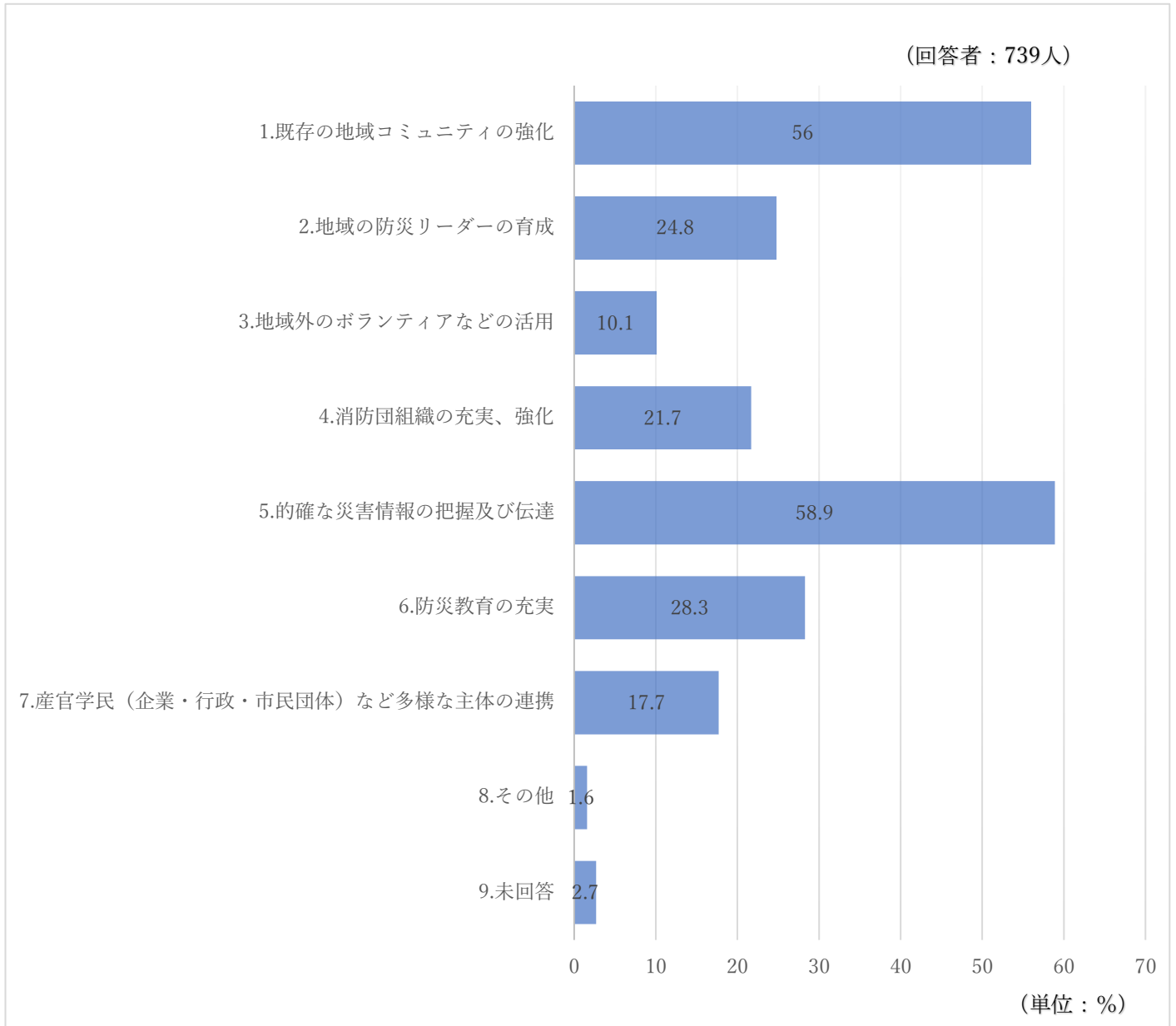


(4) 地域の防災力を高めるために必要なこと

問26 東日本大震災のような大規模災害が発生した際には、行政の取組だけでは対応に限界があります。自分の身は自分で守るという「自助」、地域の人がお互いに助け合う「共助」、それに行政の「公助」の3つが連携して地域の防災力を強化していくことが重要となります。あなたは地域防災力を高めるため何が必要だと思いますか？ (〇は3つまで)

- 地域防災力を高めるために必要なことは、「的確な災害情報の把握及び伝達」が58.9%となっており、次いで「既存の地域コミュニティの強化」が56.0%となっている。

図45：地域の防災力を高めるために必要なこと



★ 地域の防災力を高めるために必要なこと【性別、年齢別】

- 年齢別で見ると、「既存の地域コミュニティの強化」と「的確な災害情報の把握及び伝達」がどの年代においても、比較的高い数値となっている。
- 70歳以上では、「地域の防災リーダーの育成」「消防団組織の充実・強化」が30%を超える割合となっている。

表18：地域の防災力を高めるために必要なこと

単位：％ 回答者数：回答数（人）		回答者数	既存の地域コミュニティの強化	地域の防災リーダーの育成	地域外のボランティアなどの活用	消防団組織の充実・強化	的確な災害情報の把握及び伝達	防災教育の充実	多様な主体の連携 産官学民（企業・行政・市民団体）など	その他	未回答
問31 (性別)	男性	353	61.5	22.7	11.9	24.4	56.7	26.1	19.3	2.3	3.4
	女性	356	52.5	27.2	8.4	19.1	61.5	30.6	14.9	1.1	2.2
	未回答	30	33.3	20.0	10.0	20.0	53.3	26.7	33.3	0	0
問32 (年齢)	10歳代	5	40.0	20.0	40.0	40.0	60.0	40.0	0	0	0
	20歳代	39	30.0	10.3	12.8	23.1	53.8	46.2	15.4	2.6	2.6
	30歳代	52	51.9	25.0	5.8	13.5	53.8	38.5	23.1	3.8	3.8
	40歳代	111	44.1	17.1	13.5	17.1	63.1	30.6	22.5	0.9	0
	50歳代	147	63.9	23.1	9.5	13.6	63.3	24.5	10.9	0.7	2.7
	60歳代	169	61.5	26.6	7.7	23.1	65.7	26.0	20.7	1.8	2.4
	70歳以上	196	59.7	31.6	10.7	30.1	50.0	26.0	15.8	2.0	4.6
	未回答	20	45.0	25.0	10.0	25.0	55.0	20.0	30.0	0	0

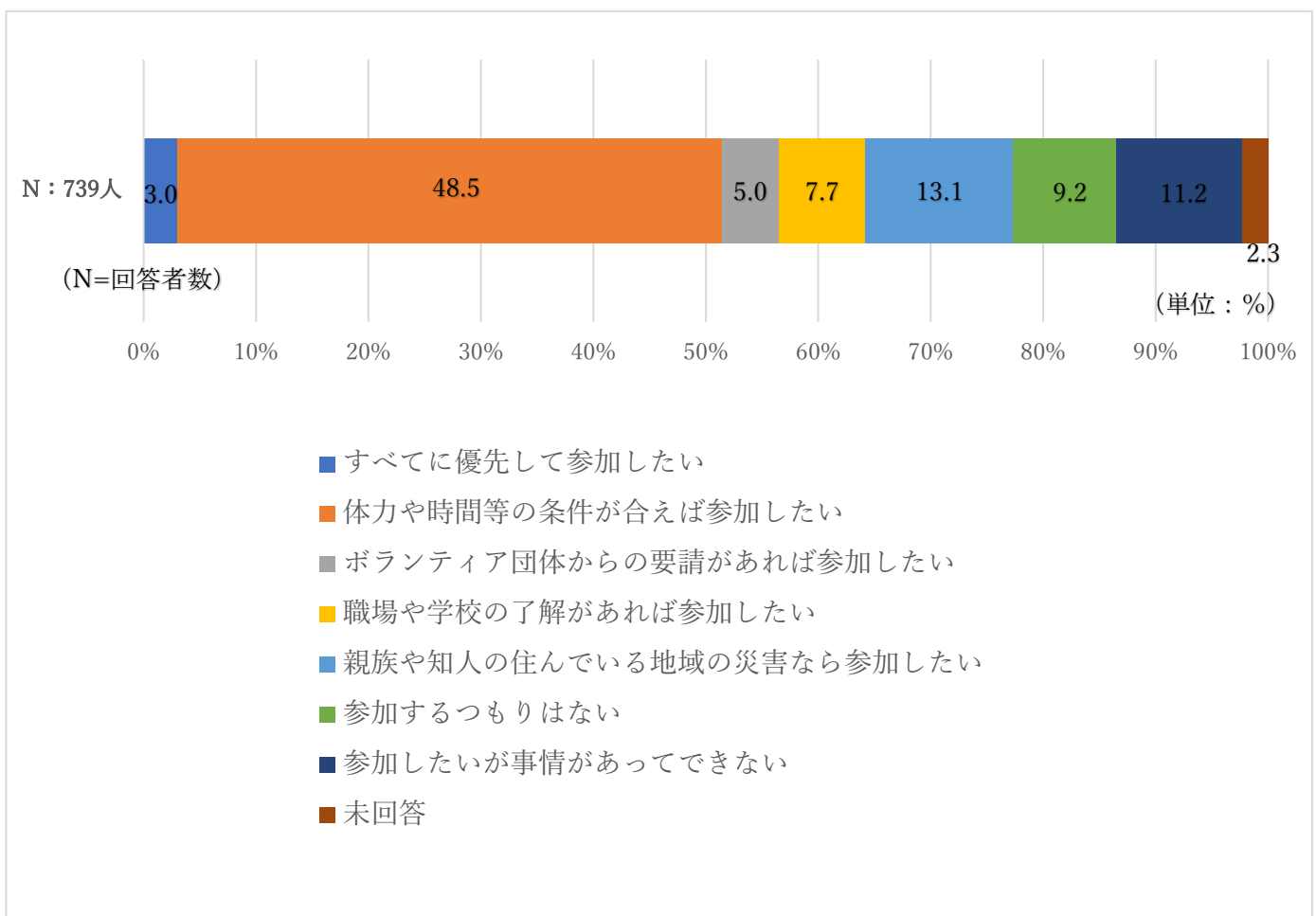
6. 災害時のボランティア活動について

(1) 被災地でのボランティア活動への参加意向

問27 災害が発生すると、被災地では救援・医療活動や復旧活動、物資の搬送や情報伝達といった様々な支援が必要となってきます。あなたはお住まいの地域以外で災害が発生したとき、このような活動にボランティアとして参加したいと思いますか？ (○は1つ)

- 77.3%の人が条件次第で『参加したい』と考えている。
- 自分の地域以外の被災地でのボランティア活動に「体力や時間等の条件が合えば参加したい」人が48.5%と最も多くなっている。

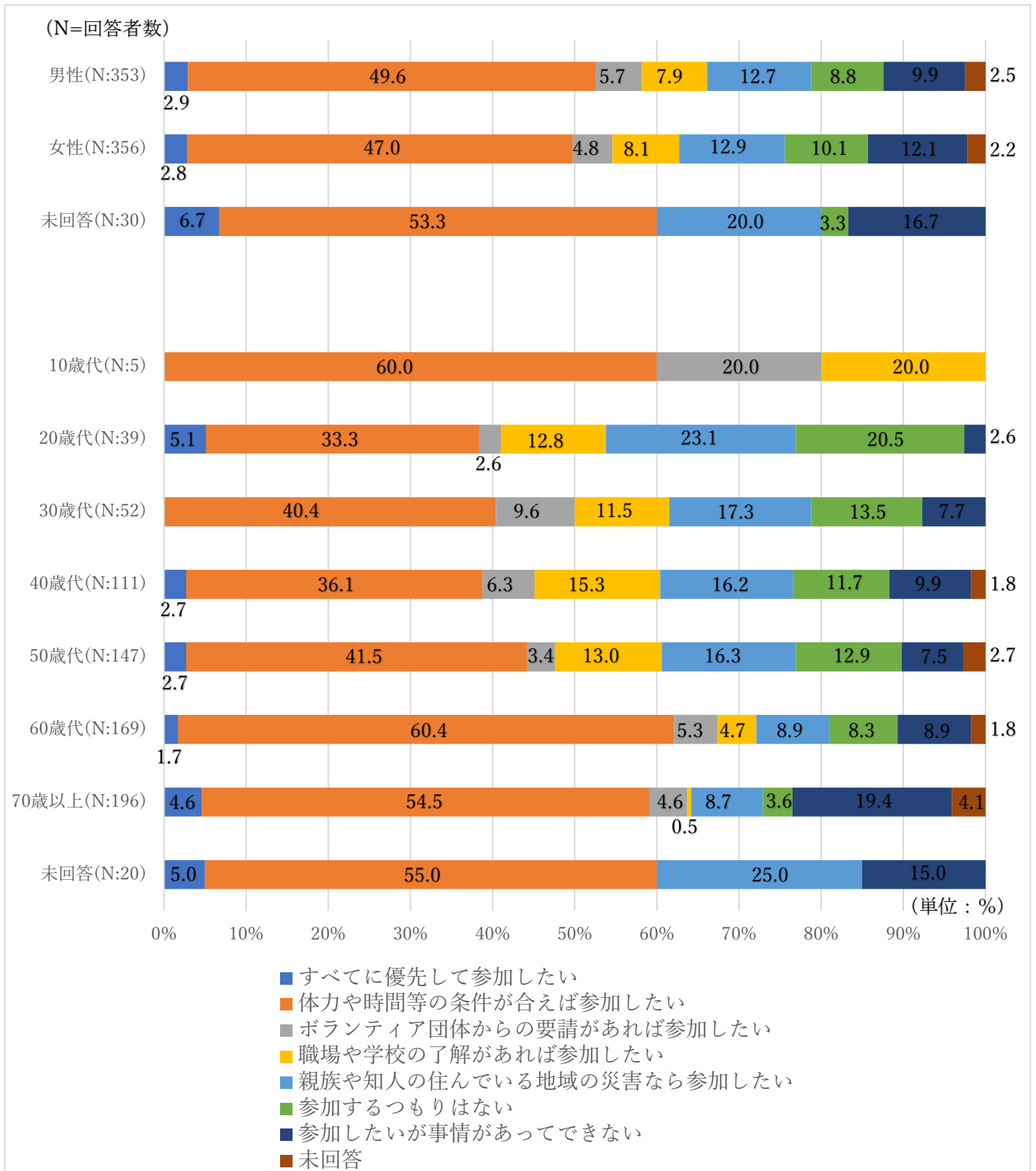
図46：被災地でのボランティア活動への参加意向



★ 被災地でのボランティア活動への参加意向【性別、年齢別】

- 年齢別にみると、「体力や時間等の条件が合えば参加したい」は、10歳代、60歳代、70歳代で高い割合となっている。
- 条件次第で『参加したい』と考えている割合は、60歳代が一番高くなっている。

図47：被災地でのボランティア活動への参加意向



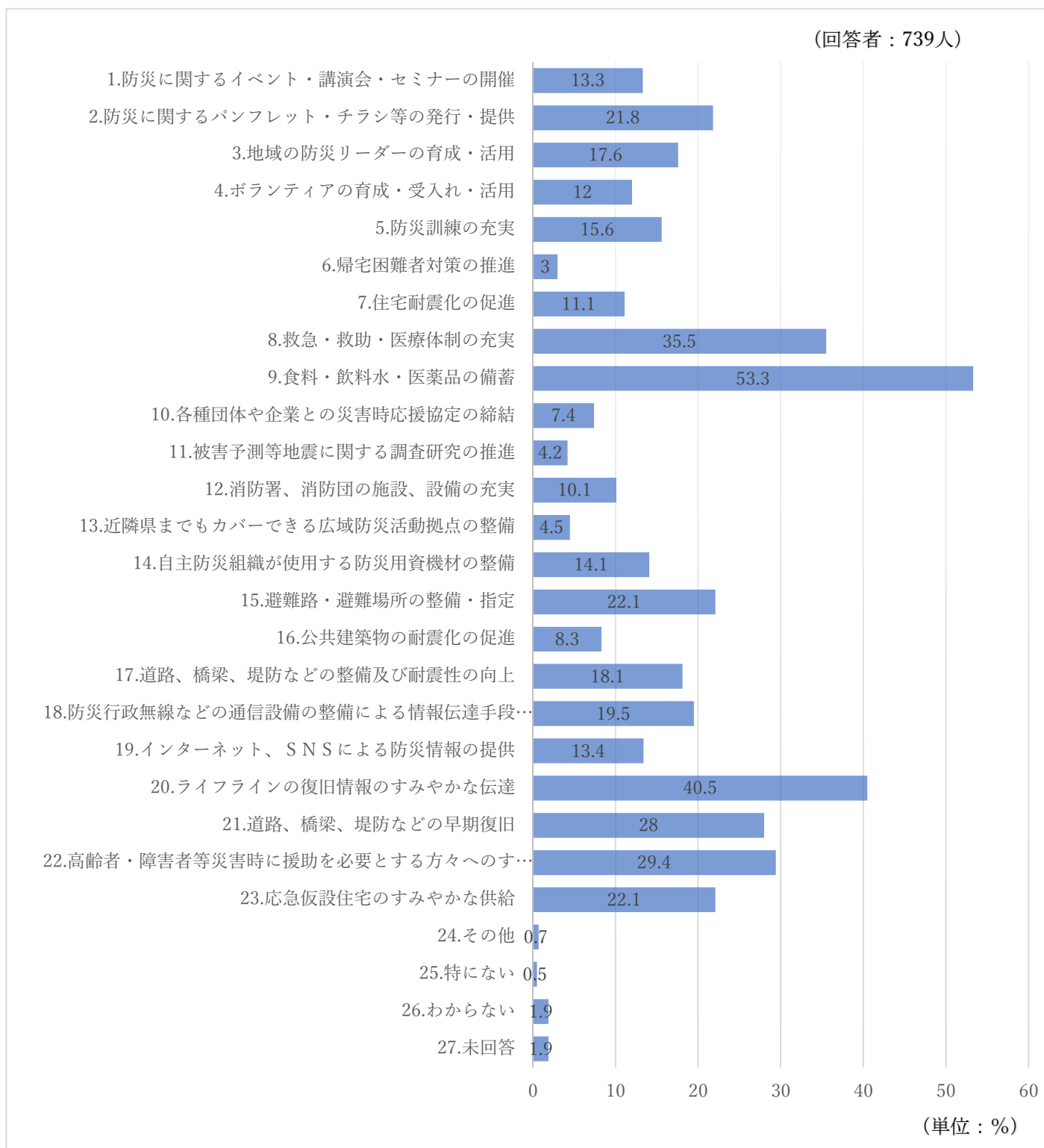
7. 市の防災・災害対策について

(1) 市に特に力を入れてほしい防災・災害対策

問28 あなたが、市に特に力を入れてほしい防災・災害対策は、どのようなことですか？ (〇は3つまで)

- 「食料・飲料水・医薬品の備蓄」が53.3%と最も力を入れてほしい対策となっている。
- 次いで「ライフラインの復旧情報のすみやかな伝達」が40.5%、「救急・救助・医療体制の充実」が35.5%となっている。

図48：市に特に力を入れてほしい防災・災害対策



★ 市に特に力を入れてほしい防災・災害対策【性別、年齢別】

- 年齢別にみると、「地域の防災リーダーの育成、活用」、「防災訓練の充実」及び「防災行政無線などの通信設備に整備による情報伝達手段の拡充」「高齢者・障害者等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」は、60歳代と70歳以上が他の年代と比較して高い割合となっている。
- どの年代においても、「救急・救助・医療体制の充実」、「食料・飲料水・医薬品の備蓄」及び「ライフラインの復旧情報のすみやかな伝達」は、高い割合にある。

表 19：市に特に力を入れてほしい防災・災害対策

		回答者数	防災に関するイベント・講演会・セミナーの開催	防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供	地域の防災リーダーの育成、活用	ボランティアの育成、受け入れ、活用	防災訓練の充実	帰宅困難者対策の推進	住宅耐震化の促進	救急・救助・医療体制の充実	食料・飲料水・医薬品の備蓄	各種団体や企業との災害時応援協定の締結	被害予測等地震に関する調査研究の推進	消防署、消防団の施設、設備の充実	近隣県までもカバーできる広域防災活動拠点の整備	自主防災組織が使用する防災用資機材の整備
単位：%																
回答者数：回答数（人）																
問 3 1 (性別)	男性	353	15.9	23.5	16.1	10.2	17.0	2.3	13.3	34.0	49.9	5.7	3.4	12.5	4.2	17.0
	女性	356	11.2	19.9	18.8	13.2	14.6	3.9	9.3	53.4	56.5	8.7	5.3	7.6	4.5	10.7
	未回答	30	6.7	23.3	20.0	20.0	10.0	0	6.7	53.3	56.7	13.3	0	13.3	6.7	20.0
問 3 2 (年齢)	10歳代	5	0	0	0	0	0	0	20.0	20.0	80.0	0	20.0	0	0	0
	20歳代	39	2.6	15.4	5.1	10.3	0	7.7	12.8	33.3	66.7	7.7	5.1	7.7	0	7.7
	30歳代	52	3.8	19.2	3.8	9.6	15.4	3.8	13.5	32.7	53.8	3.8	5.8	9.6	1.9	13.5
	40歳代	111	7.2	18.9	7.2	8.1	6.3	1.8	8.1	36.9	65.8	6.3	3.6	7.2	3.6	6.3
	50歳代	147	10.2	14.3	13.6	10.9	8.8	2.0	10.2	37.4	55.8	6.1	2.7	8.2	8.2	10.9
	60歳代	169	15.4	23.1	20.1	16.6	18.9	4.1	14.8	39.1	46.7	8.3	4.1	11.2	4.1	15.4
	70歳以上	196	23.5	30.1	30.6	11.7	27.6	2.6	9.7	29.1	46.4	9.2	5.1	13.3	4.1	20.9
	未回答	20	0	25.0	20.0	20.0	5.0	0	5.0	60.0	55.0	10.0	0	10.0	5.0	20.0

表 19 : 市に特に力を入れてほしい防災・災害対策

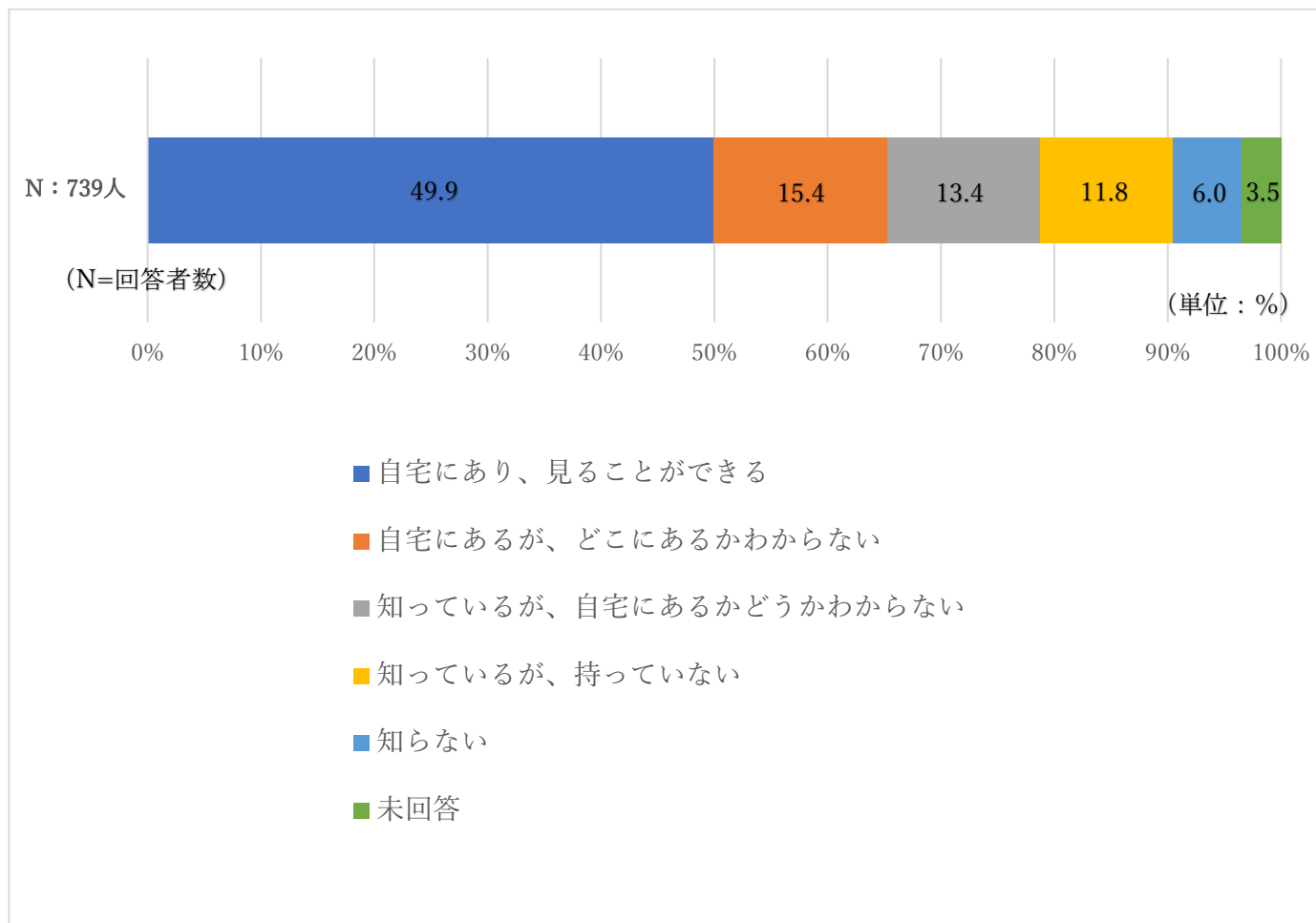
		回答者数	避難路・避難場所の整備・指定	公共建築物の耐震化の促進	道路、橋梁、堤防などの整備及び耐震性の向上	防災行政無線などの通信設備に整備による情報伝達手段の拡充	インターネット、SNS等による防災情報の提供	ライフラインの復旧情報のすみやかな伝達	道路、橋梁、堤防などの早期復旧	高齢者・障害者等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援	応急仮設住宅のすみやかな供給	その他	特になし	わからない	未回答
単位：％ 回答者数：回答数（人）															
問 3 1 (性別)	男 性	353	20.1	7.9	16.7	20.7	14.4	36.0	28.3	27.2	20.4	0.3	0.8	2.0	2.0
	女 性	356	24.2	8.4	19.1	17.1	12.6	45.8	25.8	30.6	24.2	1.1	0.3	1.7	2.0
	未回答	30	20.0	10.0	23.3	33.3	10.0	30.0	50.0	40.0	16.7	0	0	3.3	0
問 3 2 (年齢)	10 歳代	5	20.0	0	20.0	0	60.0	20.0	20.0	20.0	0	0	0	0	0
	20 歳代	39	23.1	7.7	17.9	7.7	12.8	28.2	15.4	28.2	17.9	2.6	0	0	0
	30 歳代	52	23.1	7.7	23.1	9.6	17.3	25.0	21.2	13.5	19.2	0	1.9	1.9	0
	40 歳代	111	18.9	3.6	16.2	11.7	18.0	33.3	18.9	12.6	12.6	0.9	0	2.7	0.9
	50 歳代	147	22.4	8.2	16.3	15.0	14.3	45.6	25.9	22.4	19.7	0	0	0.7	2.0
	60 歳代	169	21.9	8.3	17.2	21.3	16.6	46.7	32.5	32.0	24.9	0.6	0	0.6	1.8
	70 歳以上	196	23.0	10.7	19.4	30.1	6.1	43.4	33.2	44.9	29.1	1.0	1.5	3.6	3.6
未回答	20	25.0	15.0	25.0	30.0	5.0	30.0	50.0	45.0	20.0	0	0	5.0	0	

(2) 市の防災マップやハザードマップの所有

問29 あなたは、市が作成、配布している、防災マップやハザードマップ（地震や洪水等）を持っていますか？（○は1つ）

- 「自宅にあり、見ることができる」と回答している人が49.9%と約半数対して、『見ることができない又は持っていない』も46.6%と約半数となっている。

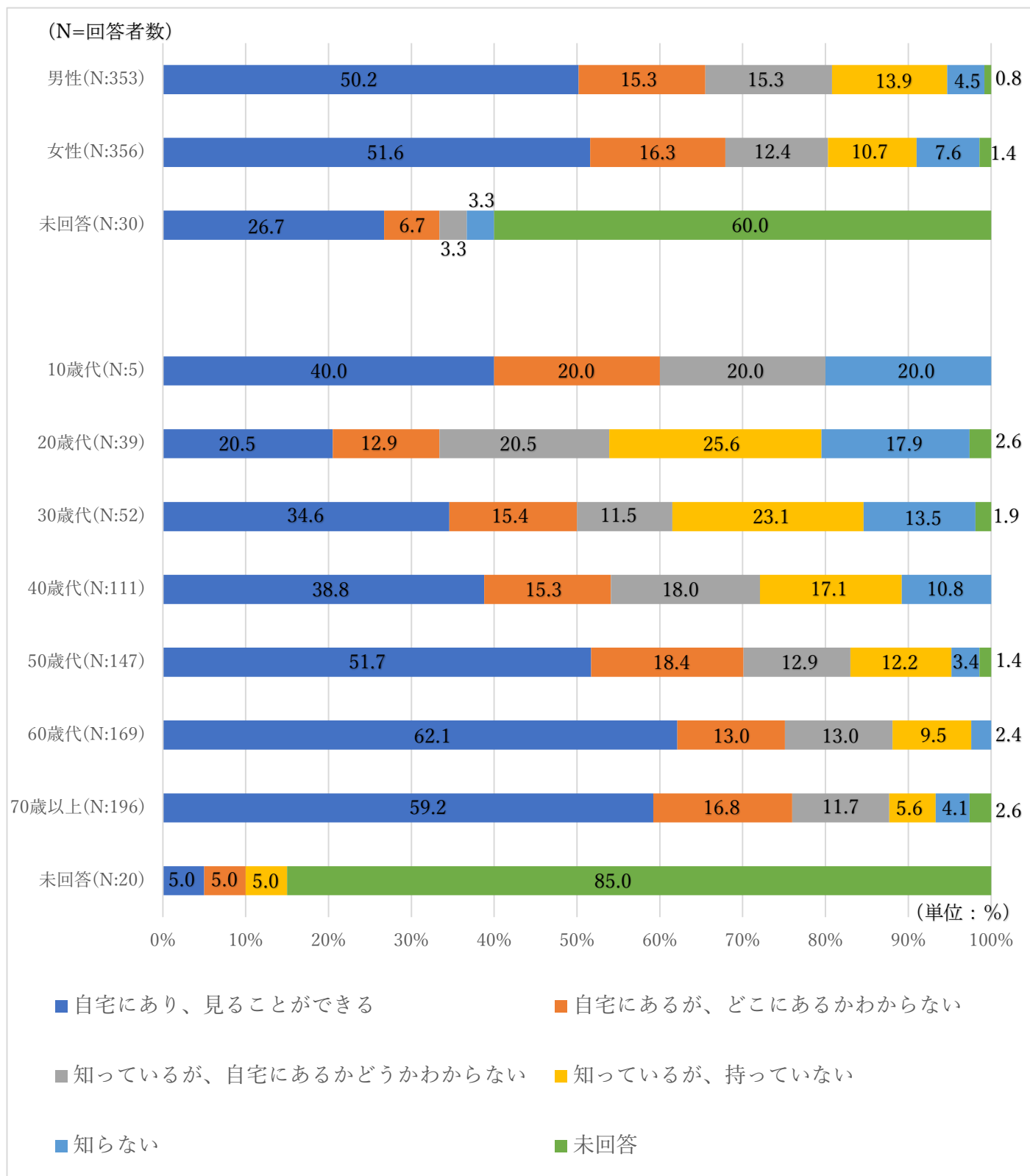
図49：市の防災マップやハザードマップの所有



★ 市の防災マップやハザードマップの所有【性別、年齢別】

- 年齢別にみると、年齢が高いほど「自宅にあり、見ることができる」と答えている割合が高くなる傾向がある。
- 『見ることができない、持っていない』は、20歳代が一番高い割合となっている。

図50：市の防災マップやハザードマップの所有



8. 市の防災・災害対策への自由意見

問30 市の防災・災害対策について、ご意見があればご記入ください。

1	高齢者で歩行が困難な方の避難は、自治会が責任を持って実行するのですか？その場合は自治会長の指示で良いですか？
2	私を含め、年をとっている者は、インターネットとかできない人もいますので、防災ハザードマップを年一回とか、何年かに一回とか再配布して頂けると助かると思います。宜しくお願ひ致します。
3	豪雨の時などは、防災無線が非常に聞き取りづらいので、防災無線以外の情報伝達ツールの拡大・充実の検討をお願いします。
4	災害が発生した時、地域消防団等の若い人たちの力。活動が必要になると思います。消防団に入る人達が少なくなっている今、市から何か入ってもらえるような特典など考えていただいて、以前のように体制を整えていただきたい。 耐震診断をしても、改修工事まで行われる人は少ないと思います。改修工事までしてもらえような補助を、もっと多くしていただく事は出来ないでしょうか？
5	防災のアナウンス（声）が何を話しているか聞こえない。どこのお家でも、大切な事はきちんと聞こえるようにしてほしい。 SNS、インターネットなどで、速報として発信してもらえたら、子育て世代や若い人たちも、関心が湧くかな？と思います。
6	いざ災害がおこれば準備をしておく余裕が生まれるので、今から準備しておきたいです。市の防災の訓練を9月だけでなくして欲しいです。
7	防災マップ、ハザードマップ非常に見にくい。 町会費、区費が2重取りになり、非常に高額であり、町内会等に入らなければ防災情報が、いっさいはいつてこない。 旧住所、例えば八田や楡形等の呼び名でいまだに呼んでいる為、分かりにくい 各住居に住居表示がない。 もっときめ細やかな分類（地域の分類）が必要。 非常に住みにくい市である。
8	24時間地域に居る住民（農業専従者など）で防災チームをつくり、いつでも出動できる体制をとる。
9	御勅使川（芦安～六科間）の川底が上がってきているので、早急に土・土砂を取りのぞく事！
10	市の放送が家の中だと聞きとりにくい為、家の中にも、よく聞きとれる器具があれば良いと思います。他町では使用している町もあります。
11	独居高齢者、視覚・聴覚障害者、身体障害者などの、弱者に対する災害時の整備を強化してほしい
12	防災無線の放送がとても聞こえにくい地域があります。建物や山に反響してしまい、全く内容が分からずいつも不安に思っています。アプリも入れていますが、いざという時は無線が頼りだと思ひます。定期的にチェックや住民への聞き取りを是非お願いします。（楡形 柿平は聞こえにくいです。

1 3	<p>ほとんど何も情報を受け取っていない。小中学校での教育が必要。</p> <p>高齢者の取扱いをどうするのか？← 高齢者だけで住んでいるような人たちの面倒はだれがみるのか？</p>
1 4	<p>山梨では比較的大きな災害はありません。しかし、平成26年の大雪は忘れることはできません。道路が寸断され食料、水、日常生活が脅かされました。やはり取り残されるのは、高齢者と子供、行政の公助だけでは限界があります。</p> <p>東日本大震災の被害にあった私の友人が岩手在住です。家は半分、一階は流され、二階は無事でした。リフォームして今も住んでいます。</p> <p>私はすぐ送るのを決め3日か4日に1回、米やカレー、食料を送り続け、お米は大変喜ばれました。このように必要なものは何か当事者に聞き的確な判断ができる指導者が急務だと思います。そして、友人は何が一番困ったか？と聞いたらトイレではなく、情報だと言っていました。正しい情報、これをぜひ行政で流してほしいと思います。私は高齢者の仲間入りです。</p> <p>ぜひ災害の時は、早めの判断、的確な支援。誰も取り残さず支援をお願いします。</p> <p>因みに、岩手には今も支援の物資（最近は年3回もろこし、ぶどう、米）を送り続けています。支援とはこういうものだと思います。</p>
1 5	<p>毎年9月に防災訓練を実施しているが、参集訓練と消防団による消火訓練で旧態依然でマンネリ化している。もっと現実にあった訓練を検討されたし。その為、各地区の防砂リーダーを増やし、知識や経験を積んでいただき、リーダーが中心になり実践的な訓練を望みます。また、各地区にそれぞれ地域に合った防災計画を作成し、それに基づき訓練や教育など実施できたらと思います。</p>
1 6	<p>実際に災害が起きた場合、準備しておいた防災グッズが、災害の大きさにより持ち出せるか？使うことができるのか？想像できませんが、各戸の良い保管場所はどこがよいのか？最小限用意しておく、必要な物は何か、もう一度配布をお願いしたい。</p>
1 7	<p>防災無線→家の中にいるとほとんど聞こえない。放送中一斉に声が出るものだから、声がわれてよく聞き取れない。</p> <p>地域に災害が起きた場合、ボランティア活動において、フォークリフトとかユンボでの活動をお願いしたらどうか？</p>
1 8	<p>災害はいつ起こるかわからないため、日頃から市役所ではマニュアルを作成していると思いますが、災害時にスピーディーに対応できるように情報の共有化を図り、市役所職員又は市に協力している団体には訓練を通じて有事に対応出来るようにしていただきたい。この事は、市民全ての方の意見として述べさせていただきます。</p>
1 9	<p>いざという時の防災無線には大きな期待を持っています。</p> <p>又、年1回行われる防災訓練も有意義ではありますが、私の住まいである小笠原地区では新たな取組が始まりました。その内容については、組長が組内の方、1軒1軒の家族の人数と要配慮者数などを記載したファイルを作成しました。こうした自治会の相互扶助が基本になると思いますが、現在コロナ禍などもあり、組内での活動の制限などで人々の結びつきが希薄になりつつあります。</p>
2 0	<p>近年の住宅は完全密閉型住宅となっており、気密性が高く、特に暴風の時には家の中では広報無線が聞こえない。よって防災無線を各戸に設置して災害時の情報を的確に伝えてほしい。</p>

2 1	何を根拠に災害が有りと言うのか、30年も前からさわいでいる。
2 1	防災Map<版数>改版履歴をキーワードで良いので表現してもらいたい。 例：6版 ○年○月○日 ○○ページ1項改版
2 2	コロナの影響で、防災訓練も出来なくなり、実際に災害にあった時の事を考えると、不安になります。直面したら慌ててしまい何も出来ないんじゃないかと思います。2011年3月11日の東日本大震災の時、あの揺れを思い出すと怖くなります。ニュースで家、車、人が流れ被災者がたくさん出て、海が近くになくて良かったと思いました。でも、山梨には富士山があります。もし噴火したら生命の危機だと思います。
2 3	防災無線が聞きとりづらい。
2 4	防災の放送が聞きとりにくい（勤務地が中央市だが比べてぜんぜん悪い） 今回のアンケートでパソコン（URL）で回答を試みたが、アンケートまでいかなかった。
2 5	会社員の多い中、地域の消防団は必要ないと思います。
2 6	自分の居住地域で災害時、実際どのような被害がおこるのか、どのような事を重点に防災に取り組んだらよいのか一度じっくり考える時間が必要と感じました。被災したら、その後も含めて、どう再建復興していくのか、情報や知識が必要だと思います。
2 7	国や県、そして市における防災・災害対策はそれぞれがしっかりと考えられ施されていると思います。しかし、末端の一部市民には浸透されていない部分があるように思います。それは、感心を持たない側にも責任があるのかもしれませんが、その様な人達をも巻き込むような施策が必要と思います。 詳細に組まれた防災訓練やハザードマップ等がありますが、一部の地域では、防災訓練時において、一時的な集合場所や指定緊急避難場所に集合させることを常としています。それは、現実としては余計な時間をとるだけであり、またその場所は、早期に災害に巻き込まれる場所のように思います。訓練時には、自宅の上階部に避難することや、より早く指定避難所に、実際に避難する訓練をするなどの、地域における訓練を現実的な訓練になるよう、地域住民が行動しなくてははいけません、市の方からも適切な指導をされるようお願いします。
2 8	水害対策の強化
2 9	自分が嫁いできて40数年、大きな災害にみまわれたことがありません。唯一、8年前の大雪でスーパーに野菜が売っていないという経験をしたくらいです。大雨でも洪水や土砂崩れもありません。私も含めて、この地域に住んでいる人は、根拠はないけど「ここは恵まれている、大丈夫」と思って生活しています。 避難訓練も近所の皆さん（といっても参加するのは、顔見知りの熟年、高齢者ばかり）と、おしゃべりしながら集まって、避難所に行って数を報告して、お茶をもらって帰ってくるという、年中行事の1つのような感じです（コロナ前は） でも、昨今の気象の狂いをみていると、災害は来ないだろうとは思ってはいけないんだなと思います。地震もここ〇〇年のうちに南海トラフ地震の起こる確率は〇〇%と言われ続けて数十年。でもきっと起こるんでしょう。やはり、自分の住んでいるところは、地震が

	来たら、どこがどういうふうになるという具体的な予想を知りたいと思います。それと、避難訓練の方法を具体的にどうとは言えないのですが、もう少し実践的な訓練になればと思います。又、避難所で生活するとして、目や耳の不自由な方、外国人で日本語がわからない方へ、タブレットなど利用できるようにするといいのでは。(もう用意してあるかもしれませんが)
30	いつも思うのですが、こんな場所で水害が発生するのかと、大雨の時は早々に(土のう)を引き取りに行き、道路の左側に並べて玄関から庭等に水が入らぬ様にしています。昨年は庭に30cm程の水が入り、これが洪水かと思った。
31	他県から来たので良くわからない・・・山梨県に来てから、役所からのチラシと文書など1度ももらった事などありません。税金は払っているのに。組に入らないから村八分だ。山梨県人のクズヤロー。こんな所こなければよかった。もうおそい。
31	災害で感じたのではないのですが。公衆電話を使おうと思ったとき、使えませんでした。公園に設置してある電話でした。
32	これからも、私達が安全で安心して過ごせるようご尽力くださいますよう、よろしくお願いいたします。私も、いつ起こるか分からない災害に備え、防災グッズなどを用意していきたいと思います。ありがとうございました。
33	アンケート結果を生かしてほしい。
34	基本的に市(行政)が主体となってどう対処するかであり、ボランティア、地域に負荷をかけることはナンセンス。責任の転化ではないか。
35	南アルプス市内に備蓄品は市民に行き渡るくらいあるのでしょうか。あるのなら災害が起こる前に、どの避難場所にどの位のものが、あるのかを事前に周知していただきたいです。
36	アンケートを実施して、あらためて防災への意識が高まりました。地域のこと家のことをもう少し深く考えることが出来ました。さっそく足りないものを用意しようと思います。
37	ペット(犬)がいるので、災害にあったとき避難がどうしたらよいかわからない。ペットも一緒にできる場所がほしい。
38	避難場所はしっていますが、徒歩で移動しますが、道中の様子が分からない。防災リーダー、消防団の誘導が必要(的確な指示)
39	スーパー等と協定を結んで、食料・水等を確保する。
40	災害時の避難場所を教えてください。近くの若草中学校とありますが、学校のどの場所へ避難すれば良いのですか?体育館、それとも教室?明確に場所を教えてください。
41	感震ブレーカーの周知と設置を進めていただきたい。 ウィズコロナ社会になれば、ディスタンスが必要だと思います。大災害で多くの人々が避難所に来た場合には、避難所の収容人数は十分にあるのか心配です。 防災訓練の充実:コロナウイルスによって、近年特に防災訓練がとりやめになったり、役員と組長のみ参加になってしまっているのが現状です。
42	地域の防災・災害に対する話し合いの場を作ってやるべき。 地域での全体のコミュニケーション。
43	桃園地区について:どこに「ヒナン」するか不明確。安全な場所がありません。北小・楡中NG

4 4	適切な情報提供と指示 ライフラインの確保
4 5	市の備蓄品（食料、水、医薬品）の入れ替えの際、それはどのように処分しているのか？ 活用しているのか？どこかに配ったりしているのか？
4 6	市役所・本所の移転 災害発生時には、警察・消防・行政が連携して対策を取らなければならないと思います。 現在の市役所本所は旧櫛形町役場を改装したものであり、駐車場も狭あいであり、警察署・ 消防署ともはなれている。 このため、警察署・消防署に隣接する沢登地区に移転させれば、災害発生時には警察・消 防・行政がすぐ近くとなり、連絡調整及び避難所の開設等にも早期に対応できると考えま す。
4 7	堤防の決壊による水害
4 8	消火器の無料点検と配布
4 9	ペットや小さい子供を連れて避難所に行く場合の、対応はどうなっているのか知りたい。
5 0	アンケートのボリュームが多すぎる。質問内容が重複している様に思う。 アンケートに時間とお金をかけるくらいなら、他の防災に使った方が良い。
5 1	市でながされる放送が全く聞きとれないのですが。長年ずっと変わっていないから、今後 も同じですよ？今現在は、ネットで確認でき、家族に教える事が出来ていますが。
5 2	中越地震、東日本大震災、長野県信濃川洪水と3回、片付けのボランティアに行き、その 甚大な被害を目の当たりにしてきました。備えの大切さと共に自然の力にはどうやっても かなわないと諦めるような気持ちもあります。 私が子どもだった頃から（50年以上も前から）、もうすぐ大きな地震が来るかもしれな いと言われ続け、正直な所、緊迫感も薄れています。もう年金とアルバイトの生活になり、 来ないかもしれない地震のために、大きな労力（財源）は使えません。現実の生活優先で す。 震災後も市は続くので、行政としては何らか手を打たない訳にはいかないでしょうが、個 人レベルではそこまで考えていません。せいぜい生きて後20年、それまでに大きなの が来てしまったら、それも運命だと思っています。地震予知もあてにならないと信じてい ません。
5 3	避難所まで徒歩で20分かかるので遠い。避難所の立地が災害危険ヶ所に指定されている のが不安。
5 4	町の放送が、音が割れて聞きとりにくい。
5 5	休日と普通の昼間では、その場所に在住している人が、極端に違う場合があり、特に人手 が少ない時の、災害対応が心配です。
5 6	私は県外からの移住者ですが、近年、地域の歴史を学ぶ機会があり、今住んでいる地区の 特性を知ることができました。おおよその災害は過去の事例から予測することができるの ではないかと考えます。

	<p>南アルプス市内の各地区に合わせた防災計画が大切ではないかと思えます。また、道路に面しているブロック塀等・崩れはじめて危険な家も多々見うけられます。金銭面で改修や取り壊しが難しいところもあるでしょうが、行政による点検や指導、場合によっては補助等も必要であると思えます。私の住居も順次ブロック塀を改修しておりますが、長い距離を直さなければならないので、すぐには出来ないのが現状です。</p> <p>災害時の対応として、地元消防団が有力な手段ではありますが、慢性的な人員不足や、なり手の不足が目立ちます。消防団や地区、市に頼りきりになるのではなく、自分たちでできる防災活動や災害時の対応・対策を市民に伝えていく（防災Bookの作成や啓蒙等）事も必要と考えます。</p> <p>市の防災予算等もあるでしょうから大変と思えますが、市民一人ひとりが常に防災意識をもてるよう、発信をしていただきたいと思います。</p>
57	<p>私は鏡中条に住んでいて、避難する場所は中条体育館です。しかし、体育館は市の管理でしたが、今度は民間での管理のようです。そうなった場合、避難所として利用できるのか？と思うところです。</p> <p>毎年している防災訓練は意味がありません。市議会・議員があいさつをする・・・そんなのどちらでもよいと思えます。避難した場合のシミュレーションなどをしないと意味がありません、それに、鏡中条地区全体が避難するとしても、狭いのでテント等が必要になります。そういったものがあるのか全然わかりません。</p> <p>防災無線が聞きづらい。まったく理解できない。</p> <p>地震や災害は必ずくると思えます。行政に頼らず一人ひとりの意識が必要と思えますが・・・なかなか前に進めないのが現状かと思えます。</p>
58	<p>しっかり対策することが大事だと思います。</p>
59	<p>コロナが落ち着いたら、防災訓練が活発化すると良いと思えます。防災訓練は一度、平日にしてどのくらいの人が避難するか、連絡のとれない家がどのくらいあるのか、安否確認をどうするのか等を、確認できると安心します。</p>
60	<p>より充実した防災訓練への支援をお願いします。</p>
61	<p>ペットと避難したいです。</p>
62	<p>市役所の皆様には、いつも市民をお支え頂き、心より感謝申し上げます。</p> <p>＝自治会に入っていない世帯について＝</p> <p>私共は、賃貸に住んでおり、自治会には所属しておりません。毎年、市で行われる防災訓練等では、自治会を中心に安否確認・報告訓練等されているようですが、実際、災害が起こった時、自治会に入っていない私共の様な世帯は、どの様に把握され、自主防災活動として何をすれば良いのか、何か決まりごとが有れば知りたいです。実際に災害が起こってしまったら、市で作成されている防災パンフレット・市のハザードマップに沿って、最寄りまたは指定された避難所に、避難させて頂こうと思っておりますが、自治会に所属していない私共の様な世帯が、避難場所で受け入れて頂けるのか、少し心配に思っております。</p> <p>＝防災の知識について＝</p> <p>南アルプス市に起こりうる災害について理解を深め、災害が起こった時に、適切な行動が</p>

	<p>とれるよう、勉強できる場があったら活用したいです。また、災害が起きた時の、市の防災タイムライン及び各地域の窓口サービスの役割も知りたいです。</p> <p>コロナ禍で、人が集まることが難しい時ですので、(私自身、ワクチンが打てない体質なので、人が集まる場所は極力避けております)CATV等を活用して、勉強できる機会がありましたら、活用したいと思います。</p> <p>=市の本庁舎建物について=</p> <p>市の本館は、耐震工事がされているとの事で、一時的には安全な建物になったと思いますが、それは一時的な物であり、築数年も経っていますので、大きな地震が来た時に、本当に大丈夫なのか？日々心配、不安に思っております。</p> <p>今後、将来的な事を考えると、市民の安心安全を守る上で、やはり、今の建物より安全な建物が必要だと思います。今後、バリアフリーで市民が安心して利用できる、安全な建物へ移行出来ますよう、切に願っております。お願い致します。</p>
6 3	<p>何年か前、耐震診断を受けました。(市の仲介)1100万といわれ、老夫婦だけで住んでいる。誰も今から住まない。地震があっても大丈夫な車庫を作ってもらいました。そんなところです。</p>
6 4	<p>家の周りの街灯が少なく夜はとても暗いので、夜災害がおきた時の不安はあります。明るい時ばかりとは限らないので街灯をもっと増やしてほしいです。</p>
6 5	<p>空き家が被災した場合に、二次災害など起こらないか不安。</p>
6 6	<p>コロナウイルスの影響で、防災訓練が中止になったりしています。そういう時だから、訓練をした方が良くと思います。災害は、いつやって来るかわかりません。いろいろな状況で、訓練をする事が大切だと思います。</p>
6 7	<p>災害時にすぐ対応できるよう、各自治体の日頃の訓練が大切と思いますが、私達の地区は非常に遅れていますので、市全体、地区毎等で研修を行っていただき、自治体や防災リーダー等による、しっかりとした防災組織を作してほしいと思います。</p>
6 8	<p>避難場所が本当に適しているか不安です。</p>
6 9	<p>市の防災情報はいい加減なのであてにしないほうがよい。</p> <p>国土交通省の「川の水位情報」、山梨県の「総合河川情報システム」や自宅周辺の中小河川の状況を見て自分で判断するのがベストだと分かった。</p> <p>私の地区は甲府盆地でも富士川(釜無川)、笛吹川、滝沢川、坪川等々が集中する地域なのでかつての滝沢川堤防決壊や昭和 57 年の横川溢水も身をもって経験して恐ろしさは十二分に承知している。</p> <p>2019 年 10 月 11 日～12 日朝台風 19 号による大雨の際は朝からずっと NHK、富士川 CATV、Yahoo!ニュースをつけっぱなしで専門に大雨の情報を収集していた。</p> <p>10 月 12 日午前中どのメディアも「土砂災害による避難勧告(芦安地区)」のテロップが出ていたが、午後には表示されなくなってしまった。</p> <p>10 月 12 日 17 時ごろ雨の音で聞き取りにくかったが、西南湖地区の防災無線で「避難勧告が出ましたので避難所を開設しました」と放送が入る。朝からテレビやネットで情報収集していても分からなかったのにいつの間に西南湖地区に避難勧告が出たのか驚いた。あとで確認したら西南湖地区には避難勧告は出ていなかった。</p>

70	災害の時に、どんな状況なのか、地区の放送でも伝えてもらいたいです。
71	(家族以外の人間が苦手な犬) ペットも連れて避難したいです
72	地域の誰がどんな技術を持っていて、災害の時にどんなことができるか互いに知っておく。
73	小さいときから強制的に防災に関する勉強をする環境が出来れば良いと思う。学校の1コマを使って、1ヶ月に1回のペースでやるなど。わたしに昔からそんな機会があったら、もっと身近に防災について考え、日常生活に防災の要素を取り入れながら生活していたと思う。
74	若い世代は、市の広報誌など手に入れにくいので、市の防災・災害対策等、情報が知りにくい部分があるので、メールや SNS 等を使い、情報発信を今以上にしてほしい。我が家は、乳幼児がいるので、実際に避難所に避難となると、周りに迷惑をかけてしまうことを想定しているので、数日なら車中に寝泊まりできるような準備をしているが、そういった避難所に避難しづらい家庭でも、避難しようと思えるような避難所作りを進めて欲しい。
75	防災時、携帯が使えるようにインフラの整備をお願いします。
76	災害対策の対応をある程度自治会に委ねた場合に自治会未加入者が多い地区ではトラブルの原因にならないか。
77	防災無線がよく聞き取れない。
78	大きな災害時、山梨県は陸の孤島になってしまうので避難所の充実と食糧の備蓄の充実は必須だと思います。もしものための対策が大切だと思うので、他人事ではなく自分自身も考えて協力していきたいと思います。
79	消防団の在り方について。
80	災害時のボランティア活動の必要性及び、行政の関わりを検討することも必要と、考えます。
81	<p>政府は国民を守る為に存在しているが、貨幣観を誤り緊縮財政をし続ける現在の政府は公助の機能を十全に発揮して居ない。政府は消費税を廃止し、正規公務員を増やし、公共事業を増やし、全国民に給付金を配るべきである。通貨発行権を有する日本政府にとって、税金は財源では無い。誰かの赤字が誰かの黒字。政府の赤字が国民の黒字。お金は使った人の財布からは消えるが、別の人の財布に入り、グルグル回る。金は天下の回り物。30年デフレを維持した結果、世界中で日本だけ給料が下がり続け、国民生活は明確に困窮化した。貨幣観を誤り、緊縮財政をし続けたのが原因だ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税は貨幣需要を生み、税が支払える円に価値が生まれ、市場で使用される様になる。是が租税貨幣論である。 ・税は格差縮小の為、累進課税の所得税や法人税等により、過大な所持者の持ち分を減らす。 ・税は政治目的達成の為に。タバコ税はタバコを減らす為、炭素税は炭素排出を減らす為、消費税は消費を減らす為に掛けられている。

故に消費税は稀代の悪税である。紙幣と言う紙切れや、銀行預金と言うデジタルデータは政府が幾らでも無限に発行出来る。政府の貨幣発行を制限するのは、国内の供給能力、即ちインフレ率である。政府は”インフレ率が許す限り”無限に貨幣発行が可能だ。そして現在はデフレ状態である。インフレ率はモノ・サービスが買われれば上昇し、モノ・サービスの供給過剰や貨幣不足等で買われないと下がる。我々の給料はインフレでは上がり、デフレでは下がる。需要増加によるインフレはデマンドプル型と呼ばれ、我々の給料を上げる効果が在る。が、需要増加ではなく石油価格上昇や消費増税等で起こるインフレはコストプッシュ型と呼ばれる、悪性インフレであるのに注意が必要だ。

消費税廃止、正規公務員増、公共事業増、全国民に給付金、これ等は需要創出と成り、巡り巡って我々の給料を増やす。しかし、地方公共団体に貨幣発行権は無いので、政府による地方債買上げや地方交付税交付金の増額が必要である。増税は貨幣需要を高め、人々はモノ・サービスの購入よりも貯蓄行動をする。個々で見たら経済的に正しい判断が、積み重なる事で間違ふ、是を合成の誤謬と言う。そして、今まで緊縮財政をして来たので、財政拡大を否定したり財政拡大に転じるのに心理的葛藤を覚える事を、センメルヴェイス反射や認知的不協和と言う。

9. アンケート結果のまとめ

『1. 南海トラフ地震などの大規模災害について』は、92.3%の人は関心があると回答している一方、大規模災害に対して、「備えが進んでいる」人は11.3%となっている。また、「自宅の倒壊」や「ライフラインの停止」、「安否確認」及び「備蓄食料」の確保などを不安に思っている。

『2. 住まいの防災対策』については、50.2%の人が「被害を受けるかもしれないが、特に何もしていない」と回答しており、「何らかの対策をしている人」は、約1割にとどまっている。家具や家電の固定については、「大部分固定している」人は11.6%。感震ブレーカーを設置している人は19.1%となっている。

『3. 大規模災害に対しての備えについて』は、50.9%の人が「進んでいない」と回答しており、「進んでいる」と回答した人は、11.3%であった。非常食や飲料水を「3日以上」備蓄している人は、4割強となっており、3割弱の人が、「用意していない」と回答した。その不足分の確保については、「コンビニやスーパーで買う」「自治会や行政に頼る」「考えていない」が、大半を占めている。家庭での災害対策については、58.6%の人が、「特に決めていることはない」と回答した。

『4. 避難場所などについて』は、「市で指定された避難場所」を81.3%の人が知っており、49.6%の人が、災害時には「市で指定された避難場所で避難する」と回答している。「水災害時の避難する状況判断」は、「避難指示が発令されたとき」が53.2%、「自分・家族の判断」が20.1%と大半を占めている。

『5. 地域の防災体制について』の、「普段の近所づきあい」については、「立ち話しをする」以上の関係にあると回答した人が、57.8%、「ほとんどつきあいが無い」と回答した人は6.0%であった。「地域の自主防災組織」については、39.6%が「知らない」と回答した。また、「地域の防災力を高めるために必要なこと」は、5割強の人が、「既存の地域コミュニティの強化」と「的確な災害情報の把握及び伝達」と回答した。

『6. 災害時のボランティア活動について』は、条件次第で「参加したい」と77.3%の人が回答した。

『7. 市の防災・災害対策について』は、市に特に力を入れてもらいたいことは、第1に「食料・飲料水・医薬品の備蓄」が53.3%、第2に「ライフラインの復旧情報のすみやかな伝達」が40.5%、第3に「救急・救助・医療体制の充実」が35.5%、第4に「高齢者、障害者等災害時に援助を必要とする方へのすみやかな支援」が29.4%、第5に「道路、橋梁、堤防などの早期復旧」が28.0%であった。「防災マップやハザードマップの所有」については、49.9%の人が「見ることができる」と回答し、「見ることができない」は50.1%であった。